

大野市スポーツ推進計画

市民が、
それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、
健康の増進と競技力の向上が図られ、
豊かで充実した生活を送るまち



令和4年2月
福井県大野市

はじめに

大野市は、スポーツ基本法に基づく「大野市スポーツ推進計画」を平成24年3月に策定し、各種スポーツ施策を推進してきました。この計画の目標の一つであった、「20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が50%になること」については、アンケート調査結果により比較すると、平成28年度の37.2%から、令和2年度は3.4ポイント伸びて40.6%となり一定の成果がありました。

日本人の健康寿命が世界最高水準となり、今後更なる延伸により人生100年時代を迎え、若者から高齢者まですべての人々がそれぞれ活躍し続けることができる社会の実現が求められています。その基盤は一人ひとりの健康な身体であり、スポーツは健康づくりに大きく寄与する活動として私たちの生活に欠かすことができません。

第六次大野市総合計画は、健福祉分野における基本目標として「健幸で自分らしく暮らせるまち」を掲げ、目指す姿を「市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち」としています。

大野市スポーツ推進計画では、この目指す姿を実現するため、スポーツの概念を幅広く捉え、スポーツを「する」に、運動競技だけでなく健康づくりのための体操、介護予防のためのトレーニングも含め、スポーツを「みる」、「ささえる」こともスポーツと定義しています。その上で、4つの基本目標「スポーツ参画人口の拡大」、「スポーツを通じた健康の増進」、「レベルの高い競技者の育成」、「子どものスポーツ活動の充実」に沿った各種施策を展開していきますので、市民の皆さまのより一層のご理解とご協力をお願いします。

本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました「大野市スポーツ推進計画策定委員会」の皆さまをはじめ、市民アンケートに協力いただきました多くの方々に深く感謝申し上げます。

令和4年2月

大野市長

石山志保

目 次

第1章 計画の概要

1 大野市スポーツ推進計画	1
2 計画の目的	1
3 本計画におけるスポーツとは	4
4 関連計画との位置付け	5
5 計画の期間	5

第2章 策定の背景

1 社会情勢の変化	6
2 国や県の状況	6
3 大野市の状況	7

第3章 策定の方向性と基本目標

1 策定の方向性	8
2 目指す姿	8
3 数値目標	8
4 基本目標	9

第4章 施策の展開

1 基本目標ごとの施策と取り組み	11
2 施策の体系	19
3 計画の推進体制	21
4 計画の進行管理	22

参考資料

1 市民アンケート調査結果など	
-----------------	--

第1章 計画の概要

1 大野市スポーツ推進計画

「大野市スポーツ推進計画」は、大野市が目指す将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」実現のため、大野市のスポーツの推進に関する施策を体系化し、今後のスポーツ施策の基本的な方向性を定めた計画です。

2 計画の目的

大野市はこれまで、平成16（2004）年2月に「大野市スポーツ振興計画」を策定し大野市のスポーツ施策を推進してきました。この成果を踏まえ、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条の規定に基づく「大野市スポーツ推進計画」を平成24（2012）年3月に策定しました。この計画では、「①生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ環境の整備充実方策」「②レベルの高い競技者を育成するための方策」「③生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策」を主要な課題と掲げ、スポーツ施策を推進してきました。このうち「20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人（50％）になること」については、平成28（2016）年度と令和2（2020）年度のアンケート調査での結果を比較すると、男性は6.5ポイント上昇し41.9％で、女性は1.0ポイントの上昇で39.5％、全体では40.6％と3.4ポイント伸びてきており、これまでの取り組みの成果が一定程度現れているといえます。



サイクリング体験



ニュースポーツ体験(囲碁ボール)

大野市スポーツ推進計画 市民アンケート結果より抜粋

(1) 運動やスポーツをどの程度行っていますか

男	ほぼ毎日	週4～5	週2～3	週1	月1～3	3か月に1～2	年数日	全くしない	未記入	総計
20代			7	8	5		1	8		29
30代	3		6	10	6	5	7	13		50
40代	4	1	8	11	10	2	6	18		60
50代	1	1	15	6	10	6	7	21		67
60代	4	1	9	15	13		8	31		81
70代	16	10	18	8	7	5	6	29		99
80代					1					1

120

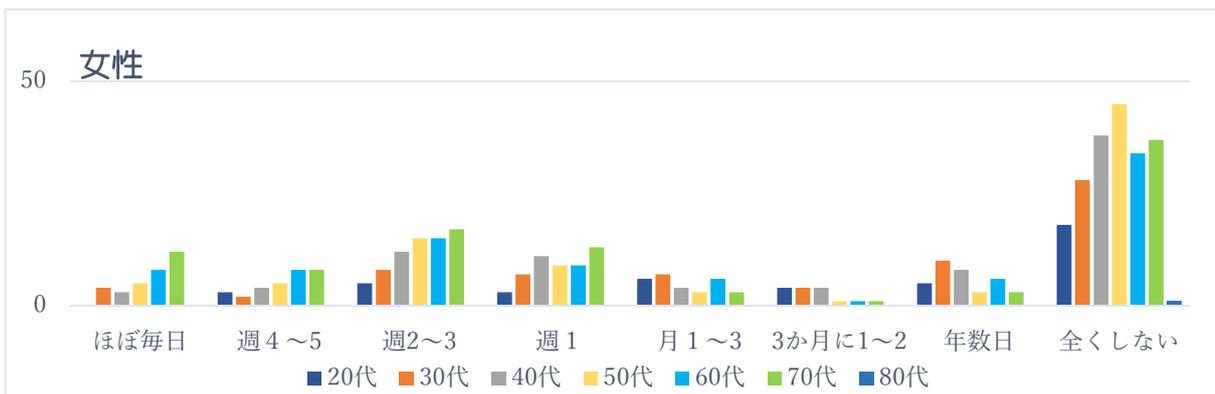
男	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
(合計)週1以上運動	15	19	24	23	29	52	0	162
(再掲)週1以上運動	51.7%	38.0%	40.0%	34.3%	35.8%	52.5%	0.0%	41.9%



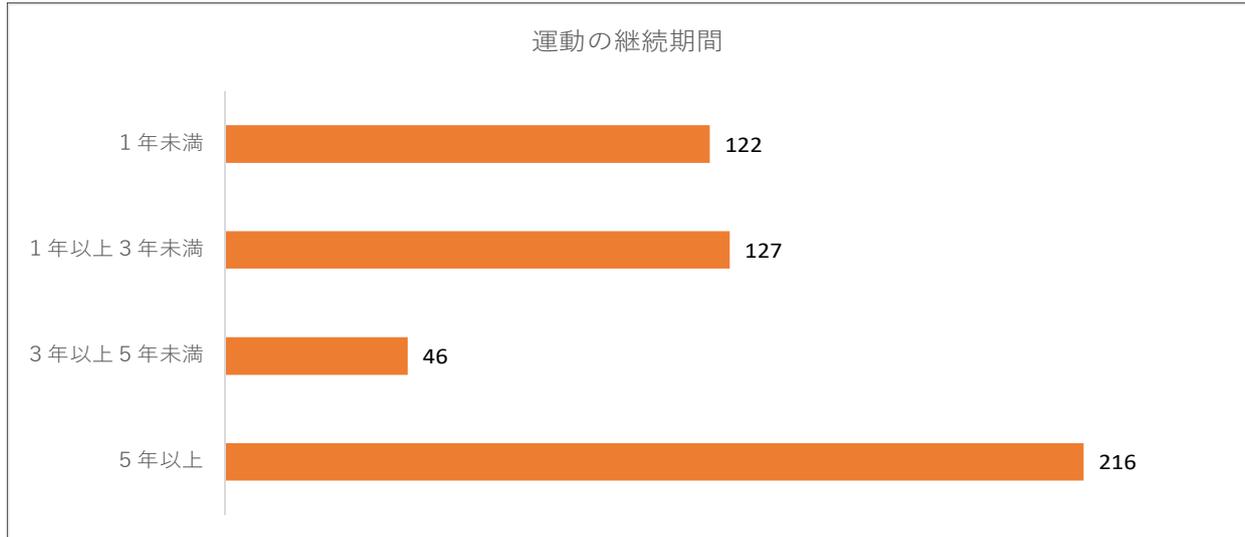
女	ほぼ毎日	週4～5	週2～3	週1	月1～3	3か月に1～2	年数日	全くしない	未記入	総計
20代		3	5	3	6	4	5	18		44
30代	4	2	8	7	7	4	10	28	1	71
40代	3	4	12	11	4	4	8	38		84
50代	5	5	15	9	3	1	3	45		86
60代	8	8	15	9	6	1	6	34		87
70代	12	8	17	13	3	1	3	37	4	98
80代								1		1

201

女	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
(合計)週1以上運動	11	21	30	34	40	50	0	186
(再掲)週1以上運動	25.0%	29.6%	35.7%	39.5%	46.0%	51.0%	0.0%	39.5%



(2) 運動やスポーツはどれくらいの期間続けていますか



調査対象：大野市民 2,000 人（男 1,001 人・女 999 人）

期 間：令和 2 年 1 1 月 1 6 日～令和 2 年 1 2 月 2 1 日

回 答 数：858 人／回収率 42.9%（男 387 人／38.7%・女 471 人／47.1%）

一方、社会情勢の変化に目を向けると、新型コロナウイルス感染症の流行は、国民一人ひとりの日常生活に甚大な影響を及ぼしています。また、SDGs（持続可能な開発目標）*の普及、ICT（情報通信技術）の飛躍的な進展などに対する関心も高まっており、スポーツを取り巻く社会情勢の変化を的確に反映させたスポーツ施策が求められてきています。

このような背景から、大野市は「第六次大野市総合計画」の基本理念・方向性を踏まえつつ、スポーツを取り巻く社会情勢の変化や現状と課題に対応した施策を計画的に推進するため、「大野市スポーツ推進計画」を策定することとしました。

この策定では「第六次大野市総合計画」で、基本目標として掲げる「健幸*で自分らしく暮らせるまち」の実現を目指すこととし、SDGsの視点を取り入れながら大野市の健康づくり計画である「第4次健幸おおの21」との連携を図っています。

* SDGs（持続可能な開発目標）

平成 2 7 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のことで、令和 1 2 (2030) 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。



本計画が目指すゴール

* 健幸

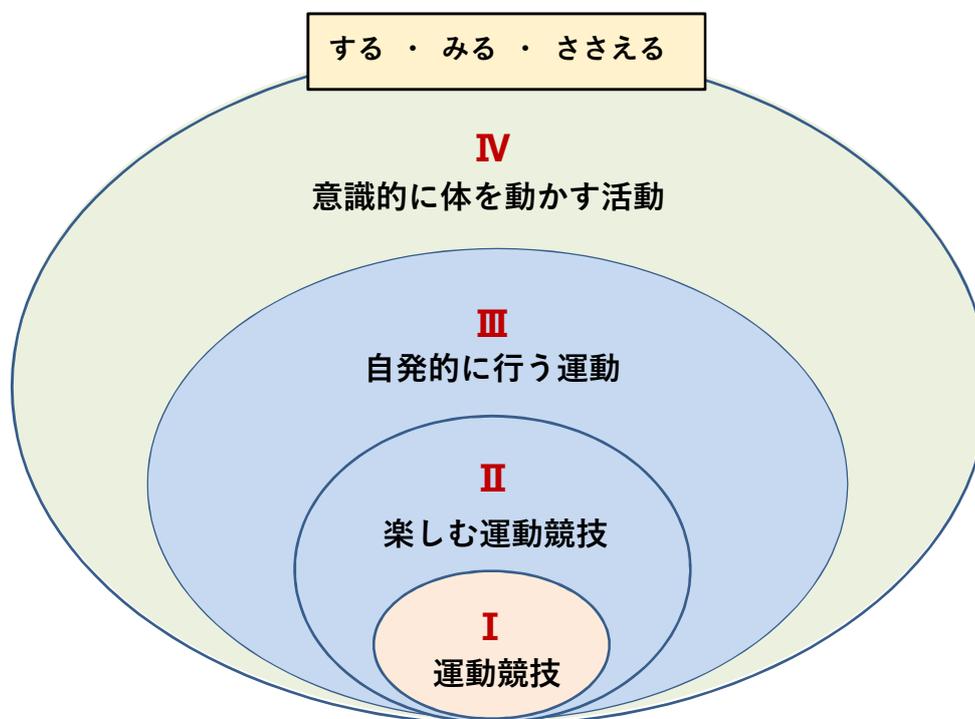
「健幸」+「幸福」の造語で、身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れることを意味しています

3 本計画におけるスポーツとは

スポーツの語源は、ラテン語の「deportare（デポルターレ）」に由来する言葉といわれています。「deportare」の「ある物がある場所から他の場所に移す」の意味から、古フランス語の「desport」の「気晴らしをする、遊ぶ、楽しむ」を経て、現在の「sport」に至ったとされています。この語源にあるように、日常から離れ、気分転換し、楽しむことは全てスポーツといえます。

本計画では、スポーツを通常より幅広い概念で捉え、ルールに基づいて競う運動競技(下記図内Ⅰ)だけではなく、健康づくりのための体操や気分転換に行う散歩、自然に親しむ野外活動、介護予防のためのトレーニングなど自発的に楽しむ運動活動(下記図内Ⅲ)、日常生活において意識的に体を動かす活動など、「する」にスポーツを「みる」、「ささえる」といった活動も含めて全てをスポーツと捉えています。

スポーツのイメージ図

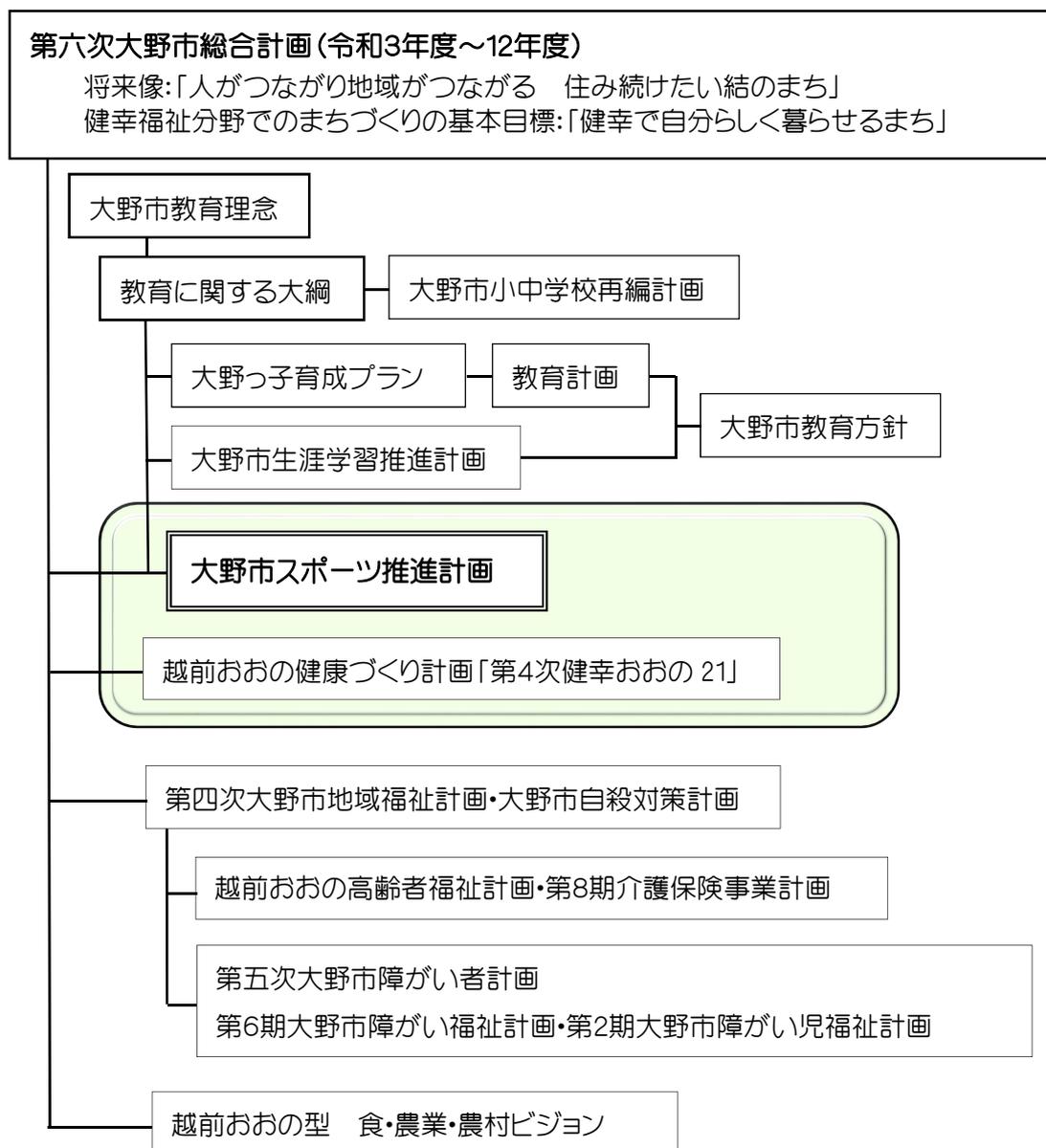


- Ⅳ 通勤、通学、家事、仕事などで意識的に体を動かす活動
- Ⅲ ウォーキング、ジョギング、ラジオ体操など自発的に行う運動
- Ⅱ 草サッカー、草野球、ニュースポーツなど趣味として行うような運動競技
- Ⅰ 競うことを意識した運動競技



4 関連計画との位置付け

大野市が策定した各種計画などとの整合・連携を図ります。



5 計画の期間

本計画は、令和4（2022）年度から概ね10年間で実現すべき目標を設定するとともに、スポーツ分野における具体的な取り組みを推進するための基本的な考え方や施策を示すものです。なお、5年後を目途に検証を行い、社会情勢の変化に応じ計画内容を見直すこととします。

第2章 策定の背景

1 社会情勢の変化

(1) 持続可能な社会への移行

SDGsは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された令和12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール（目標）から構成されており、スポーツは健康、教育、コミュニティ強化などに寄与するものとして期待されています。

(2) 人生100年時代の到来

日本人の健康寿命は世界最高水準であり、さらなる延伸が予想されています。こうした背景を受け、国は「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、若者から高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けることのできる社会の実現を目指しています。人生100年時代の基盤は一人ひとりの健康な身体であり、スポーツは市民の健康づくりに寄与する活動として期待できます。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、全国的にスポーツ施設における利用の制限や感染予防策が講じられています。国が取りまとめた感染拡大を防止しながら安全にスポーツを行うためのポイントや、県が示す「県民行動指針」について、理解し実践することが必要です。

2 国や県の状況

スポーツ庁は、平成29（2017）年3月に「第2期スポーツ基本計画」を策定しました。その中でスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことでスポーツの「楽しさ」「喜び」といった価値を享受できるとし、このようにスポーツに参画する人口を拡大していくため、その目標の一つに20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率を65%以上（福井県も65%以上）にすることを目標に掲げています。また、スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実として、指導者やボランティアの育成・確保、総合型地域スポーツクラブの質的充実やスポーツ施設、オープンスペース（運動が出来る広場）などのスポーツに親しむ場の確保を推進しています。平成30（2018）年9月には「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定し、広く国民全体に向けたスポーツ実施率向上のアプローチに加え、特に課題のあるビジネスパーソン、高齢者、障がい者などを対象に取り組みを推進しています。

文部科学省では、障がい者が活躍できる場のより一層の拡大をめざし、スポーツや文化、生涯学習などの分野における障がい者施策をとりまとめた「障害者活躍推進プラン」を平成31（2019）年4月に策定しました。このプランにおいて、障がい者に対するスポーツへの参画を促す施策が設けられています。

また、令和元（2019）年12月に閣議決定された「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、スポーツ・健康まちづくりという項目が創設されました。国は、地方創生やまちづくりという観点から、スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防に向けた取り組みや、スポーツのしやすい公共空間づくりに力を入れています。

福井県の動向をみると、令和2（2020）年3月に「福井県スポーツ推進計画」を改定し、「1. 県民の誰もがスポーツを楽しめる福井」「2. 運動好きな子どもたちが元気に輝ける福井」「3. 国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井」を福井県の目指す姿として、スポーツ振興施策を推進しています。

3 大野市の状況

大野市は、平成16（2004）年2月に「大野市スポーツ振興計画」を策定、平成24（2012）年3月には「大野市スポーツ推進計画」を策定しました。

平成16（2004）年4月に設立された「みんスポクラブ」は、市内唯一の総合型地域スポーツクラブとして子どもから高齢者まで約300人の会員を有し、スポーツを通じた仲間づくり、健康づくりを推進しています。

また、福井国体などの全国大会を契機とし、市民のスポーツへの関心を高めるための取り組みを推進しています。福井国体などのレガシー事業としては、カヌー教室や市民サイクリング、小学生相撲選手権などを実施しています。

昭和40（1965）年に「市民マラソン」として開催された「越前大野名水マラソン」は、令和3（2021）年で57回に至っています。直近の大会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止やリモートでの開催となりましたが、令和元年（2019）の第55回大会では全国各地から4,648人がエントリー、3,995人が完走しています。沿道では市民が温かく応援し、ボランティアをはじめ、372人の市民が運営に関わるなど、誰もが気軽にスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」形で参加できる事業となっています。



B&G 海洋クラブ カヌー体験



越前大野名水マラソン

第3章 策定の方向性と基本目標

1 策定の方向性

本計画は、大野市が目指す将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」実現のため、社会情勢の変化や国などの動向、これまでの施策や取り組みの成果、アンケートから得られた課題を踏まえ、以下の4点の方向性のもとに策定します。

- (1) スポーツ参画人口の拡大を推進します。
- (2) スポーツを通じた健康の増進を図ります。
- (3) レベルの高い競技者の育成を推進します。
- (4) 子どものスポーツ活動の充実を図ります。

2 目指す姿

市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち

大野市は、社会情勢を的確に捉えながら、国や福井県のスポーツ政策を踏まえ、第六次大野市総合計画の基本目標の一つである「健幸で自分らしく暮らせるまち」を実現するため、「市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち」を目指す姿として掲げます。

3 数値目標

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づく「地方スポーツ推進計画」として位置付けられます。地方スポーツ推進計画は国の「第2期スポーツ基本計画」（平成29（2017）年3月）を参酌して、その地方の実情に即したスポーツ推進に関する計画として定めるように努めるとされ、それぞれ地方自治体は数値目標を定めています。

大野市は、以下の通り数値目標を定めます。この数値目標の達成に向けて、基本目標を定め、施策を展開します。

本計画で掲げる10年後の数値目標

- | | | |
|------------------------------------|-----------------|-------------|
| ・ 市民一人当たりの体育施設利用回数 | 現状：7.66回（令和元年度） | 目標：9回 |
| ・ 週1回以上スポーツ（運動）を実施している市民（20才以上）の割合 | 現状：40.6%（令和元年度） | 目標：50.0% |
| ・ スポーツ指導者公認資格の新規取得者数 | | 目標：80人（累計数） |
| ・ スポーツイベントの開催や誘致 | | 目標：50回（累計数） |

・市民対象のスポーツ教室や各種スポーツ大会の実施

現状：137回（令和元年度）

目標：200回（年間延べ数）

4 基本目標

目指す姿の実現と数値目標を達成するため、「1 策定の方向性」を踏まえ、次の4つの基本目標を掲げます。

基本目標1 スポーツ参画人口の拡大



子どもから高齢者まで、生涯を通じて誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会を創るとともに、継続的な活動につなげる取り組みを推進します。また、特にスポーツ実施率の低い子育て世代や働き盛り世代、障がいのある人、高齢者といった市民の参加などを対象にした取り組みも推進します。

スポーツ活動を支えるボランティアの育成及び指導者の確保に向けた取り組みを推進します。また、地域で仲間とスポーツを楽しむことで、人と人との交流の創出につなげるため、総合型地域スポーツクラブや地域におけるスポーツ団体の活動支援を行います。さらに、スポーツ推進委員やスポーツ支援団体、競技団体との連携を図り、市民の主体的なスポーツ活動を支援する体制を整えます。

スポーツ施設などの計画的な整備や修繕、学校施設の活用を通じて、市民が身近で安全にスポーツができる環境を整えます。

基本目標2 スポーツを通じた健康の増進



市民が生涯を通じて健康的に日常生活を送るために、身体を動かす機会づくりや、スポーツの効果や有効性についての情報発信を拡大します。また、スポーツと健康づくりをともにできる活動の充実を図ります。

基本目標3 レベルの高い競技者の育成



全国大会などへの出場やレベルの高い競技者などとの交流を支援します。また、指導者の資質向上を図る研修会・講習会の開催や、スポーツ指導者公認資格の取得を支援します。

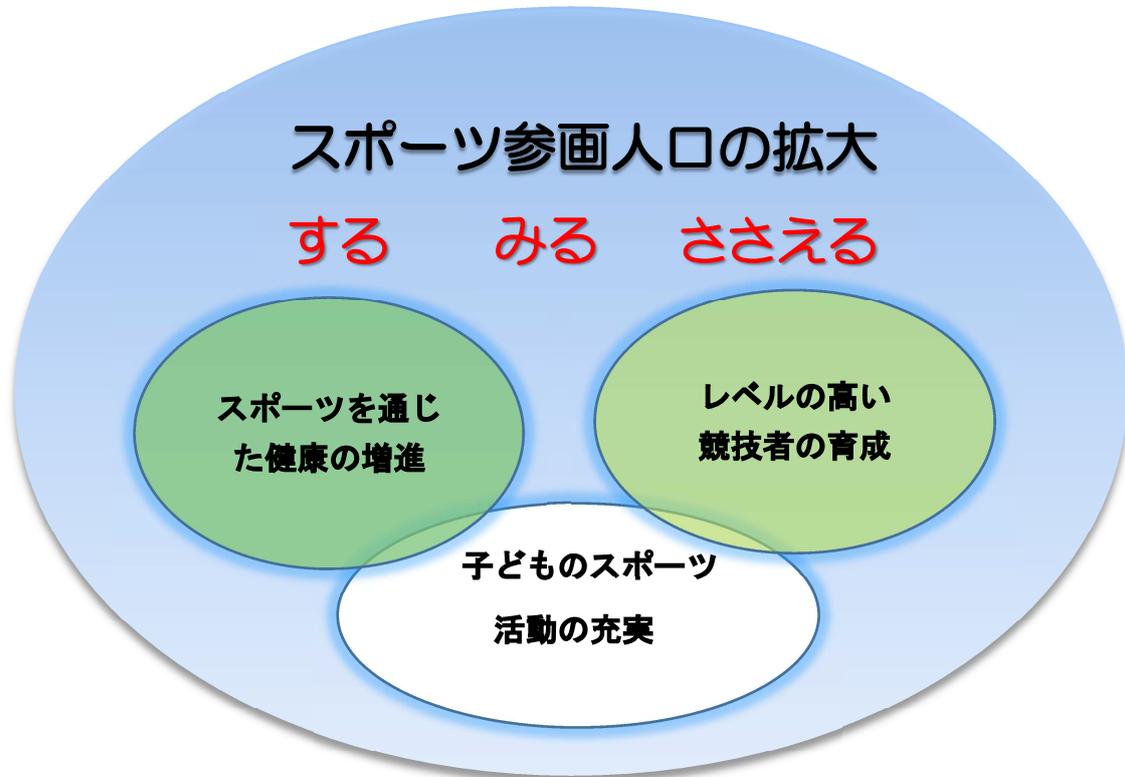
基本目標4 子どものスポーツ活動の充実



子どもたちが様々なスポーツに触れ合うことのできる環境づくりや学校と地域が連携したスポーツ環境づくりを推進します。また、スポーツ少年団や中学生対象のジュニアクラブなど、子どもたちの活動の場となる組織の活動支援を行います。

大野市スポーツ推進計画 施策の体系

4つの基本目標



ACP (アクティブ・チャイルド・プログラム) 教室

第4章 施策の展開

1 基本目標ごとの施策と取り組み

基本目標1 スポーツ参画人口の拡大

施策(1) スポーツ活動に親しむきっかけづくり

スポーツには多様な種目があり、楽しみ方も様々です。また、スポーツをする人にも、年齢や障がいの有無、国籍、体力、技術などの違いがあります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しながら、従来の参加型のイベントに加えて、オンラインによる手法の導入や誰もがスポーツに親しめる機会を充実させます。

① スポーツ教室の開催

市民がスポーツを体験するきっかけとなる場を提供するために、エキサイト広場やB & G 海洋センターなどのスポーツ施設や公民館などを拠点として、スポーツ教室を開催します。働き盛り世代の人たちや高齢者や障がい者の参加の拡大を図るとともにSNSを活用した周知も行います。

② ニュースポーツなどの発掘・推進

誰もが気軽に取り組めるニュースポーツやeスポーツなど新しい形でのスポーツ参加を奨めることで、今までスポーツに関わりが少なかった人も楽しく親しめる活動を推進します。

* eスポーツ(esports)

「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽や競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

③ 越前大野名水マラソンの開催

子どもから高齢者まで多くの市民が参画でき、また全国各地から参加者が集うことで大野市をPRするとともに、人がつながる場として越前大野名水マラソンを開催しています。

大会の運営にあたり、地域振興として関係団体などと連携するほか、市民がボランティアとして参加することで、地域ぐるみで全国に誇れる大会へと創り上げ、コミュニティの活性化や大野市への愛着と誇りが育まれる機会の創出にもつなげます。

④ 観光資源を活用したスポーツ活動の推進

大野市には、日本百名山に選ばれた荒島岳などの美しい山々や名水百選の御清水をはじめ多くの湧水地があること、また夜空がきれいなことから「星空の街」にも選定されるなど豊かな自然に恵まれ、市街地は歴史的な風情や街並みから「北陸の小京都」ともいわれています。市街地の名所を巡るウォーキングや郊外の田園風景の中でのサイクリング、また、九頭竜湖でのカヌーや周辺の山々での登山などのスポーツ活動を推進します。

⑤ スポーツ観戦の機会の創出

「みる」スポーツの推進は、市民のスポーツに対する魅力の実感や関心を高めるなど、重

要な意義を持ちます。楽しみながらスポーツに親しむ市民を増やすため、スポーツイベントの開催や誘致を行います。

⑥ 企業などとの包括連携協定

企業などとの包括連携協定を締結することで、トップレベルのアスリートやプロスポーツチームとの交流やスポーツ体験会を通して、競技スポーツの競技力向上のほか、トップレベルのスポーツに親しめる機会を増やします。

施策(2) 子育て・働き盛り世代のスポーツ活動の推進

子育て世代や働き盛り世代の人々は、家庭や職場において大きな役割を担っていることが多く、スポーツなどの余暇活動に対する優先度が低くなりがちのため、スポーツ実施率も低くなっています。この世代のスポーツ活動を促進することは、20歳以上の週1日以上スポーツ実施率の向上に大きく寄与すると考えられます。

子育て・働き盛り世代が気軽に、楽しみながらスポーツ活動が実践できるよう、親子でスポーツに参加できる機会や仕事を抱えていても身近な場所でスポーツができる環境を整えます。

① 子育て世代のスポーツ活動への参加推進

子育て中の親が安心してスポーツに取り組めるよう、親子で楽しむことができる運動教室やスポーツ体験における親子参加型事業の充実に取り組みます。

② 働き盛り世代の運動活動への参加推進

健康づくりの観点から働き盛り世代が日常的に運動活動に取り組めるよう、関係課と連携し、ヘルスウォーキングプログラムやラジオ体操などの健康運動体験会への参加の働き掛け、また通勤などでの自転車利用の呼び掛け、日常生活でのちょっとした工夫が運動につながることの周知などにより、運動の実践を促します。



トレーニングマシン体験教室

③ 夜間のスポーツ活動の推進

働き盛り世代が仕事帰りに気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツ施設における夜間の利用を推進します。

施策(3) 高齢者のスポーツ活動の推進

人生100年時代を迎え、高齢者が健康でいきいきと暮らすために、体力の維持や増進、身体を動かす習慣の重要性が高まっています。

高齢者のスポーツ活動をさらに促進させるために、一人ひとりの体力に応じて参加できる各種教室を開催します。

① 高齢者向けスポーツ教室の開催

スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくり、人と人との交流を促進するため、高齢者が気軽に参加できるよう多様な種目によるスポーツ教室や催し物を実施します。また、スポーツ推進委員と連携して、ニュースポーツを取り入れた教室も実施します。

施策(4) 障がい者のスポーツ活動の推進

障がい者が気軽にスポーツに親しみ、楽しみながら参加できる教室などの実施と環境の充実に図ります。

① 障がい者スポーツ教室の開催

障がいのある人を対象に、いすやマットを利用した簡単なストレッチやタオルなどを使った運動、自分で動かせる範囲で身体を動かし、筋力トレーニングや健康の増進を図れるような体操教室などを開催します。

② 障がい者スポーツの理解の推進

障がい者スポーツに携わる人のみならず、障がい者スポーツへの理解を深めることができるよう、障がい者スポーツを題材とした研修などを実施します。

③ 障がい者スポーツ体験会やイベントの開催

障がいの有無にかかわらず誰もが一緒にスポーツの楽しさに触れ、スポーツの魅力や価値を共有する機会として、障がい者スポーツ体験会やイベントを開催します。

施策(5) スポーツボランティアの育成と活用

市内で開催される各種スポーツの場面で、市民のスポーツ活動を支える人材の育成に取り組みます。

① スポーツボランティア活動の普及と定着

スポーツを「ささえる」活動が継続されるよう、関係団体との連携を図り、スポーツボランティア活動の普及と体制の整備、活躍ができる機会の充実に図ります。

施策(6) スポーツ団体などの支援の充実

スポーツは一人ではなく仲間とともに行うことで、体力の維持や健康増進などの効果に加え、競い合う心や仲間意識、団結力が芽生え、活動意欲が高まります。スポーツをする仲間が増えることにより、地域における新たなつながりの創出も期待できます。

スポーツを通じた仲間づくりやコミュニティ形成を推進するため、大野市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ団体の活動を支援することで、市民がスポーツに参加する機会を創ります。

① スポーツ団体などへの支援

大野市におけるスポーツ指導者の育成やスポーツ振興を図るため、大野市スポーツ協会や社会体育団体などを支援します。

② 総合型地域スポーツクラブ（みんスポクラブ）の活性化

みんスポクラブは、地域で身近にスポーツを楽しめる場であり、大野市が推進するスポーツ振興の一翼を担う存在であることから、ホームページやSNSなどを活用した周知活動や活動の場の確保を支援し、認知度向上と活性化を図ります。

③ スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員は、行政と地域をつなぐ調整役として地域スポーツの振興に取り組むとともに、地域住民の健康や生きがい、交流活動を推進しています。

スポーツ推進委員の資質向上に向け、障がい者スポーツや誰もが気軽に取り組めるニュースポーツを推進するための研修を実施するなどの活動を支援します。



ゴールボール（パラスポーツ）

④ 競技団体との連携

地域社会におけるスポーツの発展を目的として、競技団体と連携して、スポーツ事業を推進します。

施策(7) スポーツ施設などの計画的な整備と利便性の向上

市内には、エキサイト広場や真名川憩いの島、B & G海洋センターなど、多様なスポーツ施設があります。市民が身近な場所で、気楽に安全で安心して多くのスポーツ活動を楽しめるように、利用者の要望も踏まえながら、計画的に整備を行っていきます。併せて利用予約の電子申請化など利便性の向上にも取り組んでいきます。

施策(8) 学校施設の活用の推進

市内の小・中学校は、学校施設の開放を通じて、市民の身近なスポーツ活動の場として親しまれています。校庭や体育館などの施設を、学校教育上支障のない範囲で提供し、さらに活用を推進します。

施策(9) スポーツ情報の提供

市民の主体的なスポーツ活動を支えるためには、施設予約、利用案内などの活動場所に関する情報や教室、講座などの開催事業に関する情報、団体の活動情報など、多様な情報を効果的に提供していくことが重要です。大野市の広報紙や掲示板、ホームページ、SNSなど多様な媒体によりスポーツに関する情報を、市民が得やすいように幅広く提供し、市民の「する」、「みる」、「ささえる」スポーツ活動を推進します。

① SNSなどを活用した情報の提供

SNSなどを活用し、スポーツ教室などの開催情報やスポーツ施設の情報などの提供に取り組めます。

② 市ホームページの充実

市ホームページを活用し、広く市民にスポーツやレクリエーション、スポーツ団体の情報を提供できるように取り組めます。

基本目標2 スポーツを通じた健康の増進

施策(1) 健康づくりのためのスポーツの推進

生涯を通じて元気にいきいきと暮らすためには、健康づくりが重要です。健康な身体を保つことは、スポーツを継続的に楽しむ上でも大切な基盤となります。誰もが参加しやすい事業を実施するとともに、健康づくりに向けたスポーツの効果や有効性などの情報を発信していきます。

① ヘルスウォーキングプログラムの実施

ウォーキングや健康づくり事業に参加することで、ポイントを貯め商品券などと交換できるヘルスウォーキングプログラムを実施しています。

市民に継続した運動と健康づくりについて関心を高めてもらうため、各種スポーツ教室とも連携を図りながら、事業を充実していきます。

② 健康づくり自主グループの育成及び支援

ヘルスウォーキングプログラムや健康教室などの参加者を主体として、健康づくり自主グループの育成を図るとともに、情報提供やポスター・チラシを施設に掲示するなどの支援をします。

③ サイクリングの利活用促進

ジャパンエコトラックや九頭竜ぐるっとペダルで紹介しているコースの距離や高低差、所要時間などをまとめたサイクリングのルートマップを利用して、身近で無理のないサイクリングを推奨します。また、通勤などでの日常的な自転車利用を呼び掛け、自転車の利用促進と運動習慣の定着を図ります。



④ ラジオ体操の普及

ラジオ体操は国民の体力向上や健康の保持増進を図る目的で始まった国民的な体操です。一つひとつの動きを丁寧に行うことで、しっかりとした運動になります。ラジオ放送時以外でも親しみやすい手軽な健康づくりであることから、様々な機会を通じて普及を図っていきます。

⑤ ニュースポーツなどの発掘・推進 【再掲】1-(1)-②

誰もが気軽に取り組めるニュースポーツやeスポーツなど新しい形でのスポーツ参加を奨めることで、今までスポーツに関わりが少なかった人も楽しく親しめる活動を推進します。

⑥ 働き盛り世代の運動活動への参加推進 【再掲】1-(2)-②

健康づくりの視点から働き盛り世代が日常的に運動活動に取り組めるよう、関係課と連携しヘルスウォーキングプログラムやラジオ体操などの健康運動体験会への参加の働きかけ、また通勤などでの自転車利用の呼びかけ、日常生活でのちょっとした工夫が運動につながることの周知などにより、働き盛り世代の運動の実践を促します。

⑦ 高齢者向けスポーツ教室の開催 【再掲】1-(3)-①

スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくり、人と人との交流を促進するため、高齢者

が気軽に参加できるよう多様な種目によるスポーツ教室や催し物を実施します。また、スポーツ推進委員と連携して、スポーツ教室で高齢者が気軽に楽しみながら体を動かすことができるニュースポーツを取り入れた教室も実施します。

⑧ 障がい者スポーツ教室の開催 【再掲】 1 - (4) - ①

障がいのある人を対象に、いすやマットを利用した簡単なストレッチやタオルなどを使った運動、自分で動かせる範囲で身体を動かし、筋力トレーニングや健康の増進を図れるような体操教室などを開催します。

施策(2) スポーツと健康づくり活動の連携

関係課との連携と強化し、スポーツを通じた健康づくり活動の充実を図ります。

① ヘルスウォーキングプログラムの実施 【再掲】 2 - (1) - ①

ウォーキングや健康づくり事業に参加することで、ポイントを貯め商品券などと交換できるヘルスウォーキングプログラムを実施しています。

市民に継続した運動と健康づくりについて関心を高めてもらうため、各種スポーツ教室とも連携を図りながら、事業を充実していきます。

② 介護予防などに向けた取り組みの展開

加齢に伴い進行するといわれている認知機能の低下をはじめ、心身の活力が低下した状態である、フレイル*を防止する取り組みが注目されています。身近な場において介護予防や認知症予防に向けた身体活動の取り組みの充実を図ります。

③ 健康な身体づくりに向けた食育の推進

健康な身体づくりには、体の発達や体力、生活習慣、食生活に関する正しい知識と行動を身に付けることが必要です。市民が生涯にわたり健康と体力を維持するための食育を推進します。

*フレイル

加齢に伴い身体の前備能力が低下し、健康障害を起こしやすくなった状態、いわゆる「虚弱」のことで、言い換えれば介護が必要になる前段階とも表現できます。

基本目標3 レベルの高い競技者の育成

施策(1) 全国大会などへの出場やレベルの高い競技者などとの交流支援

スポーツは、できなかったことができるようになることや、技術が向上するといったことなどにより、成長と共に喜びを実感する機会となります。

スポーツの発展のためには、気軽に取り組める生涯スポーツの推進と同時に、高い技術の習得などを目指した競技スポーツを推進することが重要です。市民の競技スポーツへの参加を促すため、全国レベルの大会への出場やレベルの高い競技者との交流を支援します。

① 全国レベルの大会への出場支援

市民の競技スポーツへの関心を高めるため、県大会で選抜されて出場する一定規模以上の大会や国民体育大会、国際大会に出場する市民、団体を支援するとともに広く周知します。

② トップアスリート及びチームとの交流

スポーツ技術を極めたトップアスリートから助言や指導を受けることは、技術の向上や取り組む姿勢、競技の歴史などを学ぶ絶好の機会です。トップアスリートやチームから直接指導を受ける各競技団体主催のスポーツ教室や交流事業を支援します。

③ 企業などとの包括連携協定【再掲】1 - (1) - ⑥

企業などとの包括連携協定を締結することで、トップレベルのアスリートやプロスポーツチームなどとの交流やスポーツ体験会などを通して、競技スポーツの競技力向上のほか、トップレベルのスポーツに親しめる機会を増やします。

施策(2) スポーツ指導者の育成

市民が、自らの体力や技能に応じてスポーツを実践し、楽しさや意義を実感しつつ、その能力を高めていくためには、適切なアドバイスや声掛けのできる指導者の存在が重要です。生涯スポーツや競技スポーツの実践の場、部活動の場において、充実した指導のできる人材の育成を図ります。

① 指導者の資質向上

指導者の資質向上と相互の情報交換を図るための研修会や講習会を開催します。

② 一貫指導体制の構築

ジュニア期からトップレベルまでの一貫した指導体制の構築に向けて大野市スポーツ協会加盟団体などの競技別スポーツ組織の取り組みを支援します。

③ 公認スポーツ指導者の資格取得の推進

指導を行う上で、指導者としての心構えや自覚、最新の指導技術を身に付けてもらうため、(公財)日本スポーツ協会などの公認スポーツ指導者の資格取得について支援します。

基本目標4 子どものスポーツ活動の充実

施策(1) 子どものスポーツ活動の推進

子どもの頃からスポーツ活動に親しむことは、体力・運動能力の向上が期待できるとともに、生涯を通じて、楽しみながらスポーツに取り組みようとする意識の向上や運動習慣の確立につながります。

未就学児に対して、身体を動かす楽しさを伝える取り組みであるACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)*を通じて、子どものスポーツに対する興味や関心、体力の向上をめざした取り組みの充実を図ります。



小学生スキー教室

① 子どものスポーツ体験機会の充実

小学生を対象としたスポーツ教室やスポーツ大会を開催するほか、様々な競技団体と連携

することで、子どもがスポーツに触れる機会の充実を図ります。

② 幼児の体力増進の取り組み

就学前の幼児期から小学校低学年において、身体を動かすことの楽しさを経験することは、その後も継続してスポーツに親しんでいくきっかけとなります。幼児から小学校低学年を対象に、ACPを活用した事業を実施します。

* ACP (アクティブ・チャイルド・プログラム)

日本スポーツ協会が開発したプログラムで、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを、楽しみながら積極的にからだを動かしながら習得する運動プログラムです。



小中学生初めてのロードバイク体験会

施策(2) 学校と地域が連携したスポーツ環境づくり

児童・生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築していくため、学校と地域が連携し、それぞれの目的に応じた多様な形でのスポーツが実施されるよう調整を行います。

① 部活動の地域移行の条件整備

運動部の部活動における外部指導者について、地域の指導者のリストアップなどにより、地域の協力が得やすい体制づくりを進めます。また、土日活動の地域での受け入れなど、国や県のモデル事業の状況などを踏まえ、大野市での取り組みについて検討します。

② 指導者の資質向上 【再掲】 3 - (2) - ①

指導者の資質向上と相互の情報交換を図るための研修会、講習会を開催します。

③ 公認スポーツ指導者の資格取得の推進 【再掲】 3 - (2) - ③

指導を行う上で、指導者としての心構えや自覚、最新の指導技術を身に付けてもらうため、(公財)日本スポーツ協会などの公認スポーツ指導者の資格取得について支援します。

④ 総合型地域スポーツクラブ(みんスポクラブ)の活性化 【再掲】 1 - (6) - ②

みんスポクラブは、地域で身近にスポーツを楽しめる場であり、大野市が推進するスポーツ振興の一翼を担う存在であることから、ホームページやSNSなどを活用した周知活動や活動の場の確保を支援し、認知度向上と活性化を図ります。

施策(3) 子どもたちの活動の場となる組織の活動支援

① スポーツ少年団への支援

子どもたちが多様な種目のスポーツが楽しめるよう活動を支援します。

② ジュニアクラブなどへの支援

中学生以上を対象としたジュニアクラブなどの活動を支援します。

2 施策の体系

4つの基本目標に沿って展開する施策を次のとおり示します。

大野市が目指す将来像

人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち

将来像実現のための基本目標

健幸で自分らしく暮らせるまち



目指す姿

市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち

目指す姿実現のための基本目標

- 基本目標 1 スポーツ参画人口の拡大
- 基本目標 2 スポーツを通じた健康の増進
- 基本目標 3 レベルの高い競技者の育成
- 基本目標 4 子どもたちのスポーツ活動の充実

基本目標ごとの施策と取り組み

基本目標	施策	施策に対する取り組み	主体（市以外）				各主体のスポーツとの関わり方			
			市民	地区	スポーツ団体等	スポーツ推進委員	する	みる	ささえる	
1 スポーツ参画人口の拡大	(1) スポーツ活動に親しむきっかけづくり	① スポーツ教室の開催		○	○		○			
		② ニュースポーツ等の発掘・推進		○		○	○		○	
		③ 越前大野名水マラソンの開催	○	○	○	○	○	○	○	
		④ 観光資源を活用したスポーツ活動の推進		○	○		○	○	○	
		⑤ スポーツ観戦の機会の創出			○			○	○	
		⑥ 企業等との包括連携協定			○		○	○	○	
	(2) 子育て・働き盛り世代のスポーツ活動の推進	① 子育て世代のスポーツ活動への参加推進		○	○	○	○			
		② 働き盛り世代の運動活動への参加推進		○	○	○	○			
		③ 夜間のスポーツ活動の推進		○	○	○	○			
	(3) 高齢者のスポーツ活動の推進	① 高齢者向けスポーツ教室の開催		○	○	○	○			
	(4) 障がい者のスポーツ活動の推進	① 障がい者スポーツ教室の開催		○	○	○	○			
		② 障がい者スポーツの理解の推進		○	○	○	○	○	○	
		③ 障がい者スポーツ体験会やイベントの開催		○	○	○	○	○	○	
	(5) スポーツボランティアの育成と活用	① スポーツボランティア活動の普及と定着	○	○	○	○			○	
	(6) スポーツ団体等の支援の充実	① スポーツ団体等への支援			○		○		○	
		② 総合型地域スポーツクラブ（みんスポクラブ）の活性化			○		○		○	
		③ スポーツ推進委員の活動支援				○	○		○	
		④ 競技団体との連携	○	○	○	○	○		○	
	(7) スポーツ施設等の計画的な整備と利便性の向上					○	○			
	(8) 学校施設の活用推進					○	○			
	(9) スポーツ情報の提供	① SNS等を活用した情報の提供	○	○	○	○	○	○	○	
		② 市ホームページの充実					○	○	○	
	2 スポーツを通じた健康の増進	(1) 健康づくりのためのスポーツの推進	① ヘルスウォーキングプログラムの実施		○			○		
			② 健康づくり自主グループの育成及び支援					○		○
			③ サイクリングの利活用促進	○		○		○		○
			④ ラジオ体操の普及	○			○	○		
			⑤ ニュースポーツ等の発掘・推進【再掲】		○		○	○		○
⑥ 働き盛り世代の運動活動への参加促進【再掲】				○	○	○	○			
⑦ 高齢者向けスポーツ教室の開催【再掲】				○	○	○	○			
⑧ 障がい者スポーツ教室の開催【再掲】			○	○	○	○				
(2) スポーツと健康づくり活動の連携	① ヘルスウォーキングプログラムの実施【再掲】		○			○				
	② 介護予防等に向けた取り組みの展開		○			○	○			
	③ 健康な身体づくりに向けた食育の推進	○	○			○		○		
3 競技レベルの育ちの成長	(1) 全国大会等への出場やレベルの高い競技者等との交流支援	① 全国レベルの大会への出場支援					○	○		
		② トップアスリート及びチームとの交流					○	○		
		③ 企業等との包括連携協定【再掲】			○		○	○	○	
(2) スポーツ指導者の育成	① 指導者の資質向上	○		○				○		
	② 一貫指導体制の構築	○		○				○		
	③ 公認スポーツ指導者の資格取得の促進	○		○				○		
4 活き活きとした子どもの実スポーツ	(1) 子どものスポーツ活動の推進	① 子どものスポーツ体験機会の充実	○	○	○	○	○			
		② 幼児の体力増進の取り組み	○		○	○	○			
	(2) 学校と地域が連携したスポーツ環境づくり	① 部活動の地域移行の条件整備	○	○	○		○		○	
		② 指導者の資質向上【再掲】	○		○				○	
		③ 公認スポーツ指導者の資格取得の促進【再掲】	○		○				○	
		④ 総合型地域スポーツクラブ（みんスポクラブ）の活性化【再掲】			○		○		○	
	(3) 子どもたちの活動の場となる組織の活動支援	① スポーツ少年団への支援	○				○		○	
		② ジュニアクラブ等への支援	○		○		○		○	

3 計画の推進体制

(1) 推進体制

「大野市スポーツ推進計画」の推進に当たっては、市民や行政だけではなく、地域の様々なスポーツ関係機関や団体などが、それぞれ主体的にスポーツを推進するとともに、連携、協働して取り組みを進めます。

また、幅広い分野からの意見を収集することを目的として設置している「大野市スポーツ推進審議会」において、大野市のスポーツ事業の推進に関して必要な助言を受けるとともに、本計画の進捗状況を定期的に報告します。

(2) 各主体の役割

効果的な計画の推進に向けて、以下のそれぞれの役割を積極的に果たしていくことが求められています。

① 市民

「する」、「みる」、「ささえる」の3つのスポーツの関わり方を通じて、一人ひとりが生涯を通じて、気軽にスポーツに親しみ、充実した生活を送ることが求められます。これまでスポーツを行っていなかった市民は、身近な場所で体を動かすことや、「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツへの参加を含めて、スポーツに何らかの形で参加するきっかけを持つことが求められます。

② 各地区

それぞれの地区で個性や工夫をこらした、地区住民が参加しやすいスポーツ大会やイベントの開催が求められます。また、スポーツ活動を通じて、地域住民のコミュニケーションが促進され、スポーツによる活力のある地域づくりの推進が図られます。

③ 各種スポーツ団体など

多世代、多様な種目のスポーツが楽しめる活動機会の提供、スポーツ教室や催し物の開催などによるスポーツ活動の拡充が求められています。

④ スポーツ推進委員

市民の身近な立場で、市民のニーズに合わせたスポーツの普及、実技の指導、助言などを積極的に推進していくことが必要です。

また、市民や団体とスポーツ指導者の調整など、市内の人材や団体のニーズを把握し、調整やとりまとめをしていく役割が求められています。

⑤ 大野市（行政）

市民がいつでも、どこでも、誰でも、いつまでもスポーツができるよう、情報の提供や活動の場、機会の充実など、市民のスポーツ活動の支援やスポーツ環境の整備を行います。

地域の特性を生かしたスポーツ事業の実施に向け、公民館との連携を強化するほか、高齢者福祉、障がい者福祉、健康づくり、子育て、学校教育など、関係課ともスポーツを視点とした連携を図り、スポーツ事業の推進を図ります。

4 計画の進行管理

本計画に掲げた施策は、計画【Plan】－実行【Do】－点検・評価【Check】－見直し・改善【Action】のサイクルで着実に推進していく必要があります。

このため、関係団体、外部の有識者などで構成する「大野市スポーツ推進審議会」において、毎年進捗状況の点検評価を行い、関係団体などと連携し、本計画の適切な進行管理を行います。



B & G塾 スラックライン教室 ・ SUP体験



奥越ふれあい駅伝大会

元気にいきいきと暮らすために！
週1回以上運動をしよう
気軽にスポーツをはじめよう



参考資料

市民アンケート調査結果等

市民のスポーツの実施状況やスポーツに関する意識、またスポーツ団体や学校部活動の現状や展望などを調査し、新たなスポーツ推進計画を策定するにあたっての課題を整理するため、アンケートを実施しました。

『市民』

調査対象：大野市民 2,000 人（男 1,001 人・女 999 人）
期 間：令和 2 年 1 月 1 6 日～令和 2 年 1 2 月 2 1 日
回 答 数：858 人／回収率 42.9%（男 387 人／38.7%・女 471 人／47.1%）

『スポーツ協会加盟団体』

調査対象：大野市スポーツ協会加盟団体 33 団体
※地区体協、小体振、中体連、連合ふわわを除く
期 間：令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数：23 団体／回収率 69.7%

『スポーツ少年団・中学生ジュニアクラブ』

調査対象：大野市スポーツ少年団 26 団体 中学生ジュニアクラブ 2 団体
期 間：令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数：17 団体／回収率 60.7%

『中学校・高等学校』

調査対象：市内中学校 5 校 市内高等学校 2 校
期 間：令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数：7 校／回収率 100%

『社会福祉施設（障がい者施設）』

調査対象：市内障がい者施設 5 施設
期 間：令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数：4 施設／回収率 80%（入所・通所施設 2、通所施設 2）

大野市スポーツ推進計画 アンケート結果（本市の現状）

1 市民アンケート

(1) 調査概要

調査対象	大野市民 2,000 人（男 1,001 人・女 999 人） 【内訳】 年代別、男女別 20 歳代 : 340 人（男 170 人・女 170 人） 30 歳代 : 340 人（男 171 人・女 169 人） 40 歳代 : 330 人（男 165 人・女 165 人） 50 歳代 : 330 人（男 165 人・女 165 人） 60 歳代 : 330 人（男 165 人・女 165 人） 70 歳代 : 330 人（男 165 人・女 165 人） 地区別 大野地区 : 800 人（男 400 人・女 400 人） 下庄地区 : 522 人（男 261 人・女 261 人） 乾側地区 : 48 人（男 24 人・女 24 人） 小山地区 : 116 人（男 58 人・女 58 人） 上庄地区 : 225 人（男 112 人・女 113 人） 富田地区 : 176 人（男 88 人・女 88 人） 阪谷地区 : 79 人（男 40 人・女 39 人） 五箇地区 : 4 人（男 3 人・女 1 人） 和泉地区 : 30 人（男 15 人・女 15 人）
期 間	令和 2 年 1 1 月 1 6 日～令和 2 年 1 2 月 2 1 日
回 答 数	858 人／回収率 42.9%（男 387 人／回収率 38.7%・女 471 人／47.1%）

(2) 現状

ア 運動やスポーツの実施状況

- ・週 1 回以上行っている人の割合は、男性が 41.9%、女性が 39.5%で、男女とも 40%程度となっている。5 年前の調査と比較すると男性が 6.5 ㊦、女性が 1.0 ㊦上昇している。
- ・全くしていない人の割合は 37.4%（男性 31.0%、女性が 42.7%）で、5 年前と比較すると 21.5 ㊦減少している。
- ・運動やスポーツを行っている人への「いつから継続しているか」の設問では、半数以上の 57.7%がこの 5 年以内と回答しているので、上記の結果につながっている。
- ・運動やスポーツを「誰と一緒にするか」の設問では、「一人で」、「家族と」が全体の 70%を占め、「どこで行っているか」の設問では、その他が最も多く、その内訳を見ると「自宅周辺」、「市内・道路」、「亀山」などが多い。次いで「奥越ふれあい公園」や「市内の体育施設」となる。
- ・「どのような運動やスポーツをしているか」の設問では、「ウォーキング」が圧倒的に多く、次いで「ジョギング」、「ゴルフ」、「筋トレ」、「ストレッチ・ヨガ」と続く。
- ・運動やスポーツを全くしていない理由で最も多い回答が「仕事等で時間がない」、次いで「身体上・健康上の理由」、「運動やスポーツが苦手」、「一緒にする仲間がいない」、「その他（めん

どう、きっかけがない、趣味や家事で時間がない、介護、妊娠・育児など)」の順。

- ・全くしない人に「運動やスポーツの必要性を感じているか」の設問では、「とても感じている (15%)」、「感じている (33%)」、「少しは感じている (34%)」で82%を占める。

イ 市スポーツイベント、スポーツ教室等の認知度、必要性など

- ・過去3年間の市スポーツイベントには70%余りの人が参加していない。参加したイベントでは、「名水マラソン」が最も多く、次いで「市民総合体育大会」、「健康・食守フェスタ」、「市民総合体育大会」の順。
- ・今後も継続が必要なスポーツイベントとしては、「名水マラソン」が最も多く、次いで「健康・食守フェスタ」、「奥越ふれあい駅伝」、「市民総合体育大会」と続き、その次に「特になし」が多い。
- ・市スポーツ教室について「知らない (53%)」が「知っている (45%)」を上回っている。
- ・「どのような運動・スポーツ教室に参加したいか」の設問では、「健康増進のためのもの」、「気楽に参加できるもの」、「ゆっくり歩けるウォーキング」と比較的手軽なものが続く。

ウ 地区スポーツ大会の必要性など

- ・約半数 (48%) が地区のスポーツ大会 (地区体育大会など) に参加したことがある。
- ・「地区のスポーツ大会は今後も継続が必要か」との設問では、「必要だと思う」が35%に留まっている。

エ みんなスポクラブ (総合型地域スポーツクラブ) の認知度

- ・「知らない (50%)」が「知っている (45%)」を上回っている。

エ 行政に望むこと (スポーツ施設に関することを含む)

- ・運動やスポーツをさらに振興させるために「行政が力を入れると良いこと」の設問では、「施設の整備」が最も多く、次いで「イベント・教室等の開催」、「クラブ・サークル活動の育成支援」、「運動やスポーツを通じた出会いや交流の促進」、「ジュニア期のスポーツ活動の支援」と続く。
- ・施設に関する要望としては、「利用案内の充実」、「利用手続きの簡素化」、「教室・イベントの充実」、「健康・スポーツ関連情報の充実」、「バリアフリー化」の順が多い。

オ 大野市で盛んになってほしいスポーツ

- ・「スキー・スノーボード」、「サッカー」、「野球」、「登山・クライミング・ボルダリング」が多く、「ウォーキング」、「自転車 (ロード・クロス)」、「マラソン」と続く。

カ 新型コロナウイルス感染症の影響

- ・やめたものとして、「ジムなどの利用」と「各種スポーツ (テニス、ゴルフ、バドミントン)」が特に多い。
- ・新たに始めたものとして、「ウォーキング」、「筋トレ」、「ストレッチ」、「体操」が多い。

キ 子・孫とやってみたい運動やスポーツ

- ・「バドミントン」、「サイクリング」、「マラソン・ランニング・ジョギング」、「バスケットボー

ル」、「サッカー」、「野球」などが多い。

2 団体アンケート（スポーツ協会加盟団体）

（1）調査概要

調査対象	大野市スポーツ協会加盟団体 33団体 ※地区体協、小体振、中体連、連合ふわわを除く
期 間	令和2年12月3日～令和2年12月25日
回 答 数	23団体／回収率 69.7%

（2）現状

ア 会員数の状況 P44（設問8・9）

- ・「試合や練習を行うための会員数は確保できているか」の設問では、「十分に確保できている」、「概ね確保できている」で12団体と、半数近くの団体が不足を感じている。
- ・「会員数は減少していると感じるか」の設問では、「大いに感じる」、「少し感じる」で19団体（82%）を占める。

イ 団体運営者、指導者の状況 P44（設問10～14）

- ・「団体を運営する人材が少ないと感じるか」の設問では、「とても感じる」、「ある程度感じる」で21団体（91%）を占める。また、「団体運営者の高齢化」についても同様に、「とても感じる」、「ある程度感じる」で20団体（87%）を占める。
- ・「団体の指導者の数は少ないと感じるか」の設問では、「とても感じる」、「ある程度感じる」で20団体（87%）を占める。「指導者の高齢化」についても同様に、「とても感じる」、「ある程度感じる」で20団体（87%）を占める。
- ・団体運営者、指導者の適正な代替わりの状況としては、「まったく図られていない」、「あまり図られていない」が14団体（61%）を占める。

ウ 指導者の育成や資質向上への対応 P45（設問15・16）

- ・「対応を行っている」が半数以上あり、内容として講習会・勉強会、資格取得支援、マニュアル作成など。

エ 団体活動の5年後の見通し P45（設問17）

- ・「現状維持」が12団体、「現在よりも低調」が10団体で、「現在よりも活発」になると見通しているのは1団体のみ。

オ スポーツ施設の利用満足度と要望事項 P46（設問20・21）

- ・利用満足度は「大いに満足（2団体（9%）」、「ある程度満足（16団体（73%）」で18団体（82%）を占める。
「大いに不満（1団体）」の理由として、特に「利用時間の不都合（早朝開館を希望）」をあげている。
- ・要望事項として最も多い意見が「設備や器具を充実してほしい（8団体）」で、次いで「利用手続きの簡素化（6団体）」、「屋内施設の増設（5団体）」と続く。

カ 競技力向上に必要なこと P46（設問22）

- ・最も多い意見が「ジュニア期からトップレベルまでの一貫した指導体制」、「指導者の資質向上」である。「ハード面の整備」、「有望なジュニア選手の育成強化」がこれらに続く。
- ・その他の意見として、「指導者を増やすこと」、「若い世代の競技者育成」などがある。

キ 団体の活発な活動の支障 P47（設問 23）

- ・「会員の不足」が特に多く、次いで「指導者の不足」がある。そのほか、「練習場所の確保」、「練習日程の調整」、「対戦相手」といった「練習環境」に関すること。

ク 行政への期待・要望 P47（設問 24・25）

- ・「スポーツ人口増加の取組み」、「団体運営等に関する相談支援体制の充実」、「既存施設の整備、有効活用」が多い。次いで、「スポーツ情報ネットワークの整備・充実」、「新たな補助金の創設」、「施設使用料の軽減」となる。
- ・その他の意見として「施設利用時間の拡大（早朝・夜間）」、「子育て世代など若い世代のスポーツへの参画」、「中学校部活動の拡充」、「有望なジュニア選手の発掘・支援」、「市スポーツ協会による働き掛け（各種団体の会員を講師とした講習会の開催）」などがある。
- ・設問 25（意見・提案等）では、「中学校への柔道指導のできる教員の採用」、「有望なジュニアへの支援や重点競技の選択」、「奥越でのチームづくり」、「中間世代（働く世代）のスポーツ参加の促進」など。

3 団体アンケート（スポーツ少年団・中学生ジュニアクラブ）

（1）調査概要

調査対象	大野市スポーツ少年団 26 団体 中学生ジュニアクラブ 2 団体
期 間	令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数	1 7 団体／回収率 60.7%

（2）現状

ア 選手数の状況 P50～P51（設問 9・10）

- ・「試合や練習を行うための選手数は確保できているか」の設問では、「十分に確保できている（2 団体）」、「概ね確保できている（6 団体）」で 8 団体（47%）と、半数以上の団体が選手数の不足を感じている。
- ・「選手数は減少していると感じるか」の設問では、「とても感じる」、「少し感じる」で 14 団体（74%）を占める。

イ 指導者の状況 P51（設問 11・12）

- ・「指導者の数は少ないと感じるか」の設問で、「とても感じる（2 団体）」、「ある程度感じる（9 団体）」と 11 団体（65%）が少なさを感じている。
- ・「指導者確保についてどのように感じているか」の設問で、「とても苦慮している（4 団体）」、「やや苦慮している（9 団体）」と 13 団体（76%）が困難さを感じている。

ウ 問題や課題に思うこと P51（設問 13・14）

- ・「活動において、問題や課題に思うことはあるか」の設問で、14 団体（82%）が「ある」と回

答。

- ・問題や課題としては、「団員の加入が少ない」、「団員数の減少・不足」、「指導者の不足」、「そもその子ども不足」、「硬式野球ができる場所の不足」など。

エ 競技審判員の状況 P52（設問 15）

- ・「競技の審判員の数は少ないと感じるか」の設問で、「とても感じる（4 団体）」、「やや感じる（5 団体）」と半数以上が少なさを感じている。競技別に見ても、野球、空手道、ソフトボール、バスケットボール、バドミントン、複合（サッカー・剣道・スキー）とほとんどの競技で不足。

オ 団体活動の5年後の見通し P52（設問 16）

- ・「現状維持」が6 団体、「おそらく活動していない」が4 団体、「現在よりも低調」が3 団体で、「現在よりも活発」になると見通しているところはない。

カ 活動場所の状況 P52（設問 17・18）

- ・「活動場所は確保できているか」の設問で、「十分に確保できている（8 団体）」、「概ね確保できている（7 団体）」と15 団体（88%）が確保できている状況に対し、「あまり確保できていない」が2 団体。
- ・普段の活動場所は、小中学校体育施設（体育館・グラウンド）が最も多く、次いでエキサイト広場。

キ スポーツ施設の利用満足度と要望事項 P52～P53（設問 19・20）

- ・利用満足度は「大いに満足（1 団体）」、「ある程度満足（12 団体）」で13 団体（81%）を占める。
- ・「大いに不満（1 団体）」の理由として、特に「専用球場がない。ふれあい公園のナイター設備やネットの高さが低く支障がある」をあげている。「やや不満（2 団体）」の理由として、ナイター設備等のハード面や利用手続きのソフト面での不満を感じている。
- ・要望事項として最も多い意見が「設備や器具を充実してほしい（8 団体）」で、次いで「利用手続きの簡素化（5 団体）」と「屋外施設の増設（5 団体）」が続く。

ク 競技力向上に必要なこと P53（設問 21）

- ・最も多い意見が「指導者の資質向上」である。「強豪選手・チームとの対戦」、「ハード面の整備」、「有望なジュニア選手の育成強化」、「ジュニア期からトップレベルまでの一貫指導体制」がこれらに続く。
- ・その他の意見として、「指導者の確保」、「意見の擦り合わせ」などがある。

ケ 理想とする団体の環境 P53（設問 22）

- ・多かった意見としては、「選手のレベルに応じた練習メニューがある」、「団等を引退した後も学校部活動や上位のクラブチームなどで継続した競技活動ができる」、「指導者の資質が高い」など。

コ 活発な活動の支障になっていること P54（設問 23）

- ・「選手や指導者の数が不足している」が多く、「活動費の財源」に苦慮しているところも多い。

サ 他団体との合併 P54 (設問 24・25)

- ・「合併を進めるべき」が 2 団体、「合併もやむを得ない」が 11 団体。また、「課題が多く困難」が 4 団体。
- ・合併の課題としては、「団体間の活動方針の違い」、「指導者の選定」、「送迎など保護者の負担の増加」などの意見が多い。

シ 行政への要望・期待 P55 (設問 26)

- ・「ハード面の充実」、「中学校部活動の拡充」、「活動費の支援」、「利用手続きの簡素化」

4 団体アンケート (中学校・高等学校)

(1) 調査概要

調査対象	市内中学校 5 校 市内高等学校 2 校
期 間	令和 2 年 1 2 月 3 日～令和 2 年 1 2 月 2 5 日
回 答 数	7 校／回収率 100%

(2) 現状

ア 運動部活動の課題 P56 (設問 2)

- ・「部員の確保 (中学 3 校・高校 2 校)」、「指導者の確保 (中学 2 校・高校 1 校)」が多くなっている。その他の課題として、「競技団体と中体連の狙いのズレ」、「保護者・地域と部活動の捉え方のズレ」、「部活動の少なさによる選択肢不足」をあげている。

イ 部員数の状況 P57 (設問 7)

- ・「運動部は試合や練習を行うための部員数は確保できているか」の設問には、「やや不足している部がある (4 校)」、「かなり不足している部がある (2 校)」と回答している。

ウ スポーツ施設の要望事項 P57 (設問 8)

- ・「利用手続きの簡素化」、「屋外施設の増加」など。
- ・その他の意見として、「屋内施設のエアコン整備」、「有名トレーナーによる講習会等の開催」、「屋外競技の室内練習場の整備」。

エ 民間スポーツ団体との連携に関する意向 P57 (設問 9)

- ・「各校の部活動方針に対する理解に基づく主催大会の精選」、「中学生対象の団体創設」、「競技の普及」、「若手指導者の育成」、「小中高生と高校との連携」、「競技ごとに選手を育成する体制整備 (幼小：底辺拡大。中高：競技力向上)」など。

オ 学校部活動の民間委託に関する希望 P57 (設問 10)

- ・「運動部活動の指導を地域の方に任せる場合、どのような指導を望むか」の設問で、すべての学校が「活動時間中は常時指導できること (7 校)」を希望し、次いで「礼儀正しい子どもを育成する指導 (4 校)」。
- ・その他の意見として、「中学校教育に対する理解・部活動方針の遵守」、「学校との情報共有・連携」を求める意見がある。

5 団体アンケート（社会福祉施設（障がい者施設））

（1）調査概要

調査対象	市内障がい者施設 5施設 【内訳】（入所・通所施設）希望園、むつみ園 （通所施設）フレンドリーぶな、セルプあすなろ、森目工房やわらぎ
期 間	令和2年12月3日～令和2年12月25日
回 答 数	4施設／回収率80%（入所・通所施設2、通所施設2）

（2）現状

ア 運動やスポーツの実施状況 P58（設問1～4）

- ・施設利用者はほとんどの施設で週に3回以上の運動・スポーツを実施。
- ・運動を行っていない1施設は、業務スケジュールの調整、人員配置が難しいとの理由から。
- ・実施するスポーツとしては、「歩行運動」「ラジオ体操」「リハビリ体操」などの軽運動。
- ・「施設利用者の運動の必要性」については、どの施設も「大いに必要」、「ある程度必要」と感じている。
- ・「運動やスポーツを行うにあたって苦慮していることはあるか」の設問では、「入所者等の体調を考慮しなければならない」、「運動・スポーツ施設までの入所者等の輸送」など。その他として、運動を行っていない施設において「業務スケジュールの調整、人員配置が困難」という状況がある。

イ 運動やスポーツに関する希望・要望 P58～P59（設問5～7）

- ・「体験させたい運動やスポーツ」として、「ニュースポーツ」の希望が多い。そのほかとして、ヨガ・ストレッチ、卓球・バドミントンを希望する意見もある。
- ・「行政への要望」としては、「運動やスポーツを行う機会（教室、イベントなど）の提供」、「運動やスポーツを指導する人材の養成・派遣」など。「貴事業所職員に対する運動・スポーツを指導するための講習会の開催」を望む声もある。
- ・「健常者とのスポーツ交流」については、どの施設も「ある程度望む」としている。

ウ 障がい者の運動やスポーツの推進 P59（設問8）

- ・障がい者の運動やスポーツを推進することに関しては、「障がい者が楽しくスポーツできる環境づくりが大事」、「スポーツへの参加は生活の質の向上につながり、社会参加の機会としても意義がある」といった意見がある。また、「事業所に来て指導してもらえるとよい」との声もある。

アンケート調査結果について

一般市民

*アンケート実施期間

令和2年11月～12月

*アンケート回答者数

858人

回収率

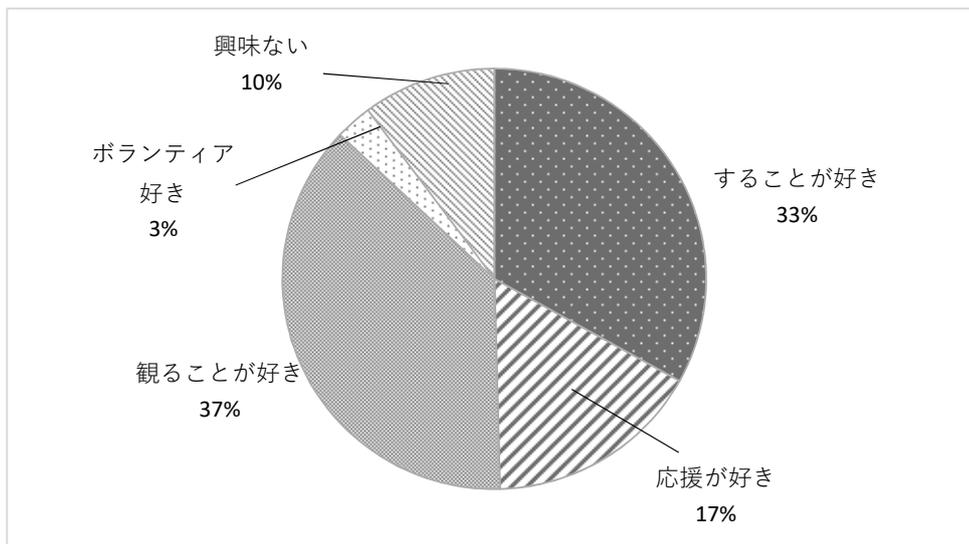
42.90%

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総計
		男							
	下庄	5	10	11	15	18	21		80
	乾側		1	2		2	2		7
	五箇					1			1
	阪谷	1	3	2	2	2	3	1	14
	小山	1	4	4	3	5	5		22
	上庄	1	8	7	8	9	12		45
	大野	12	18	30	33	39	46		178
	富田	4	4	2	5	4	7		26
	和泉	1	1	2	1	1	2		8
	未記入	4	1				1		6
	計	29	50	60	67	81	99	1	387
	女								
	下庄	7	16	19	17	22	13		94
	乾側	1	1	1	3	2	2		10
	阪谷	2	1	2	4	4	3		16
	小山	2	5	6	4	2	8		27
	上庄	8	12	13	11	8	14		66
	大野	21	29	38	38	42	45		213
	富田	2	5	5	7	6	9	1	35
	和泉	1			1	1	2		5
	未記入		2		1		2		5
	計	44	71	84	86	87	98	1	471
総計		73	121	144	153	168	197	2	858

▼回答者の職業について

職種	人数	(再掲)男	(再掲)女
会社役員	46	38	8
会社員(正職員)	243	126	117
会社員(契約社員)	37	20	17
自営業	54	32	22
自由業(フリーランス)	7	4	3
農林業	26	18	8
公務員	48	28	20
学生(大学生・短大生・専門学校生)	18	8	10
主婦(夫)	84	0	84
パート・アルバイト	129	24	105
無職	116	65	51
その他	26	13	13
無回答	24	-	-
	858		

(問1) 運動やスポーツに関しどのようにお考えですか (複数回答可)

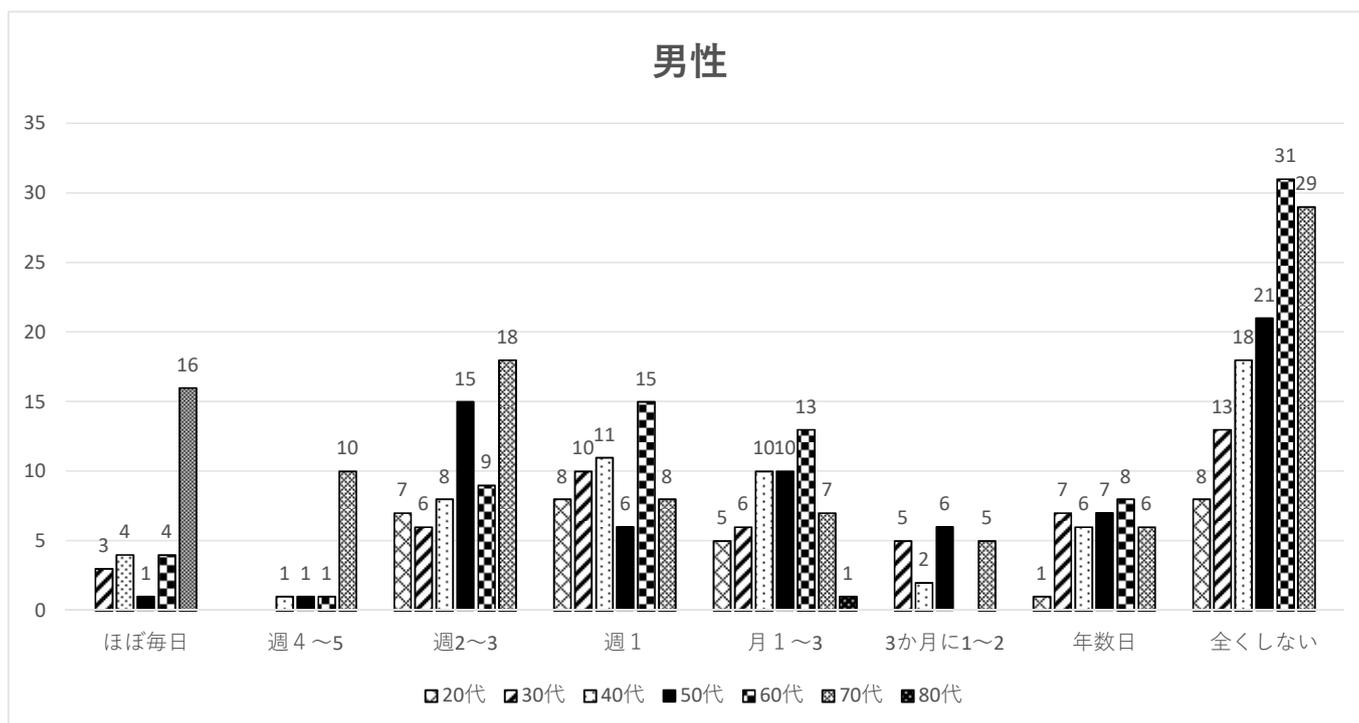


(問2) 運動やスポーツをどの程度行っていますか

男性	ほぼ毎日	週4~5	週2~3	週1	月1~3	3か月に1~2	年数日	全くしない	未記入	総計
20代			7	8	5		1	8		29
30代	3		6	10	6	5	7	13		50
40代	4	1	8	11	10	2	6	18		60
50代	1	1	15	6	10	6	7	21		67
60代	4	1	9	15	13		8	31		81
70代	16	10	18	8	7	5	6	29		99
80代					1					1

120

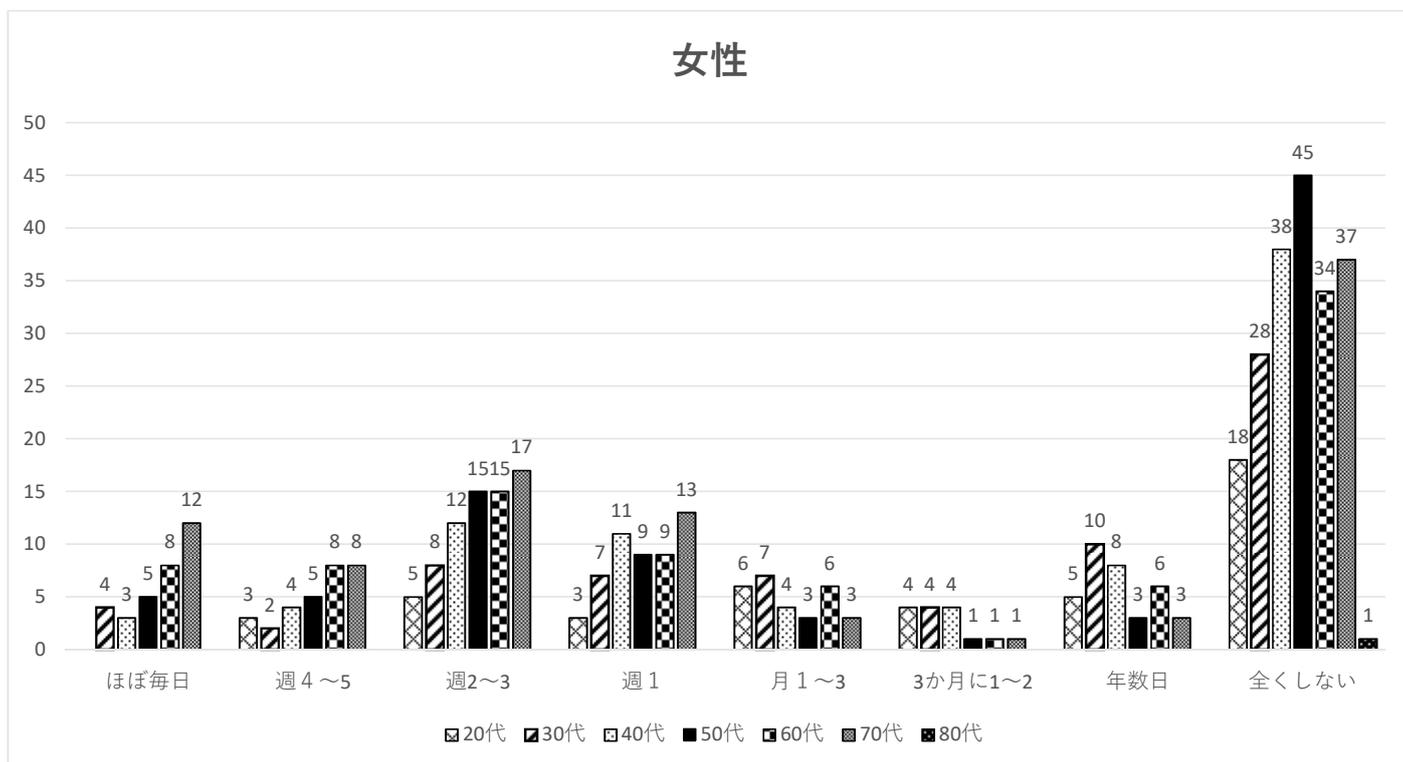
男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
(合計) 週1以上運動	15	19	24	23	29	52	0	162
(再掲) 週1以上運動	51.7%	38.0%	40.0%	34.3%	35.8%	52.5%	0.0%	41.9%



女性	ほぼ毎日	週4～5	週2～3	週1	月1～3	3か月に1～2	年数日	全くしない	未記入	総計
20代		3	5	3	6	4	5	18		44
30代	4	2	8	7	7	4	10	28	1	71
40代	3	4	12	11	4	4	8	38		84
50代	5	5	15	9	3	1	3	45		86
60代	8	8	15	9	6	1	6	34		87
70代	12	8	17	13	3	1	3	37	4	98
80代								1		1

201

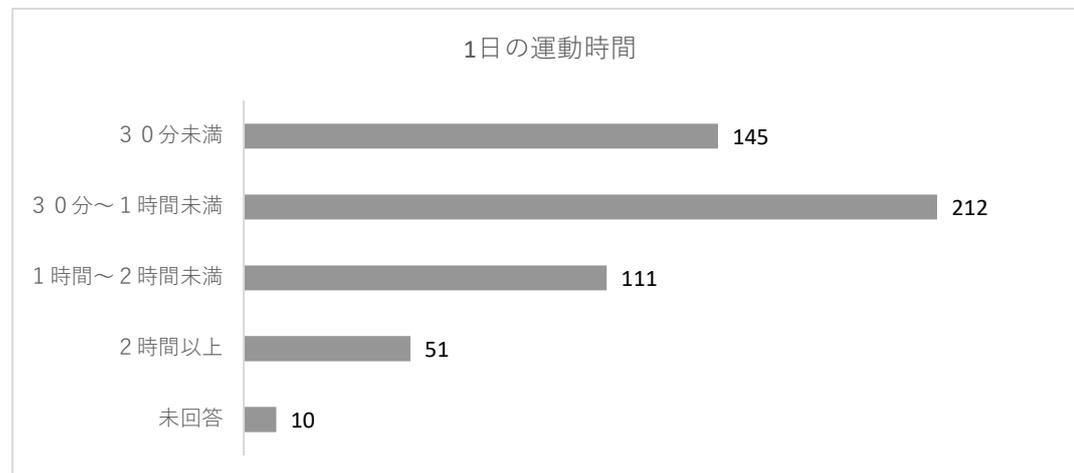
女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
(合計) 週1以上運動	11	21	30	34	40	50	0	186
(再掲) 週1以上運動	25.0%	29.6%	35.7%	39.5%	46.0%	51.0%	0.0%	39.5%



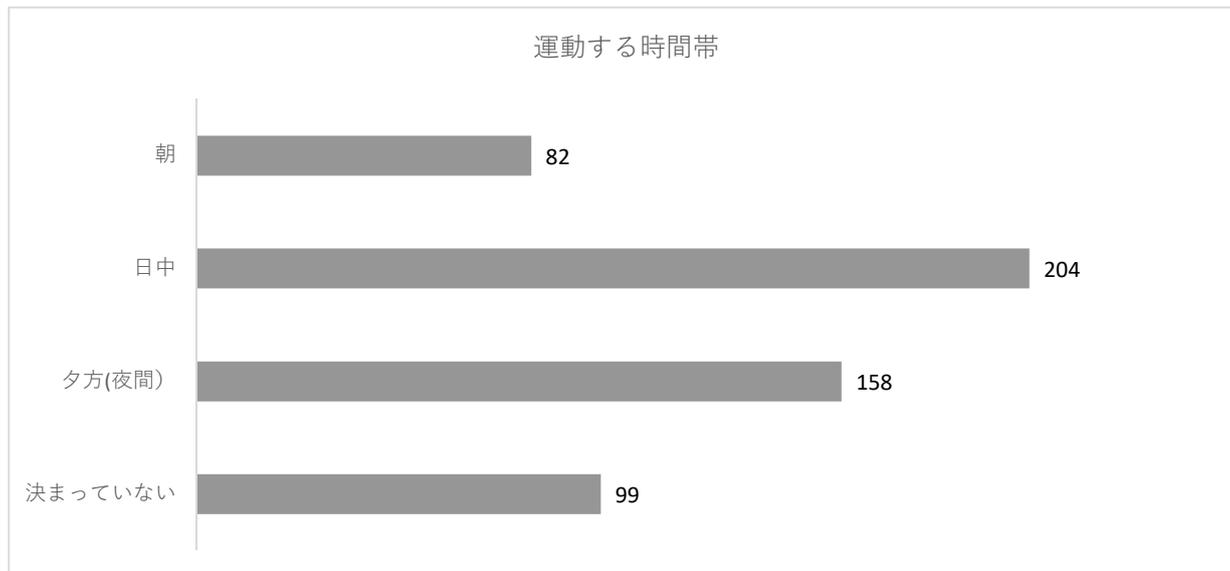
▼以下 問2で運動をしている（1～7）と回答した人の設問（該当者532人）

（問2-1）運動やスポーツの内容 **別表資料**

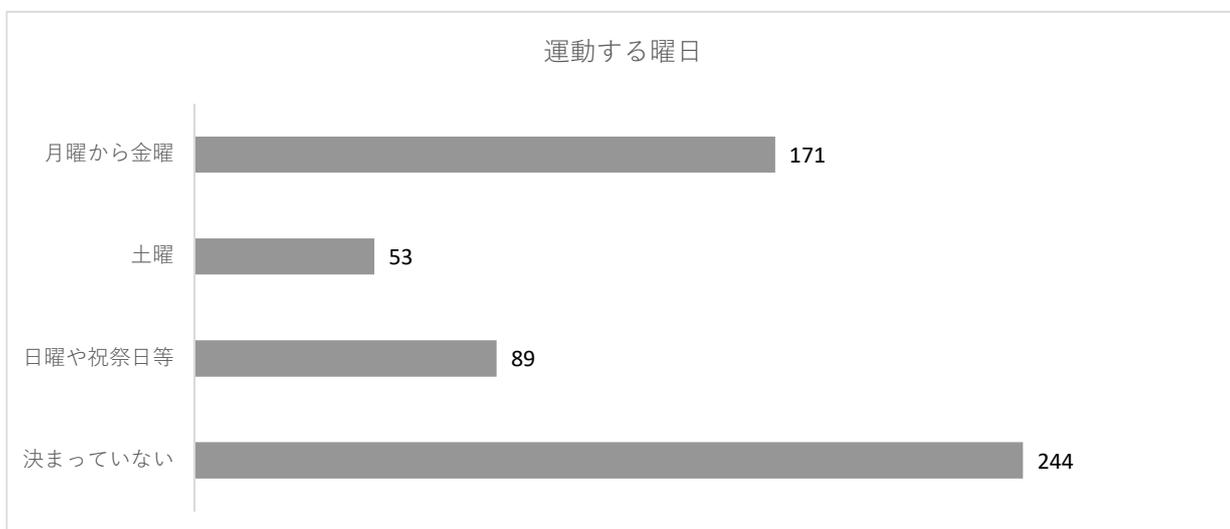
（問2-2）運動やスポーツに取り組む時間は1日どれくらいですか



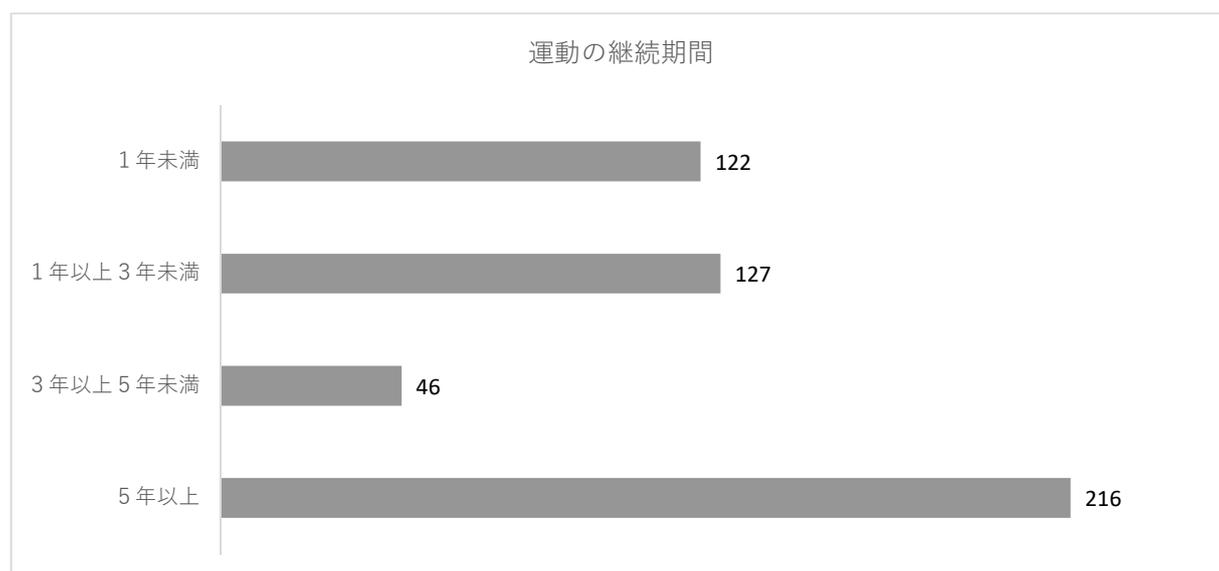
(問2-3) 運動やスポーツはいつの時間帯に行うことが多いですか(複数回答)



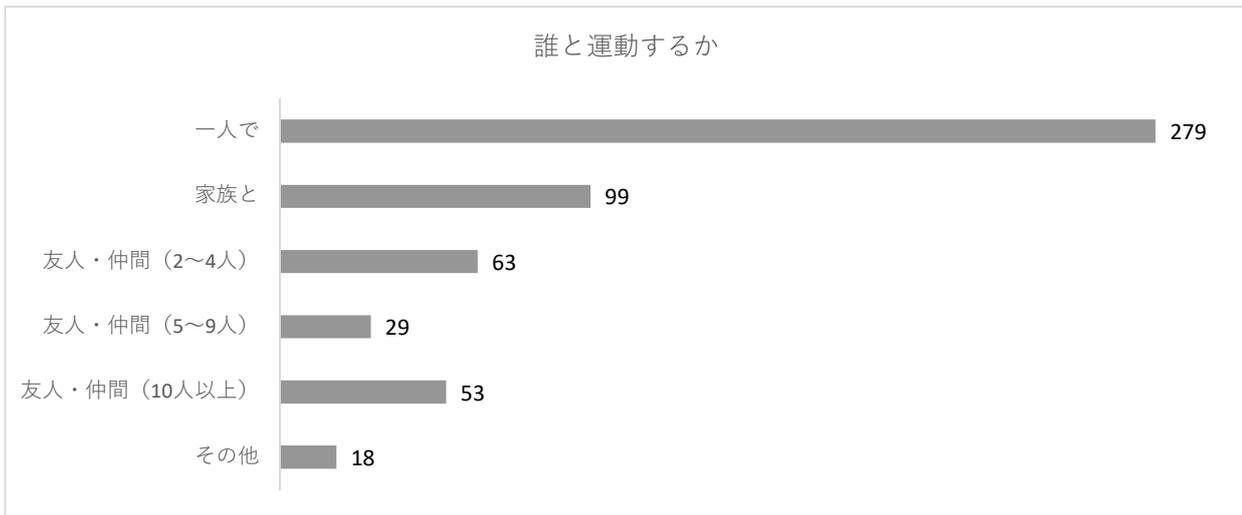
(問2-4) 運動やスポーツは何曜日に行うことが多いですか(複数回答)



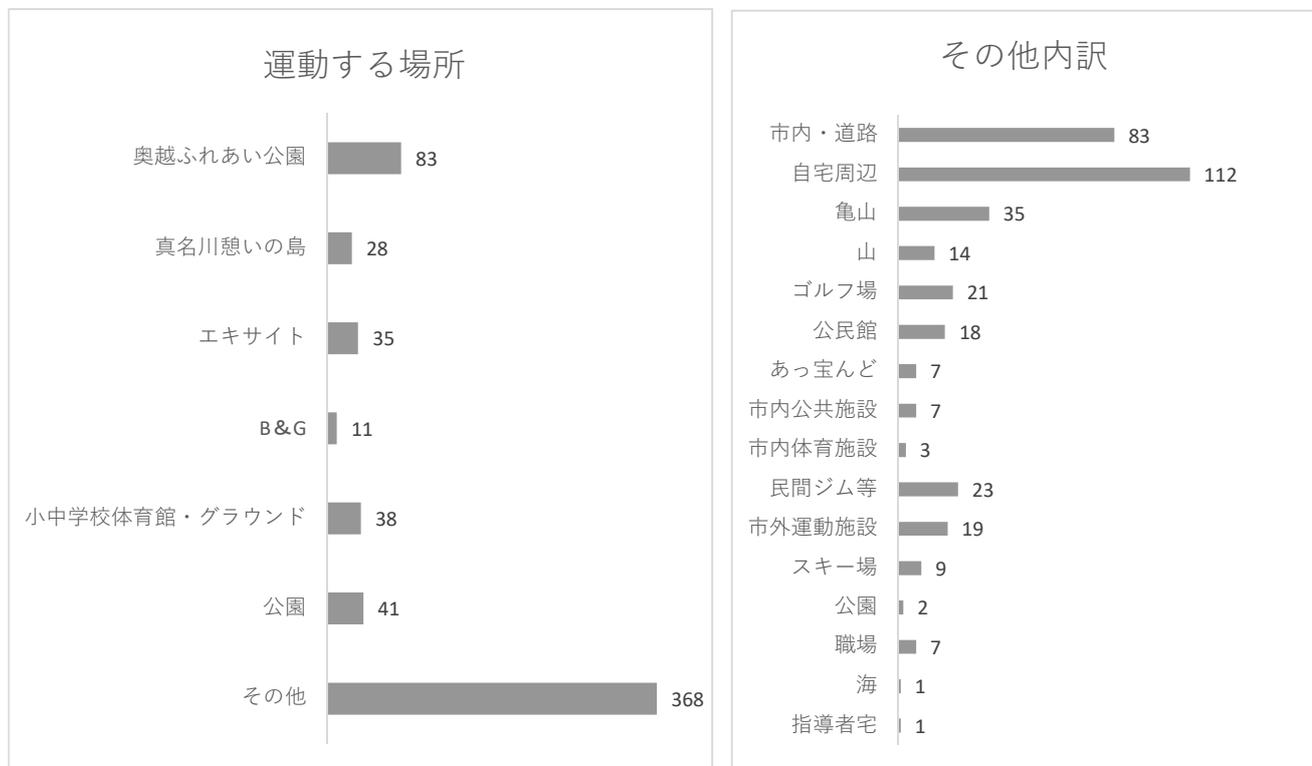
(問2-5) 運動やスポーツはどれくらいの期間続けていますか



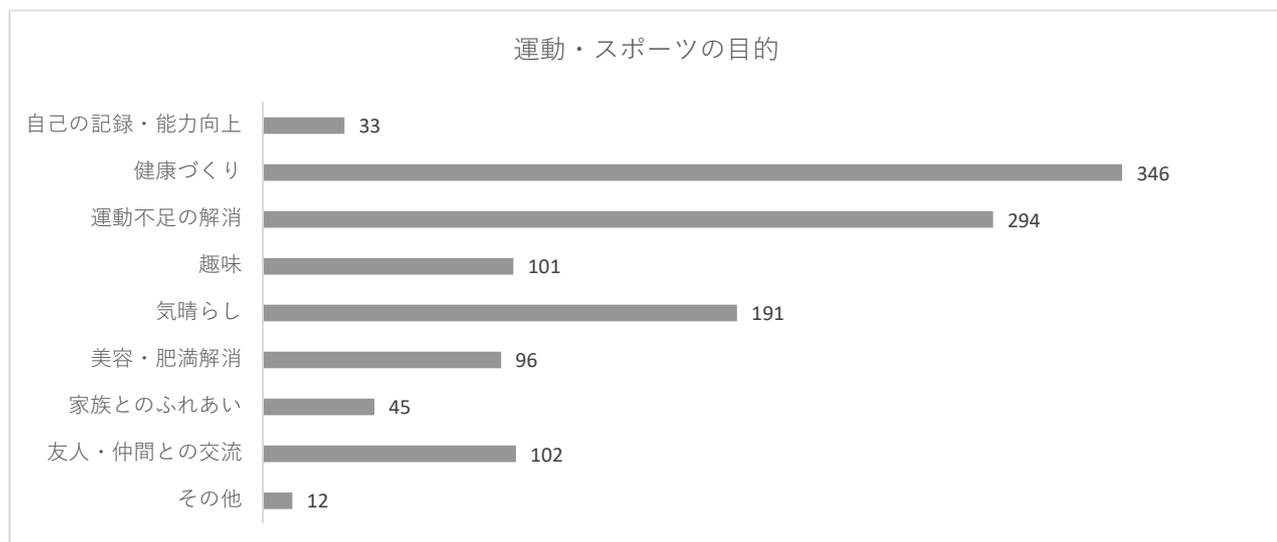
(問2-6) 運動やスポーツは誰と一緒にしますか



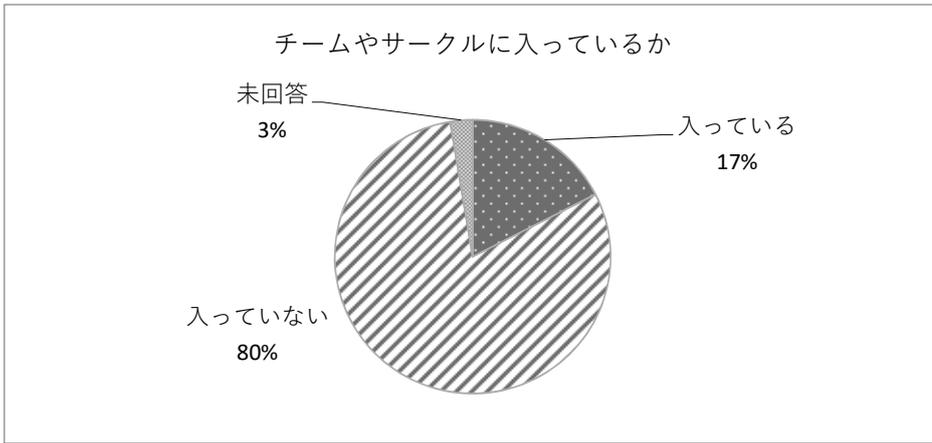
(問2-7) 運動やスポーツは主にどこで行っていますか (複数回答)



(問2-8) 運動やスポーツは何のため(目的)に行っていますか (複数回答)

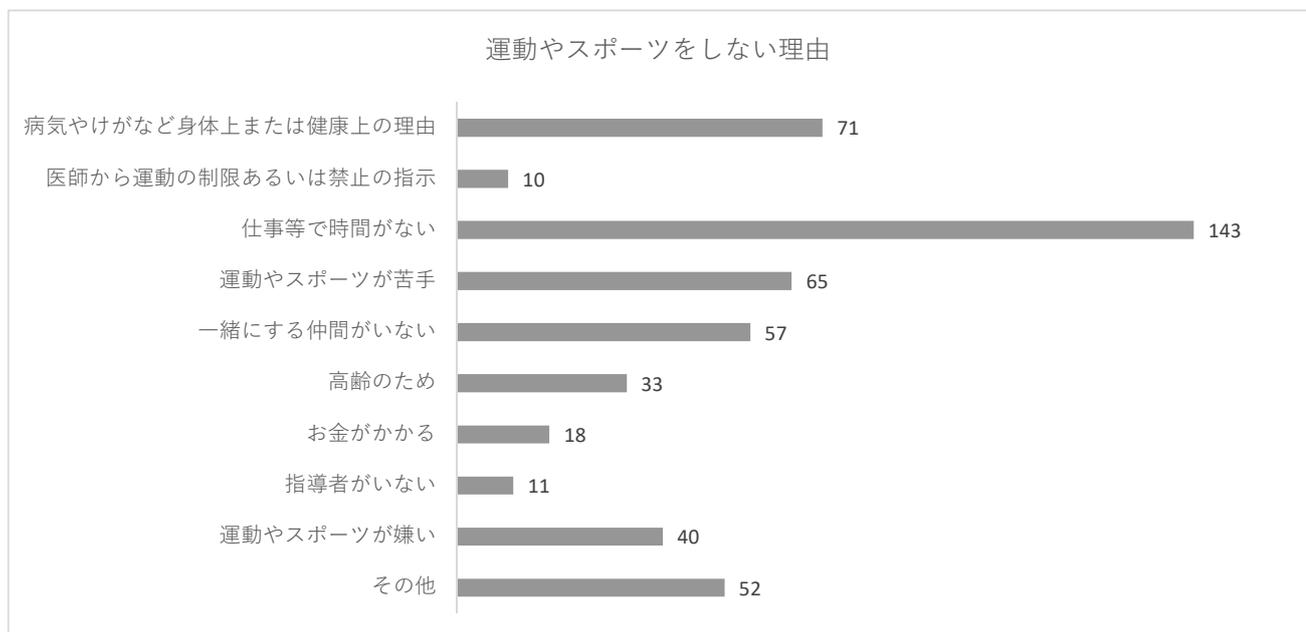


(問2-9) 現在、運動やスポーツのチームやサークルに入っていますか

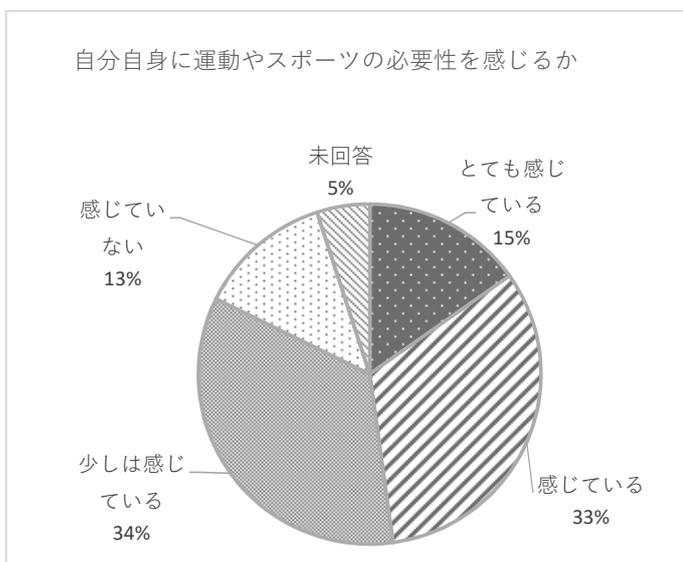


▼以下、問2で『全くしていない』と回答した人対象(321人)

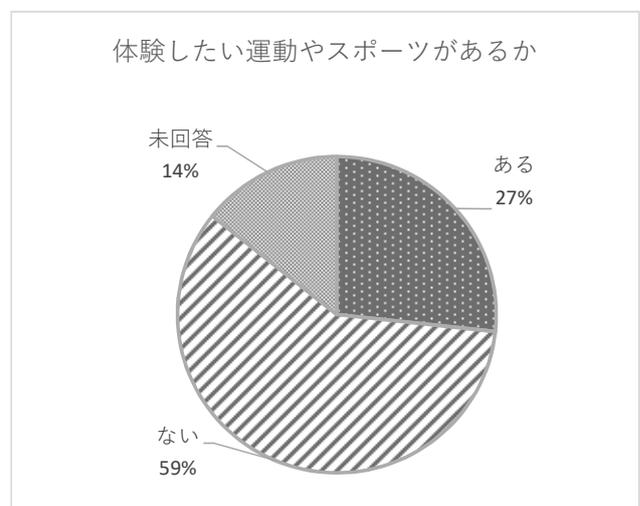
(問2-10) 運動・スポーツをしないのはなぜ(複数回答)



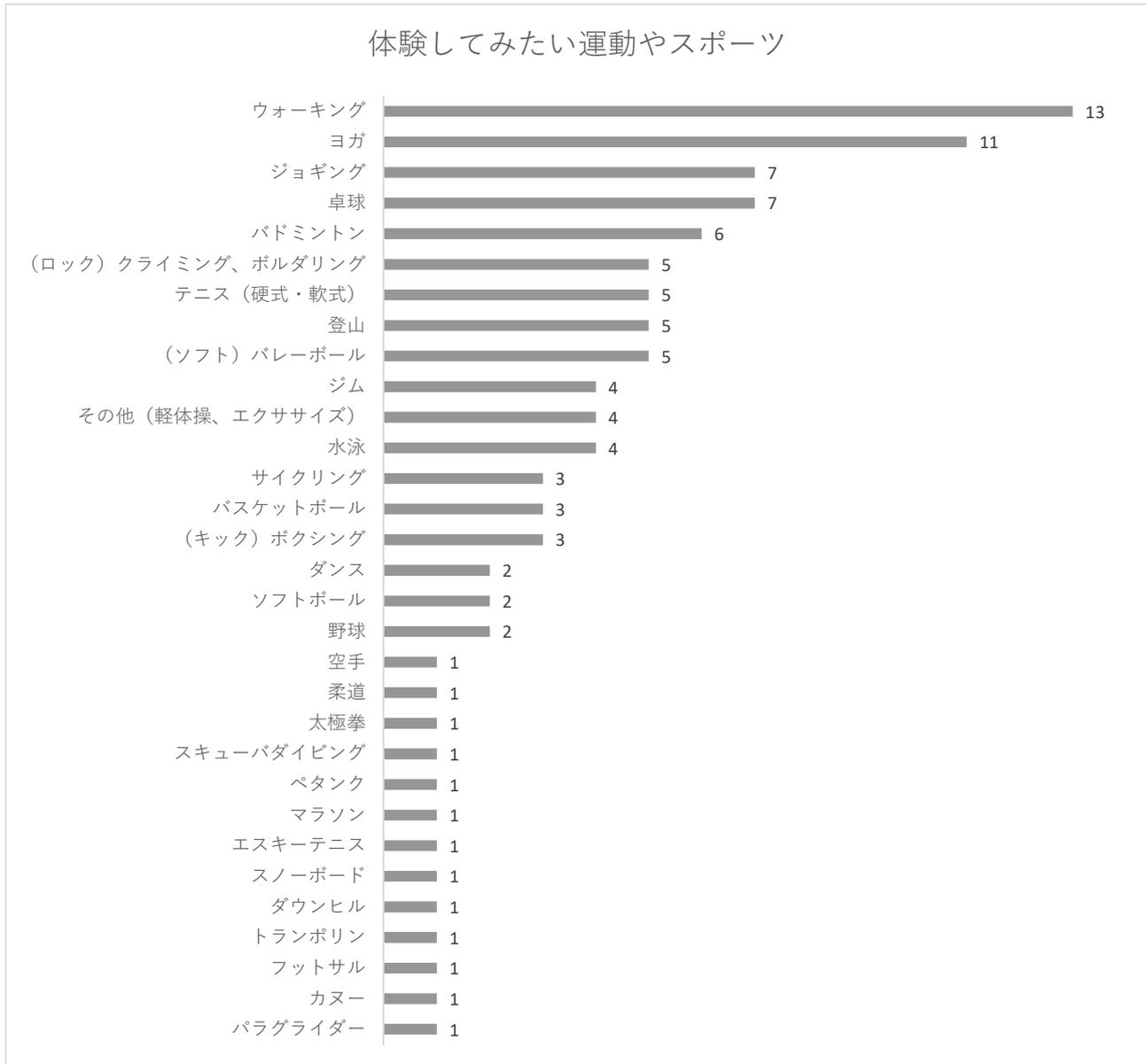
(問2-11) 自分自身に運動やスポーツの必要性を感じていますか



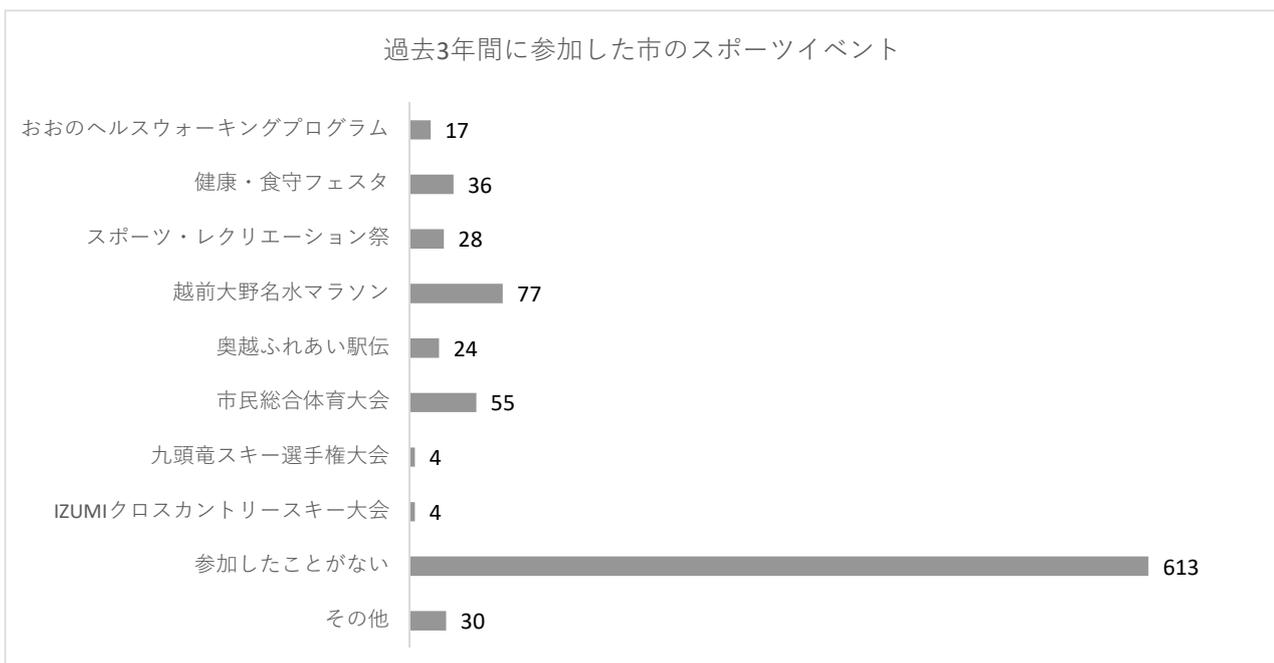
(問2-12) 体験してみたい運動やスポーツはあるか



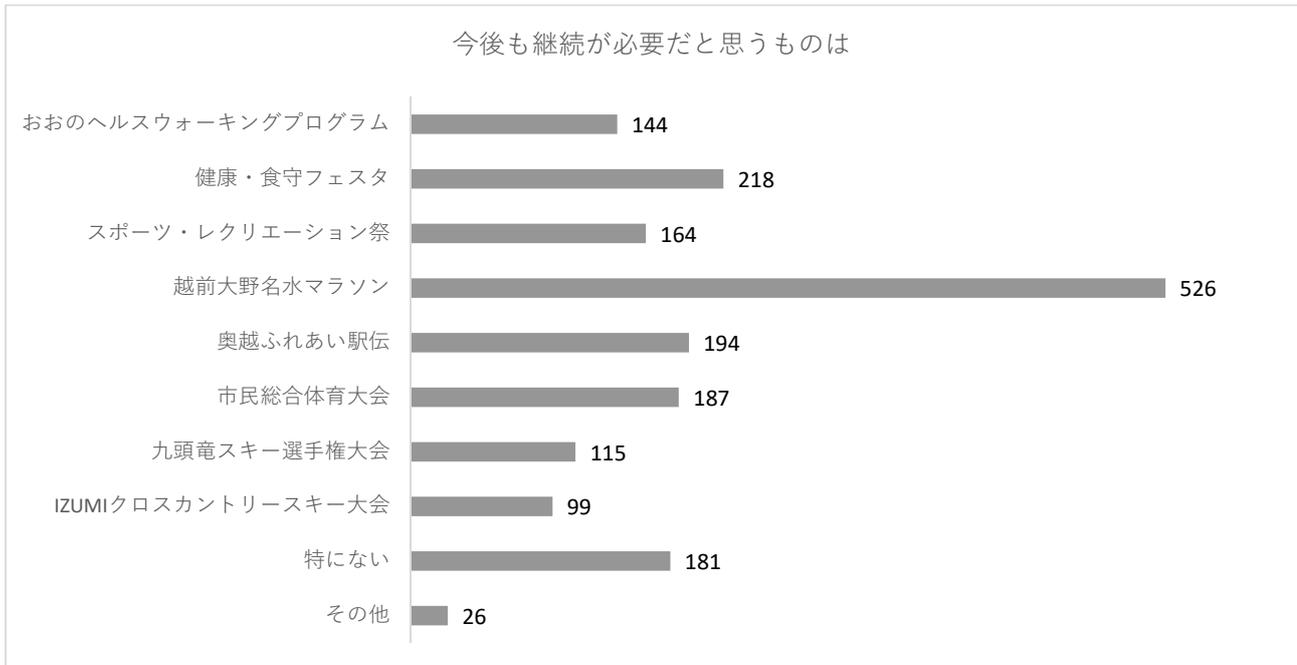
(問2-13) 体験したい運動やスポーツの内容



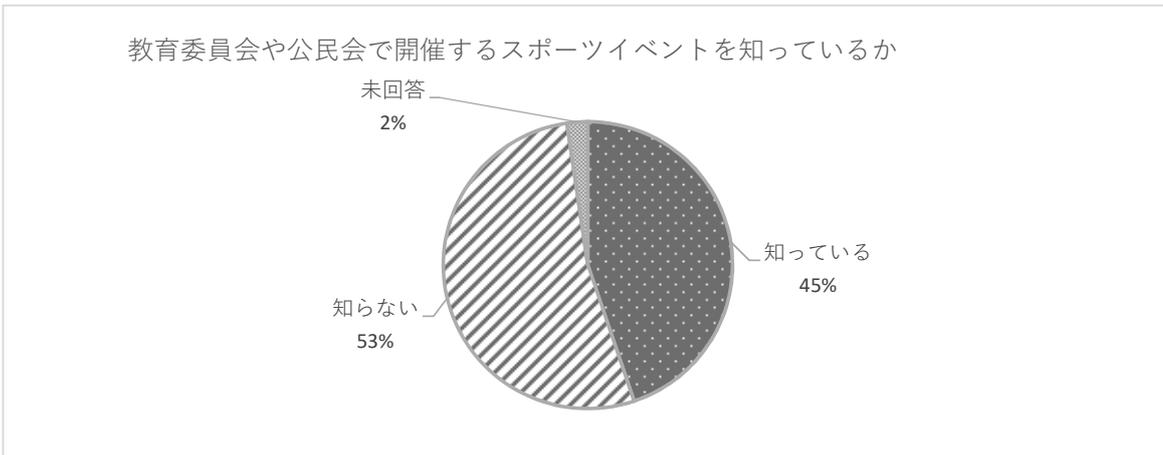
(問3) 過去3年間に参加した市のスポーツイベント(複数回答可)



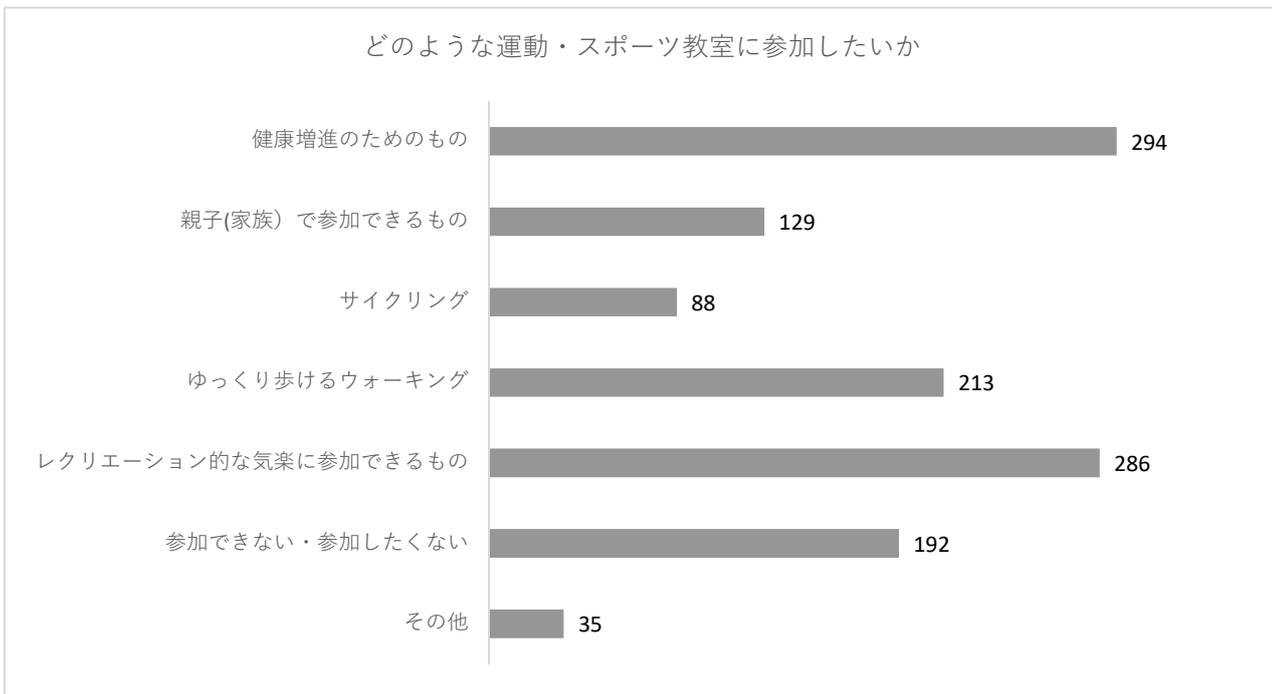
(問4) 今後も継続が必要だと思うものは？（複数回答可）



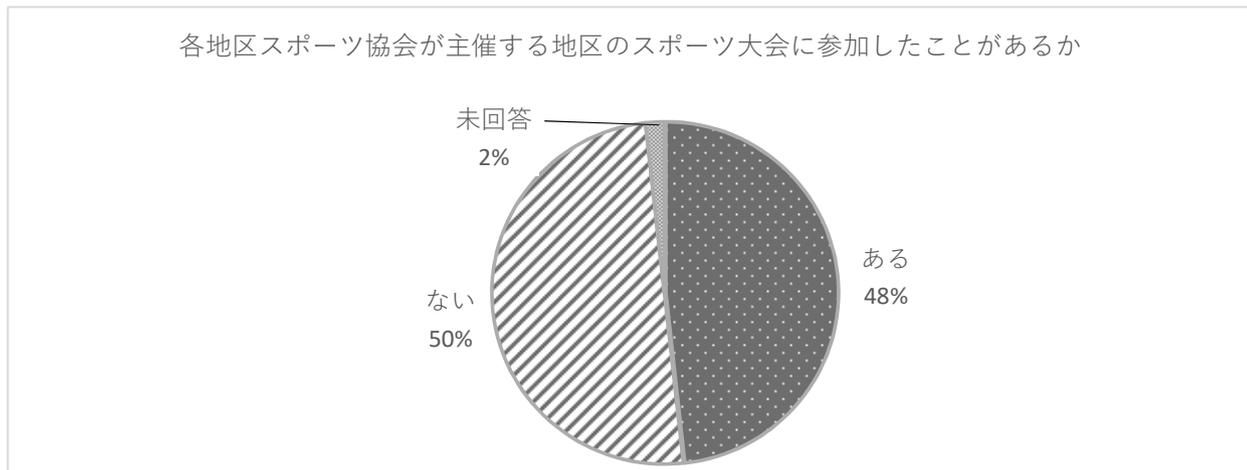
(問5) 大野市教育委員会や公民館で開催しているスポーツ教室を知っているか



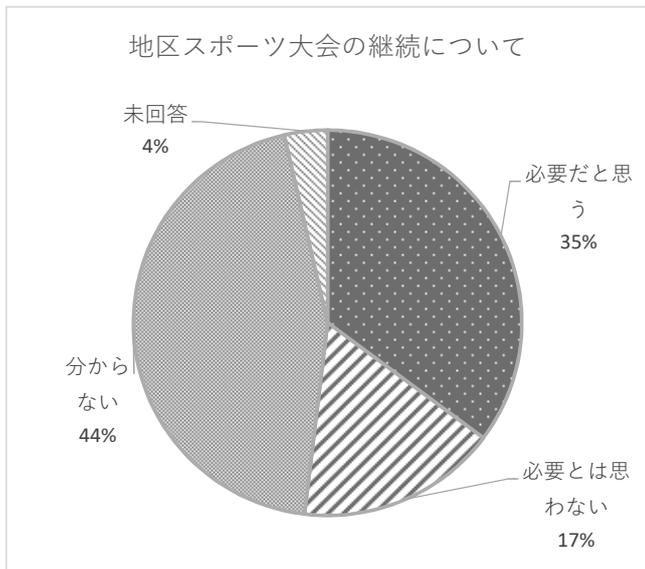
(問6) どのような運動・スポーツ教室があれば参加したいか（複数回答可）



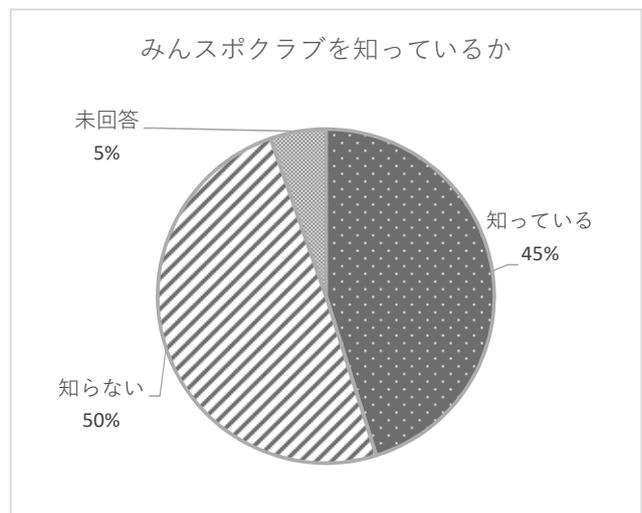
(問7) 各地区スポーツ協会が主催する地区のスポーツ大会に参加したことがあるか



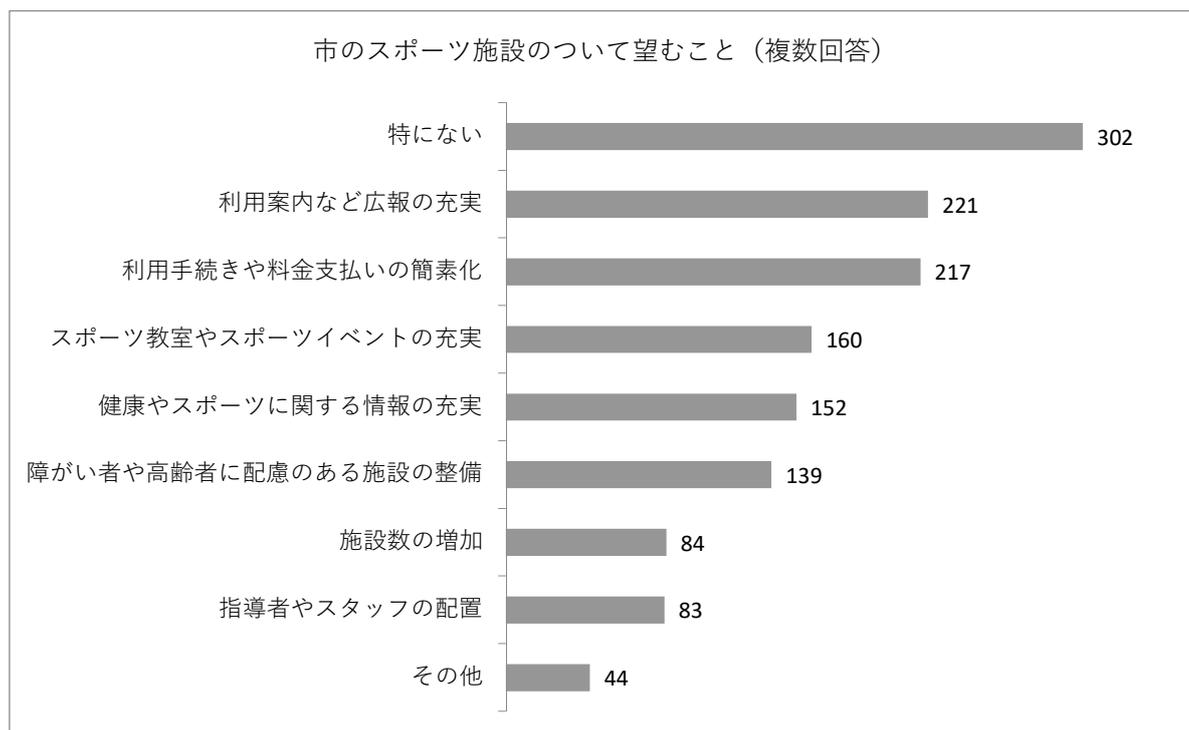
(問8) 各地区のスポーツ大会は今後も継続が必要だと思いますか



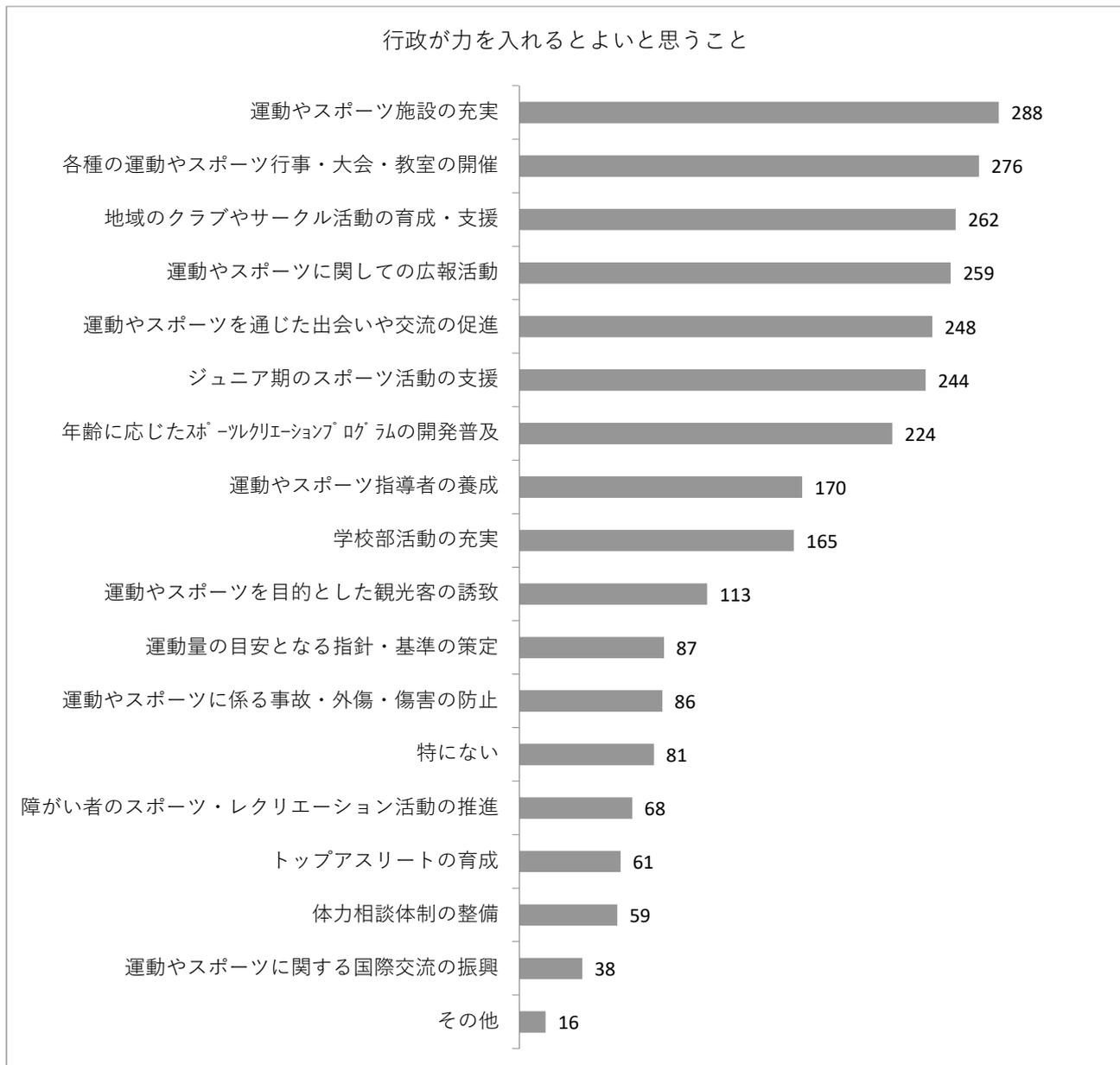
(問9) みんなスポクラブを知っていますか



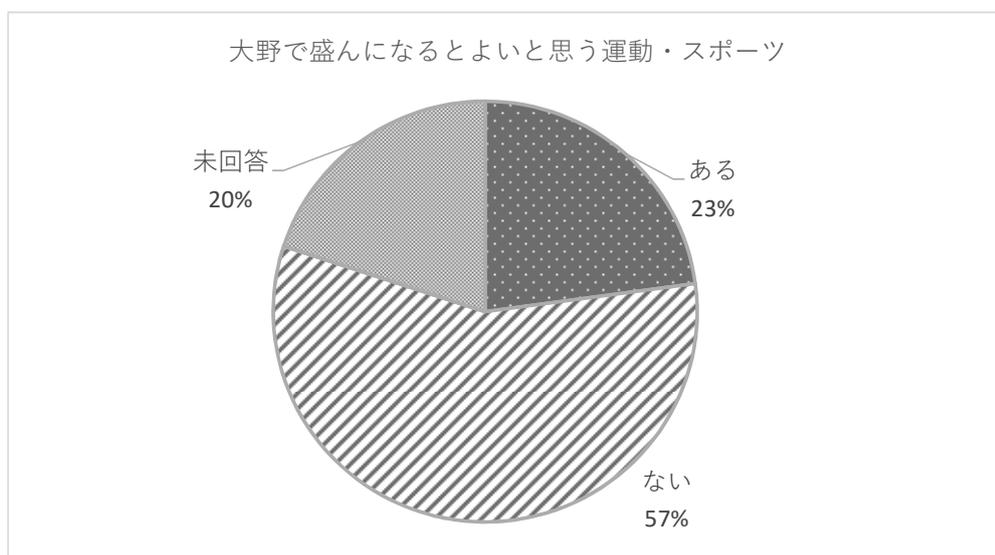
(問10) 市のスポーツ施設について望むこと (複数回答可)



(問 1 1) 運動やスポーツをさらに振興させるため行政はどのようなことに力を入れるとよいか(複数回答可)

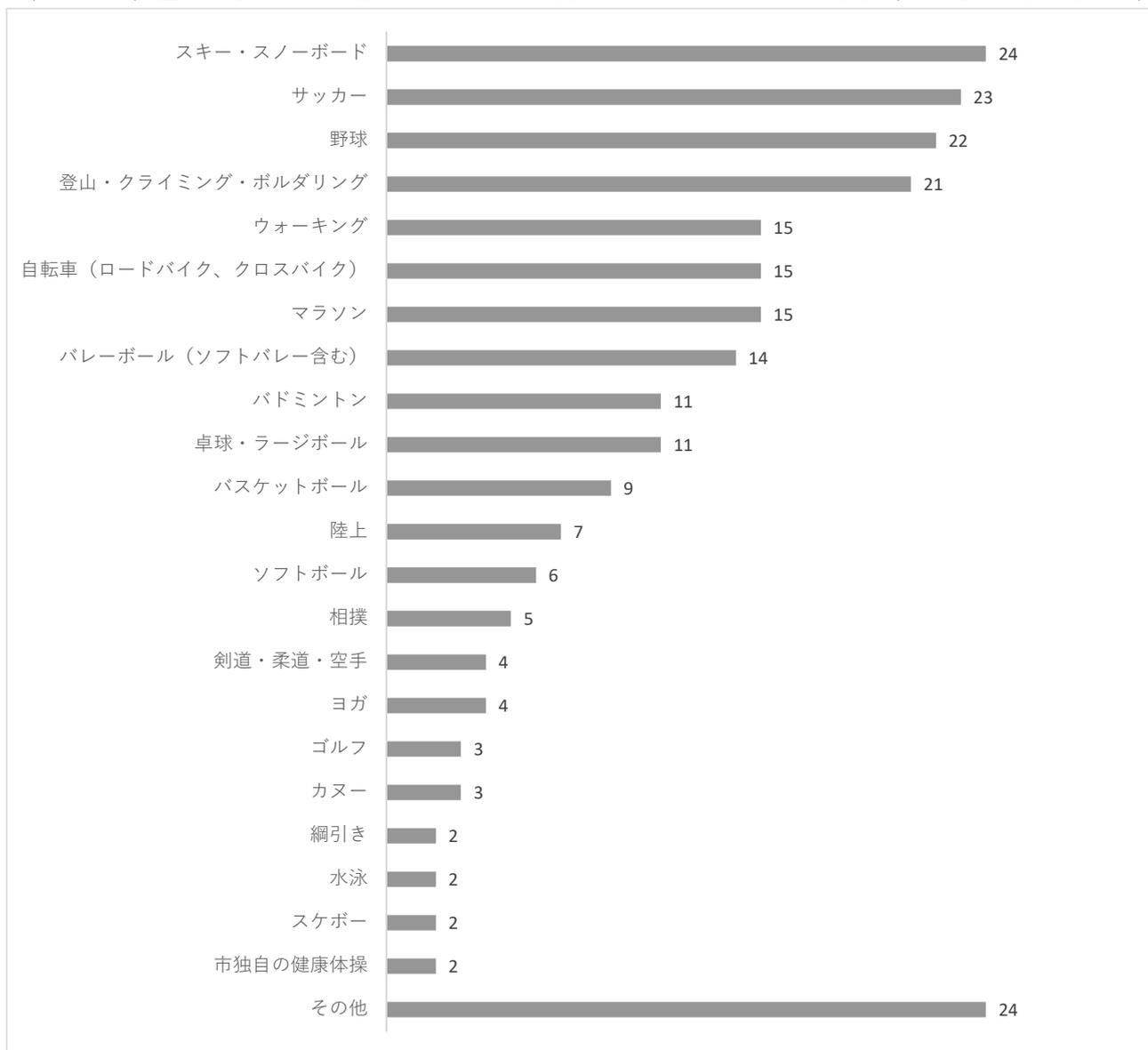


(問 1 2) 今後、大野市でさらに盛んになるとよいと思う運動やスポーツはありますか。



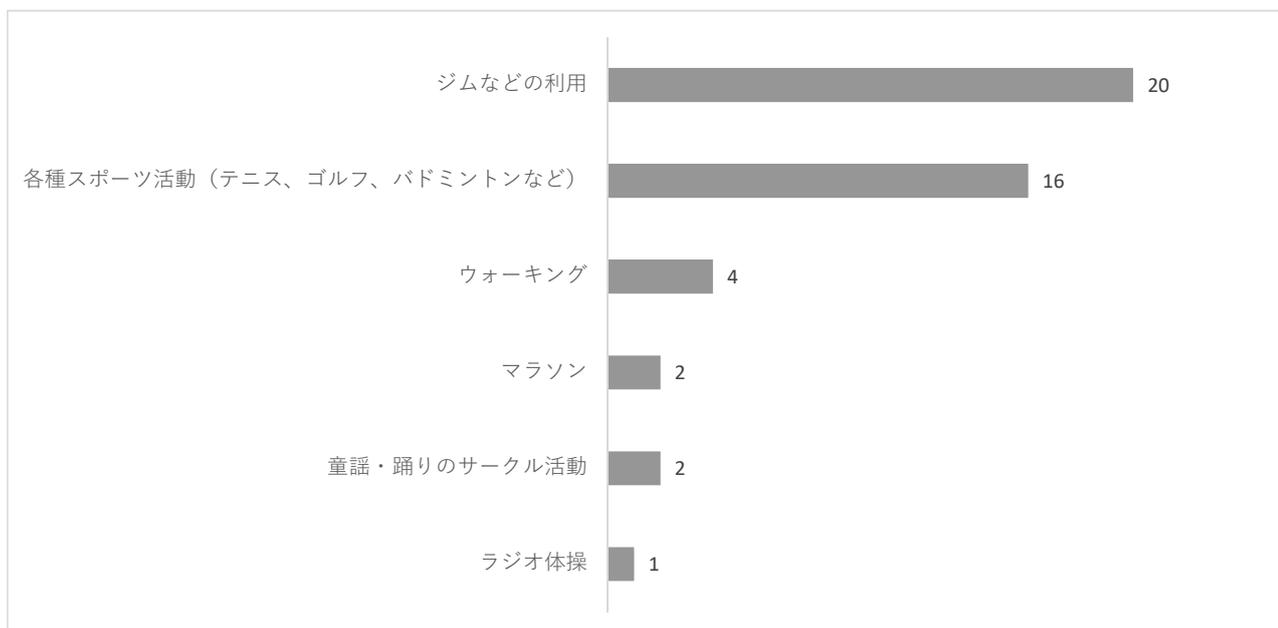
(問12-1) 盛んになるとよい運動やスポーツの内容

185名が回答 (自由記載、複数回答可)

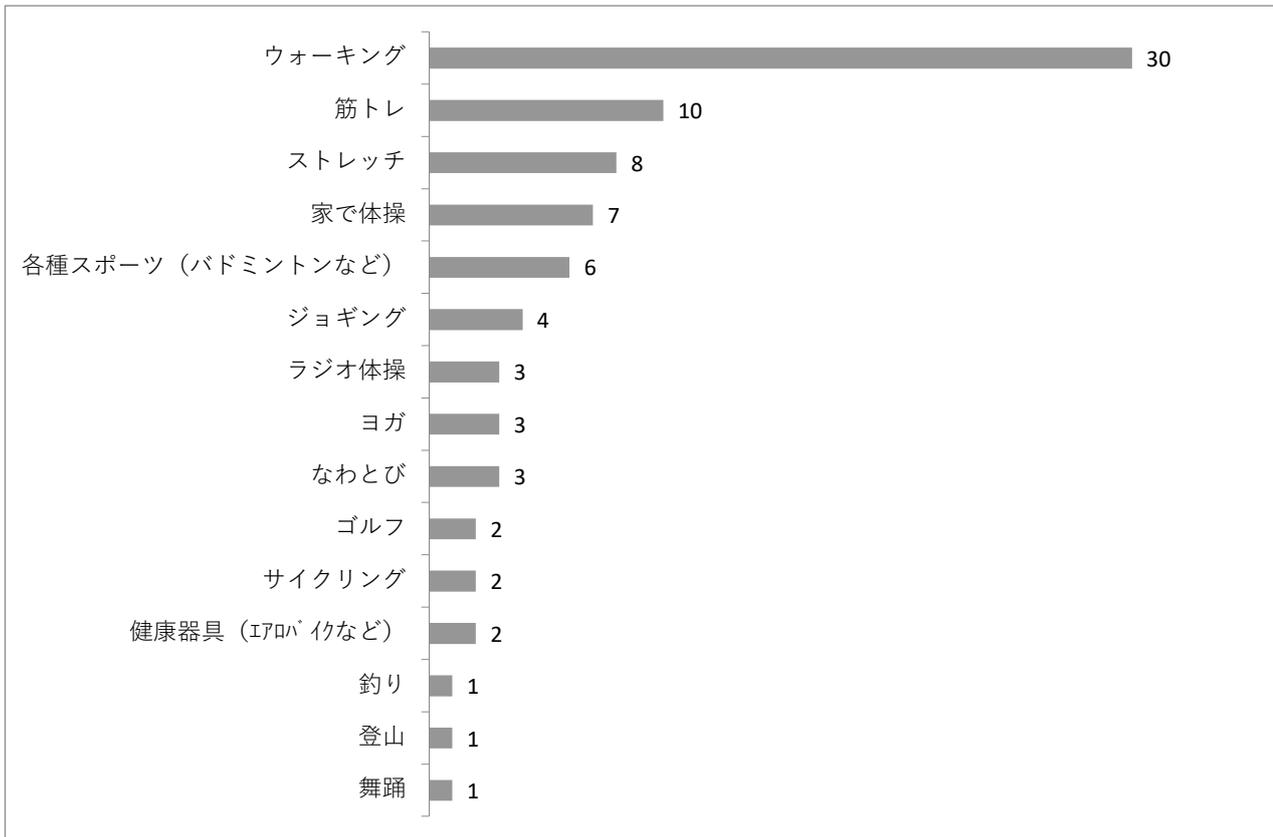


※その他：弓道、ウェイトリフティング、社交ダンスなど各1人

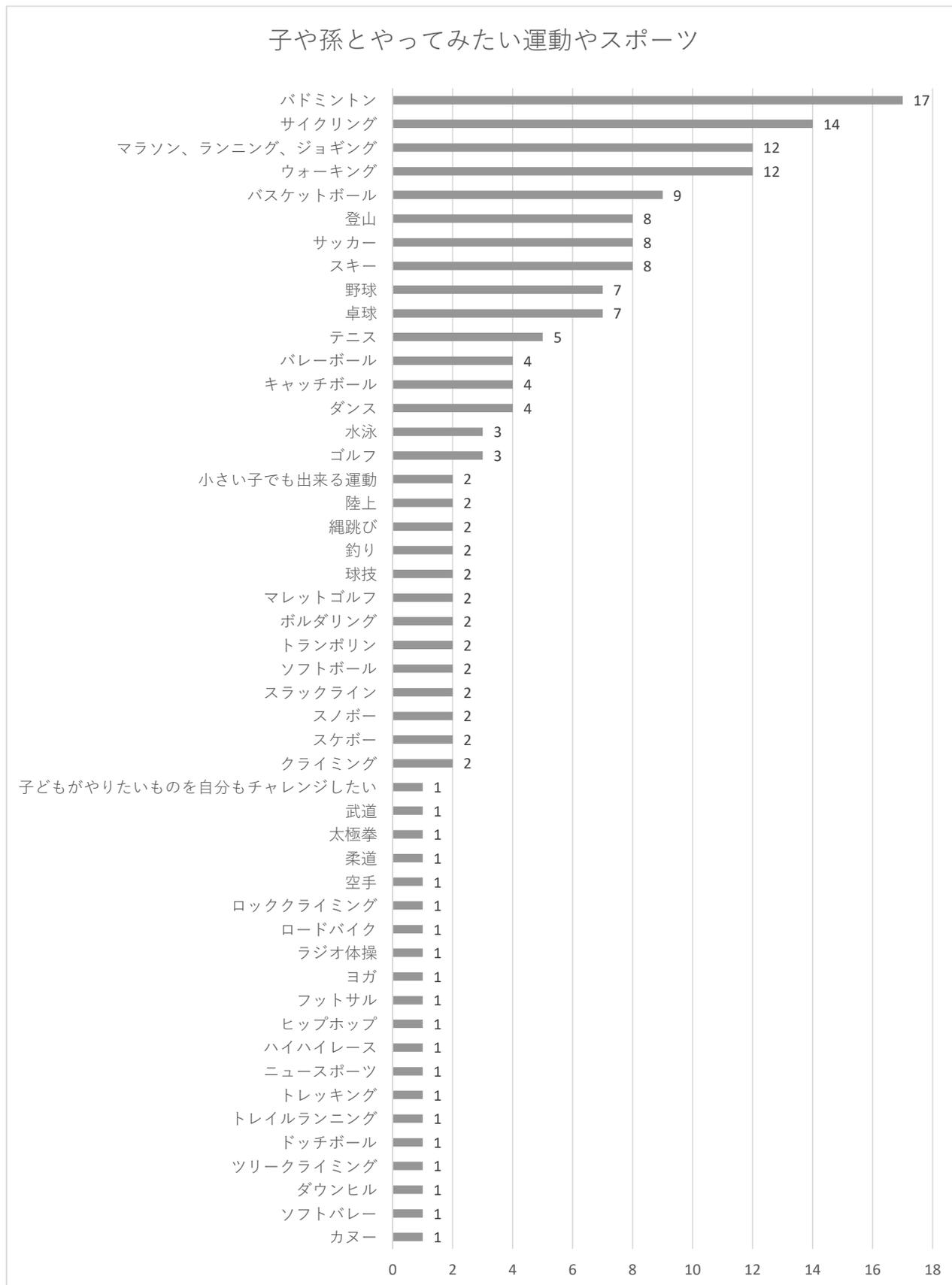
(問13) 現在のコロナ禍において、以前やっていたがやめた運動やスポーツがあるか



(問14) 現在のコロナ禍において新たに始めた運動やスポーツがあるか



(問15) お子さんやお孫さんとやってみたい運動やスポーツについて



別表資料

(問2-1) 運動やスポーツの内容について (自由記載、複数回答可)

	ウォーキング	ジョギング	ストレッチ ヨガ	筋トレ	軽体操	ラジオ体操 テレビ体操	自転車	登山	水泳 水中ウォーク	各種 スポーツ	武道 (剣道、柔道、 太極拳)	ゲーム (リングフィット)	草取り 農作業	その他 (輪投げ 地区運動会参加)
男	121	50	2	27	3	2	8	16	11	127	4	0	3	2
20代	7	6	0	5					1	7	1			
30代	13	12	0	19			2	1	2	32	2			
40代	12	15	1	1	1	1	3	2	1	23	0			1
50代	20	11	0	1				5	6	25	0			
60代	28	2	0	1	1		2	3		21	1		1	1
70代	41	4	1		1	1	1	5	1	18	0		2	
80代			0							1	0			
女	142	12	42	30	17	19	3	4	14	44	4	3	2	1
20代	13		2	8	2				1	8	3	2	1	
30代	19	3	10	6			2	2	3	9		1		
40代	26	9	10	3	3	1		1	2	7	0			
50代	21		10	8		3		1	3	5	0			
60代	31		4	3	7	5	1		2	6	1		1	
70代	32		6	2	5	10			3	9	0			1
総計	263	62	44	57	20	21	11	20	25	171	8	3	5	3

(再掲) 各種スポーツ171名の内訳

	スキー スノボ	ゴルフ	テニス	エスキー テニス	バスケ	サッカー	バトミン トン	バレー ボール	卓球	野球	ソフト ボール	クライミ ング	クレー 射撃	ゲート ボール	サーフィ ン	ダンス	スケート	綱引き	縄跳び
男	17	52	2	2	4	11	10	8	3	5	5		1	1	3	1	1		1
20代					1	2	1			1	1						1		
30代	5	14				2	3	2	1	2					3				
40代	2	6	1		2	6	2	1		1	1								1
50代	5	11			1	1	3	1	1		1					1			
60代	3	9	1	2			1	2		1	2								
70代	2	12						2	1				1						
80代															1				
女	4	6	2	1			8	3	5		2	1				10		1	1
20代	1						4	1			1					1			
30代	2						2									4			1
40代	1	1					1				1	1				2			
50代		2	1				1									1			
60代		1	1	1				1	1							1			
70代		2						1	4							1		1	
総計	21	58	4	3	4	11	18	11	8	5	7	1	1	1	3	11	1	1	2

アンケート調査結果について

スポーツ協会加盟団体

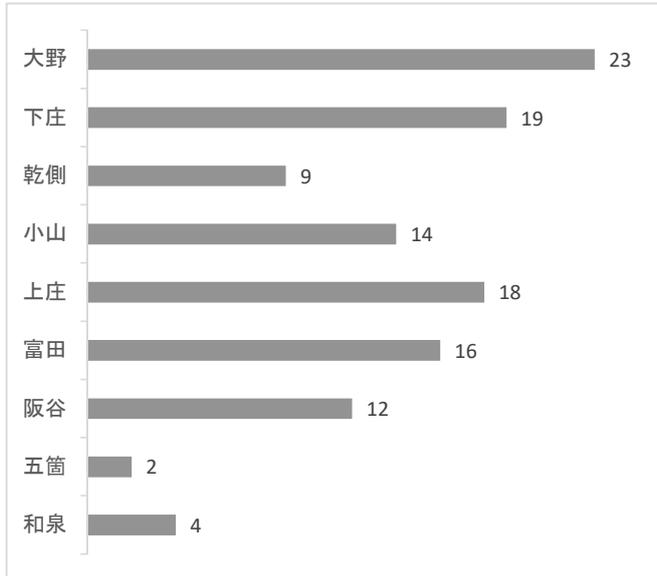
*アンケート実施期間
*アンケート回答団体数

令和2年11月～12月
23団体/33団体

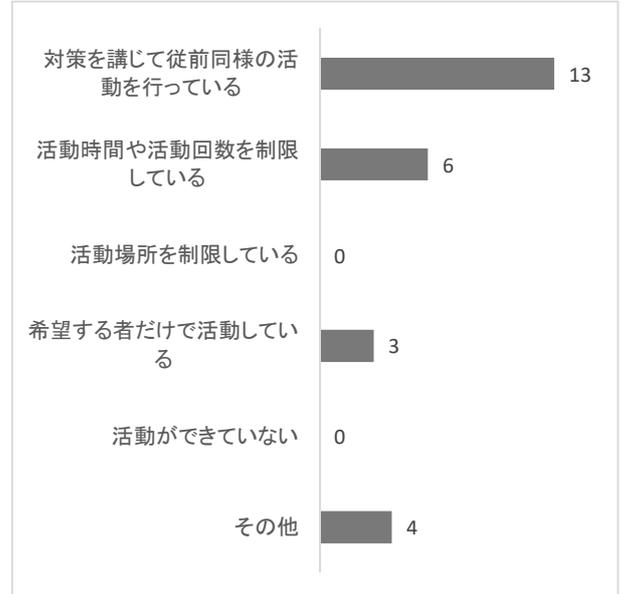
回収率 69.70%

1) 団体の所属人数 2) 登録団体数(略)

3) 団体に所属する会員の居住地(複数回答可)



4) 新型コロナウイルス感染症による活動への影響

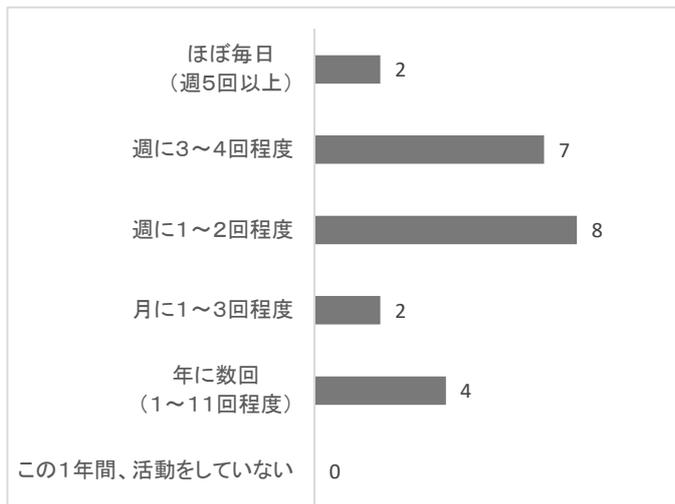


その他回答

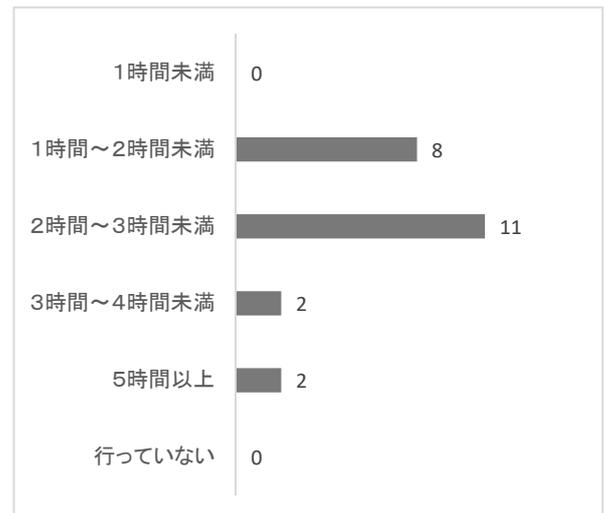
○練習はほぼ例年通り活動できているが、大会やイベントの開催については制限(取り止め)している。

○募集山行の中止 ○大会・行事は全て中止 ○日々の練習はできているが、大会等は活動できていない。

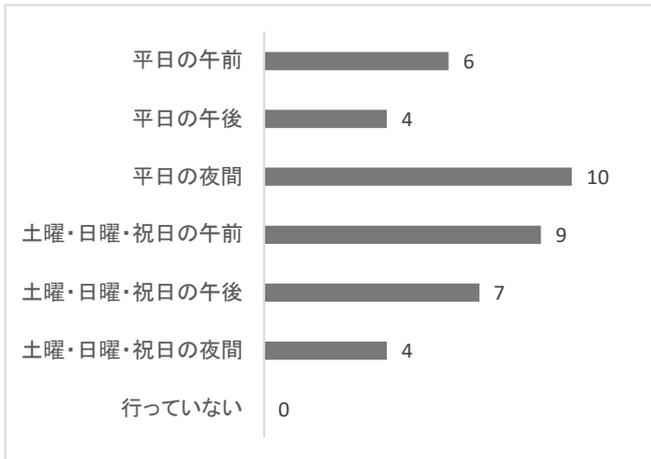
5) 活動(練習)の頻度



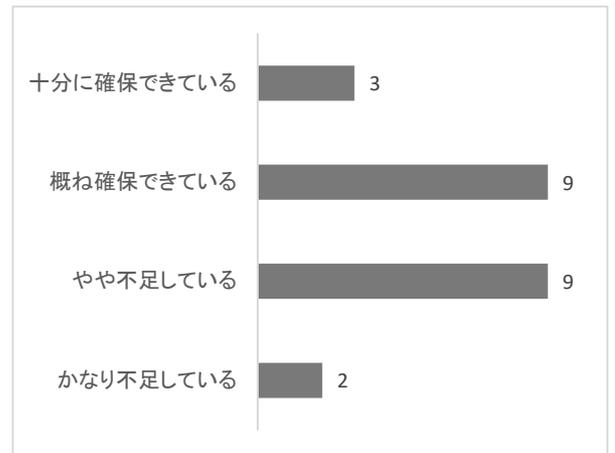
6) 1回の活動(練習)時間の平均



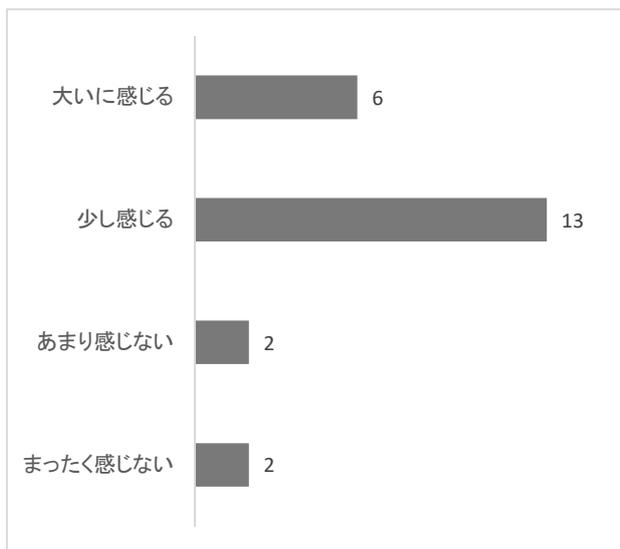
7) 活動(練習)の主な日(複数回答可)



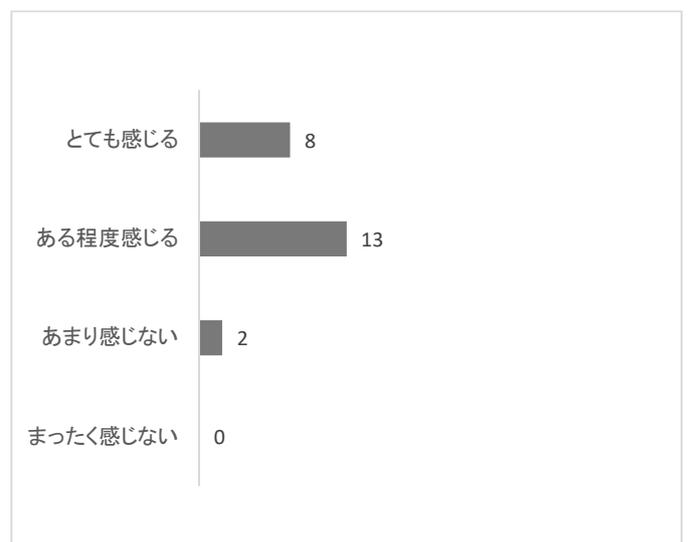
8) 試合や練習を行うための会員数は確保できているか。



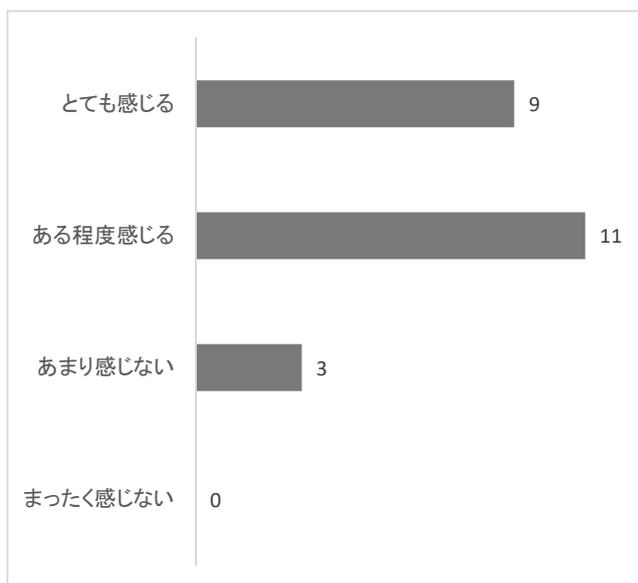
9) 団体の会員数は減少していると感じるか。



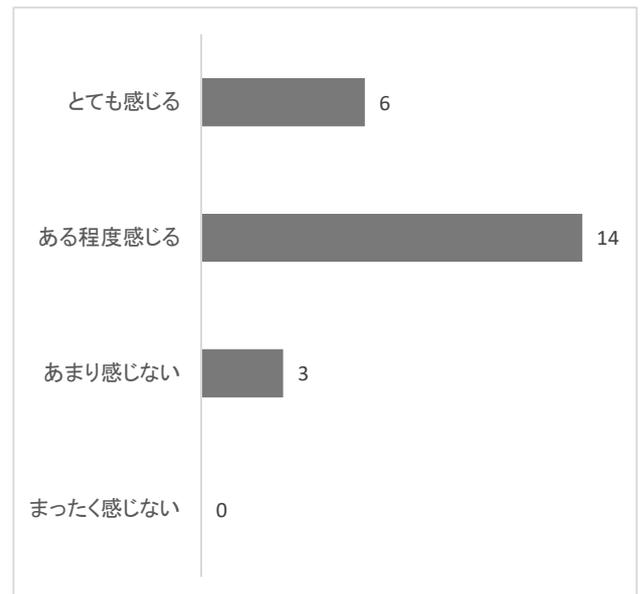
10) 団体の運営を行う人材が少ないと感じるか。



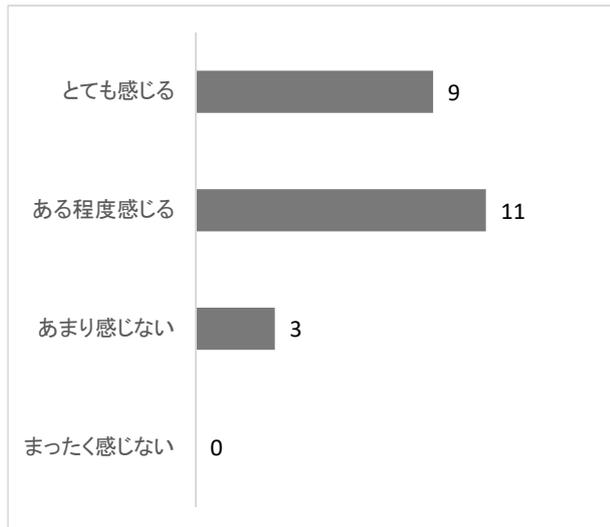
11) 団体の運営を行う者(役員等)の高齢化を感じるか。



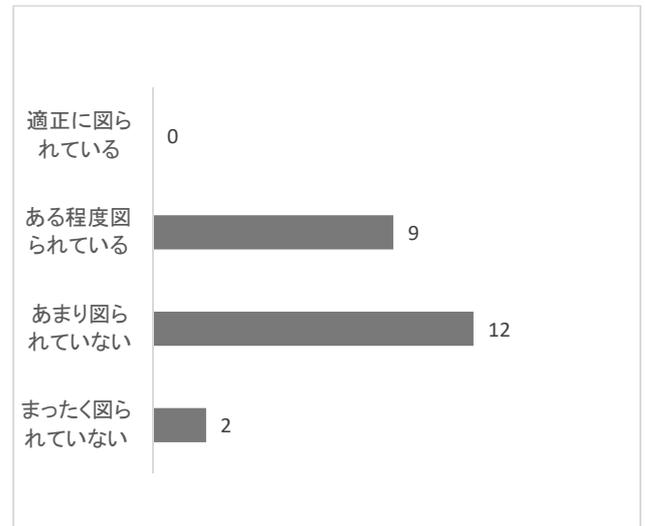
12) 団体の指導者(外部指導者を含む)の数は少ないと感じるか。



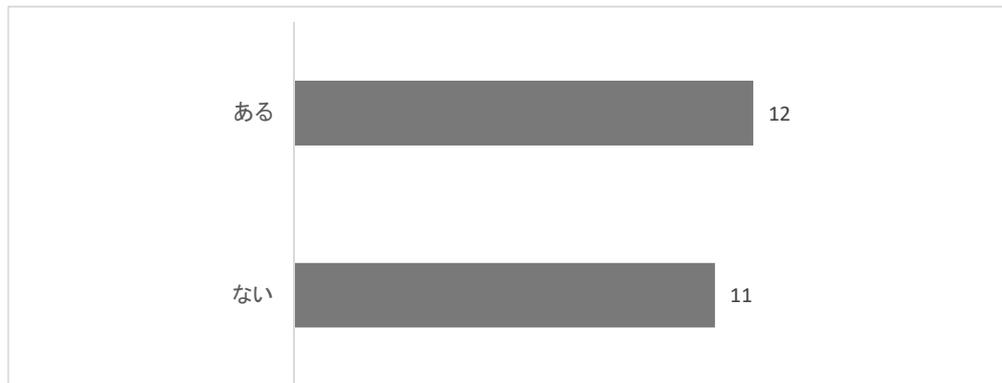
13) 団体の指導者(外部指導者を含む)の高齢化を感じるか。



14) 団体の運営を行う者や指導者の適正な代替わり(若返り)は図られているか。



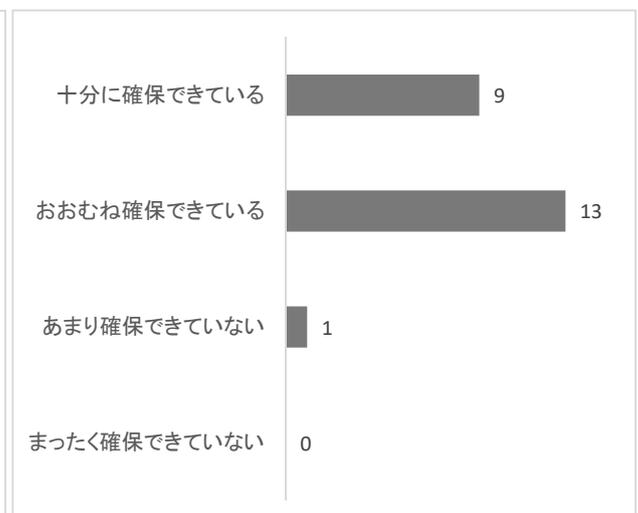
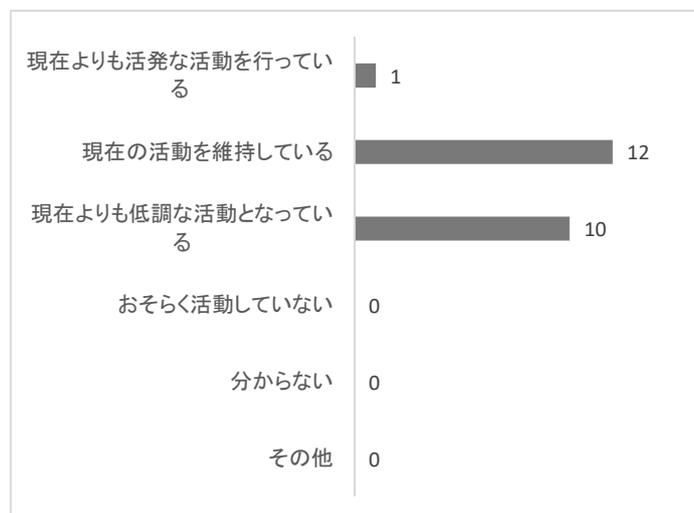
15) 指導者の育成や資質向上のために何か行っていることはあるか。



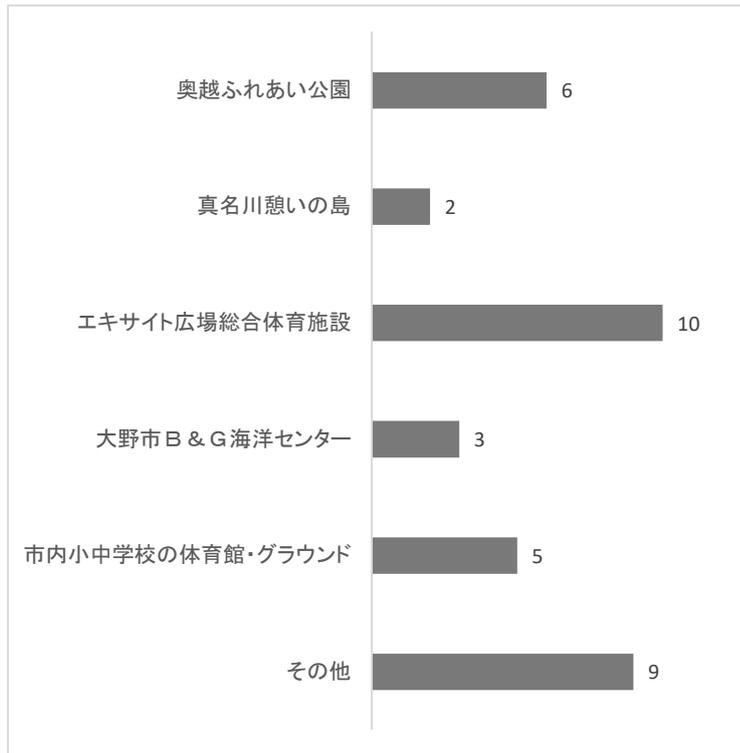
16) 具体的に行っていること

- 講習会・勉強会 ○資格取得の奨励・指導者講習会への参加
- 県主催の指導者講習会、審判講習会に都合をつけて参加する
- 県主催の講習会参加を呼び掛けても応募がない
- 県指導者講習会への参加、資格取得の奨励 ○大会などにおいてベテランからいろいろと指導してもらう
- 指導者講習会、資格取得の奨励、申請料の補助
- 県主催の指導普及認定講習会に参加。新人教室を開催、体験を通してマナーとルールを指導
- 大会運営に必要な研修 ○技術指導毎日実施・マニュアルにて審判練習指導、毎回実施

17) 団体の5年後はどのようなになっていると思われるか。 18) 団体の活動場所は確保できているか。



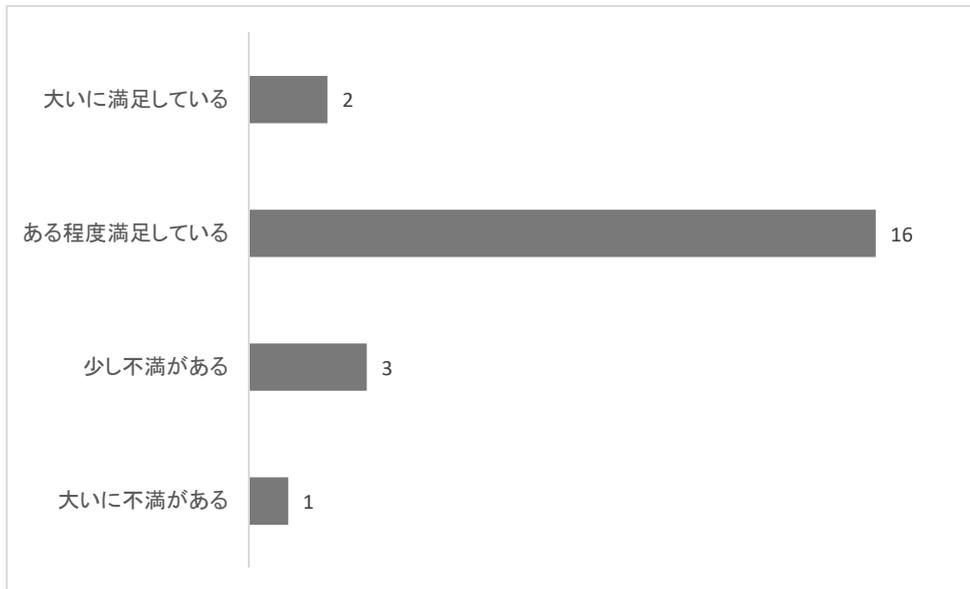
19) 普段の活動(練習)場所(複数回答可)



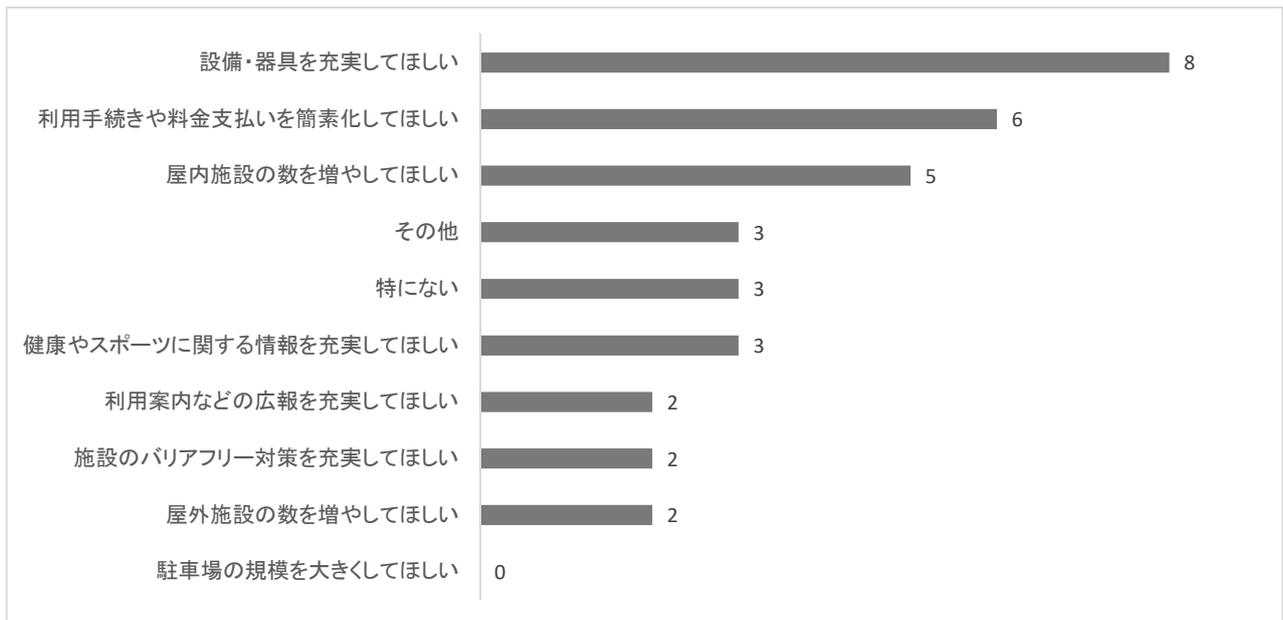
その他回答

- 会館・山
- 県立勝山射撃場
- 青少年教育センター
- 市営コート(亀山コート)
- 公民館の体育館
- 公道
- ジム
- 有終会館(結とぴあ)多目的ホール

20) 市内の公共スポーツ施設の利用の満足度



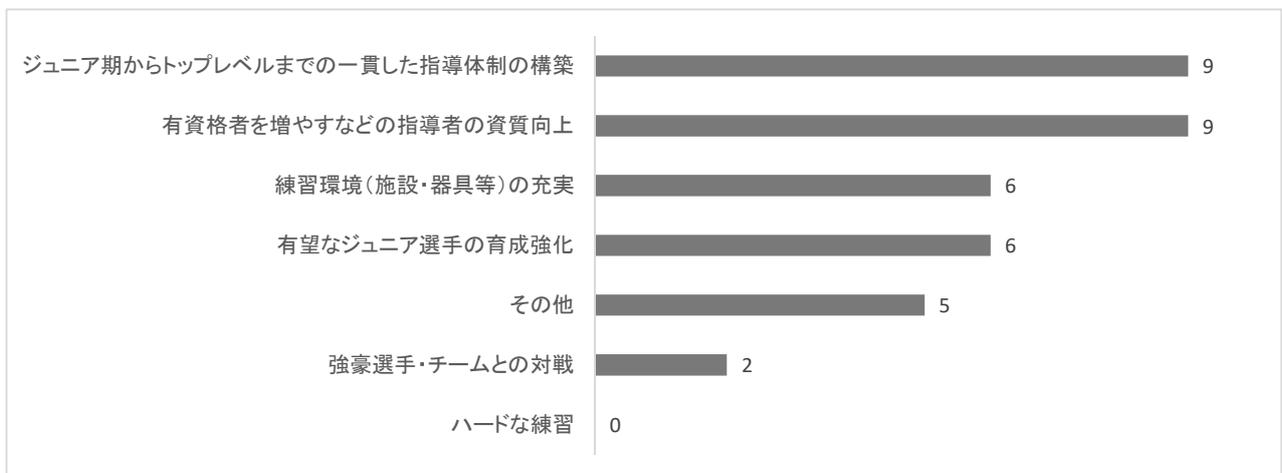
21)市内の公共スポーツ施設に関する要望(複数回答可)



その他回答

- 学校体育館の利用時間を午後10時までとしてほしい。
- ボルダリングの壁・山岳競技内容の変化・スポーツクライミング
- 道具を置く場所を確保してほしい、サンドバッグ、防具、パンチングミット等

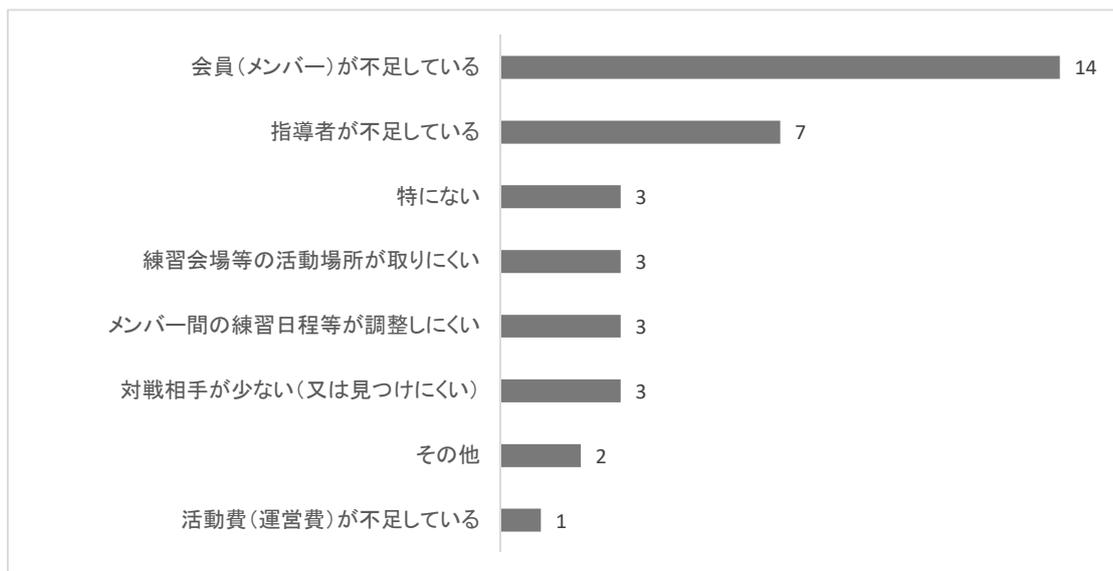
22)競技者の競技力向上に必要なこと(複数回答可)



その他回答

- 小中高及び一般に至る段階的競技力向上のための指導体制、環境整備
- 中学・高校の部活がなく若手が育たない
- 指導者を増やす努力
- 若い世代(20~40代)の拡大
- 私生活の改善

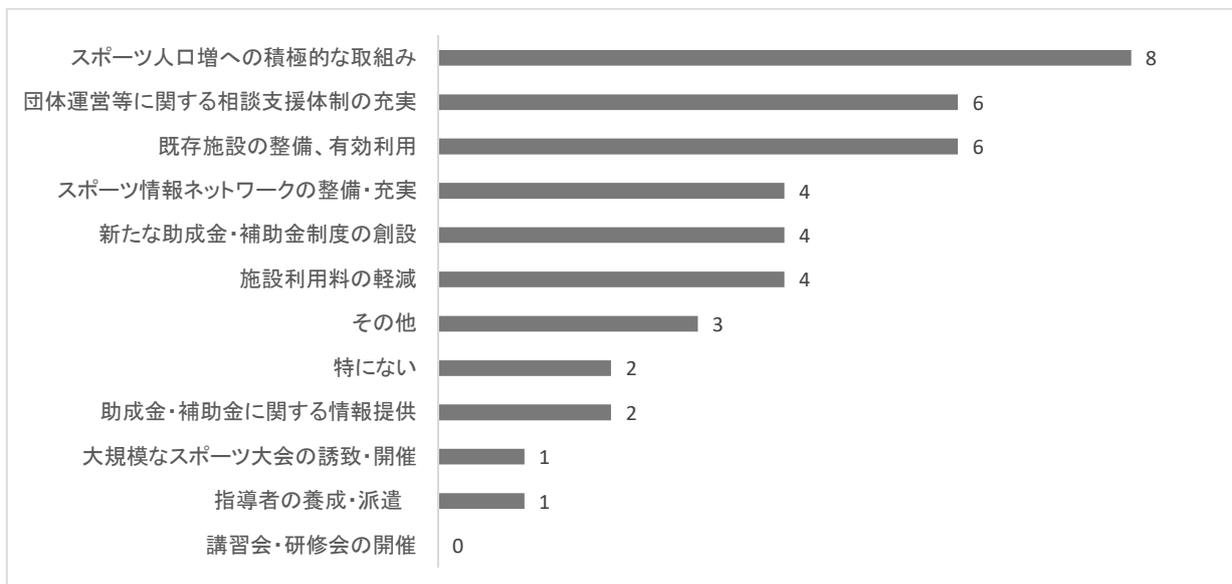
23) 団体の活発な活動の支障になっていること(複数回答可)



その他回答

- 一般の競技者で特に20代、30代の加入が途絶えている(最年少で40代)
- 中学の部活に男子がないため男性会員が育たない。

24) 団体の活動の活性化にあたって行政に期待すること



その他回答

- 利用時間の拡充(早期・夜間時間の拡大)
- 中学を再編し部活を復活させてほしい。
- 子育て世代(20~40代)の親が活動参加できるような社会に変化していければ。子供の送迎や子供の活動につきそう親が多く、自らの活動はしていない傾向に思う。3世代でうまくやればと。
- 大野では60代世代が中心で40~50代が少し。次の世代への移行がこれからの課題

25)市のスポーツ施策全般についての意見や提案等

- 指導ができる教員をすぐに採用してほしい。
- 高校卒業後に福井市や県外に働きに出たり大学に進学してしまい大野市内で生活している若者が少ない。こういった状況のため夜間に練習場所を確保しても練習への参加が難しくなり活動が低調となっている。
- 競技力向上のためにはジュニアからの育成が不可欠である。限られたジュニア(少子化のため)の中から有望な選手を発掘し、市としてどのような支援ができるか、どのスポーツを中心に育成していくか考えていく必要がある。
- 若い人は、団体山行より個人山行を好む傾向にある。山での安全登山や遭難事故対応を考えると団体行動から知恵を学んでほしい。
- スポーツ協会として講座を開催して各団体が講師として参加し、競技人口の拡大を図ってはどうか。
- 勝山市から習いに来ている生徒が10名程度いる。大野市〇〇という名称が適切なのかと思う時もある。奥越という名称に将来なる方が良いとも思う。
- スポーツの推進に尽力いただいておりますが有難く感じている。子供世代、60代の活動は活性化していると思う。中間世代のスポーツ参加の催し等も期待したい。今後もよろしくお願ひしたい。
- エキサイト広場テニスコートの照明の改善
- エキサイト広場や「まちなか交流センター」など利用時間の見直しをお願いしたい。大会運営を考えると現在の時間設定では厳しい。役所基準ではなく、サービスとして考えるべき。市のスポーツを活性化させるために市外県外より多くのチームを呼びたいが開館時間があしかせになっている。
- 健康維持・体力増進心豊かで明るい生活を実現させるほか、楽しくゲームすることが目的である。施設があればなおよい。

アンケート調査結果について

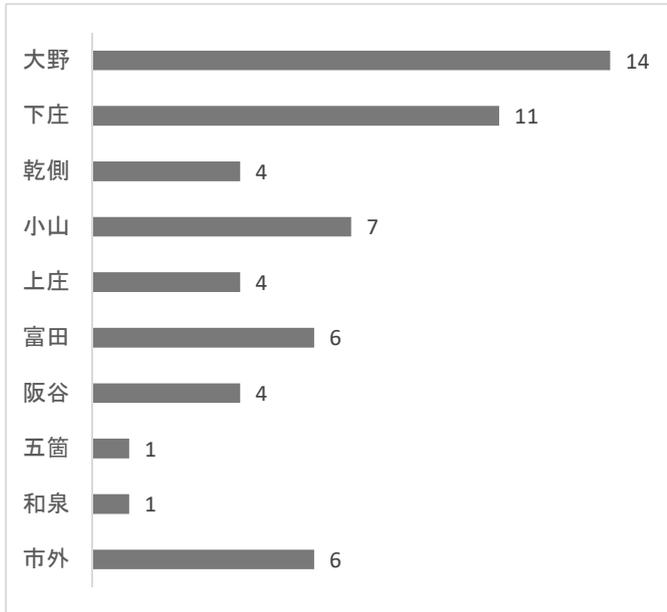
スポーツ少年団・ジュニアクラブ

*アンケート実施期間 令和2年11月～12月
 *アンケート回答団体数 17団体/26団体

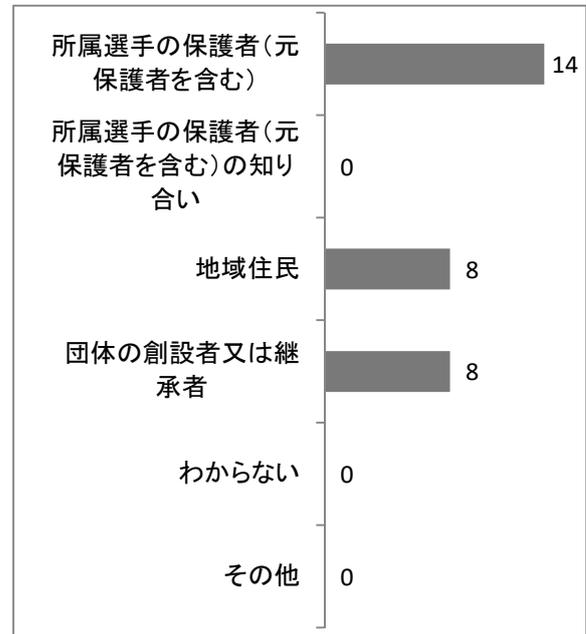
回収率 60.71%

1) 団体の所属選手及び指導者の数 (略)

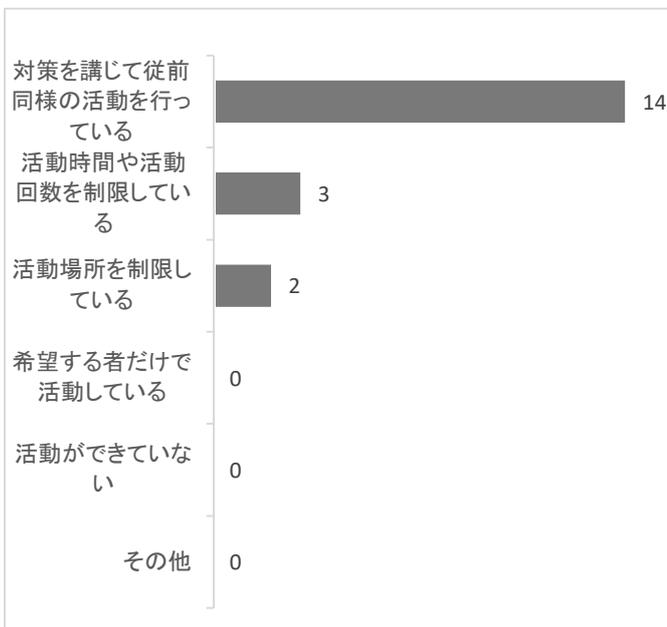
2) 貴団体に所属する選手の居住地
 (複数回答可)



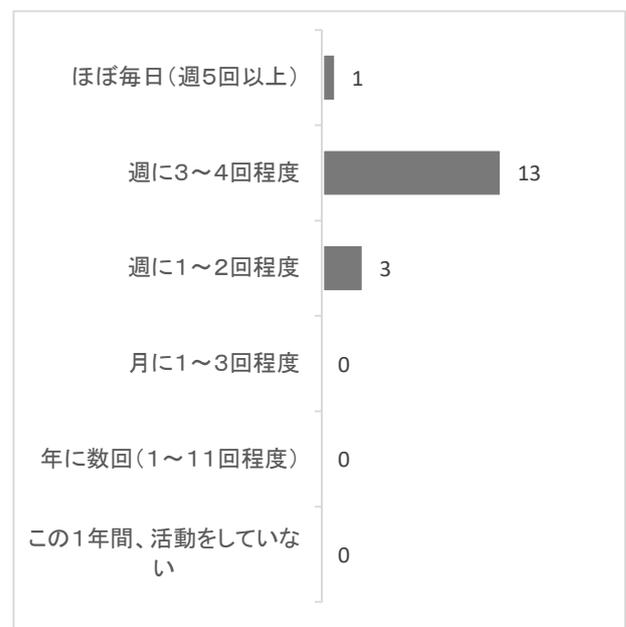
3) 団体と団体指導者との関係
 (複数回答可)



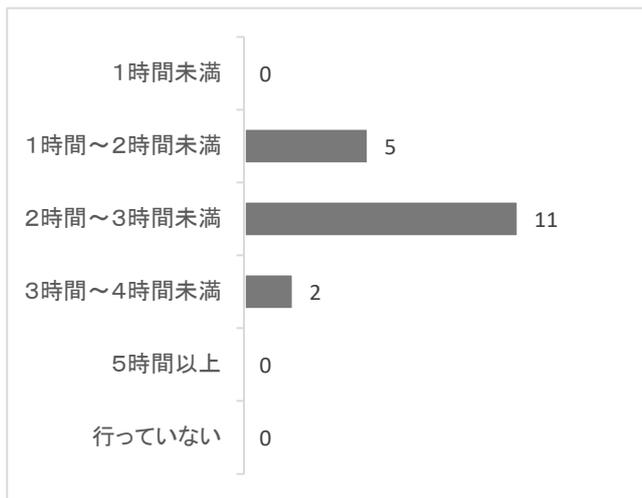
4) 新型コロナウイルス感染症による活動への影響



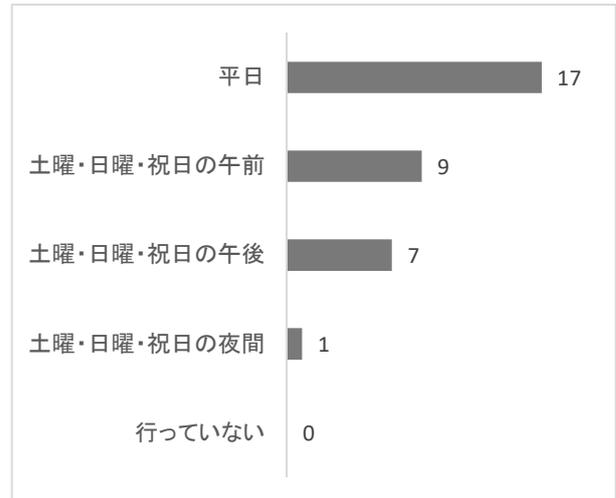
5) 活動(練習)の頻度



6) 1回の活動(練習)時間の平均

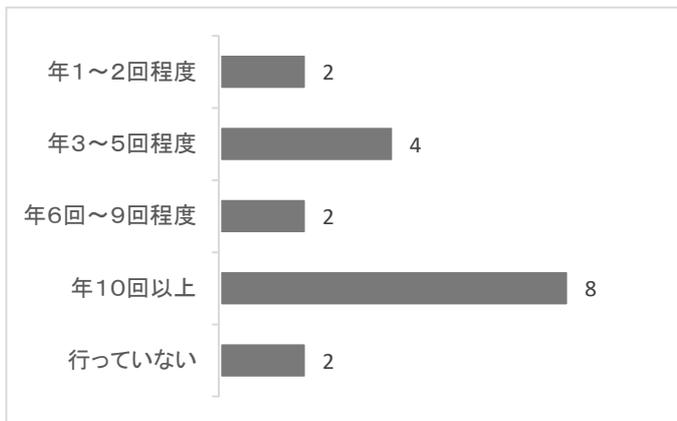


7) 活動(練習)の主な日(複数回答可)

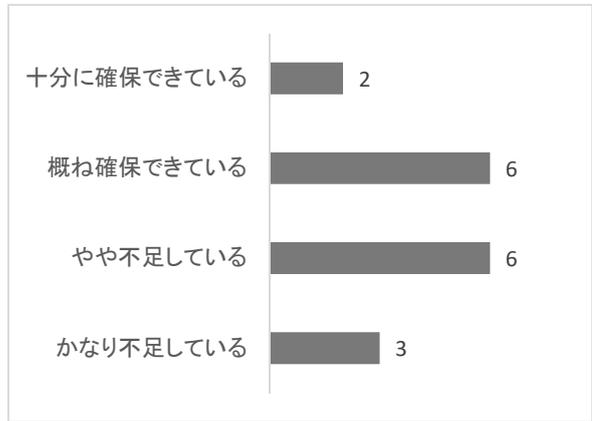


8) 年間を通して市外への遠征(大会参加・合宿等)を行っているか。

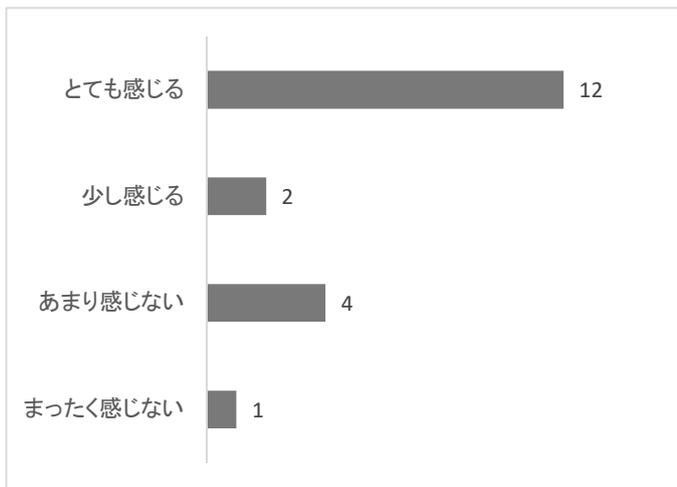
※例年の状況。本年度に結成した団体などは今後の希望。



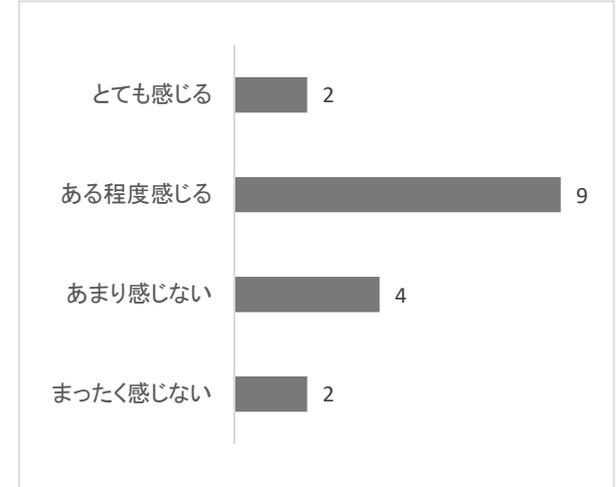
9) 試合や練習を行うための選手数は確保できているか。



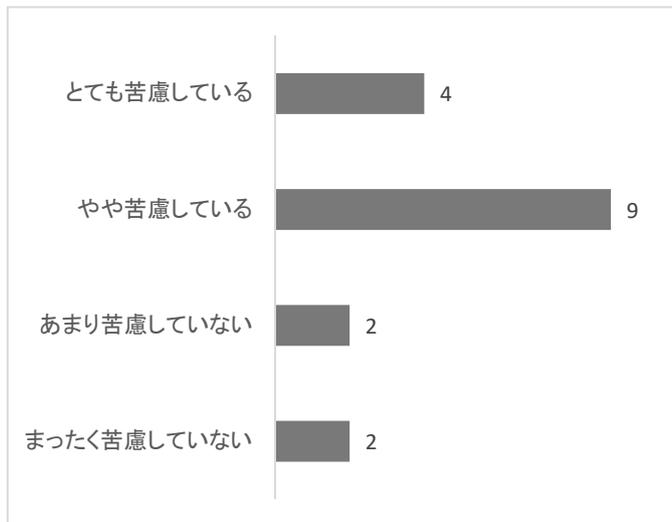
10) 選手数は減少していると感じるか。



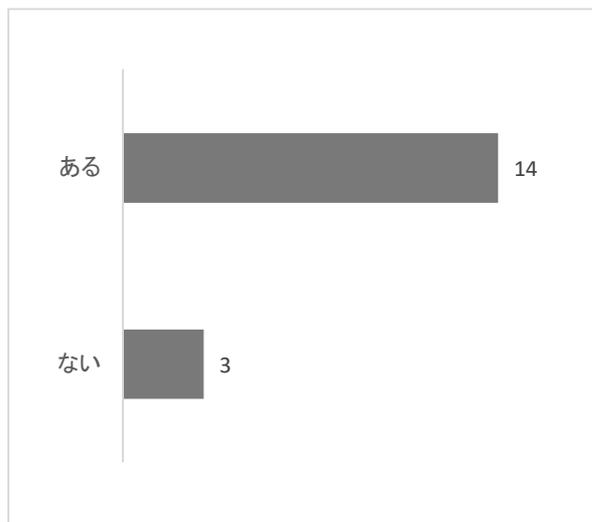
11) 指導者の数は少ないと感じるか。



1 2) 指導者の確保についてどのように感じているか。



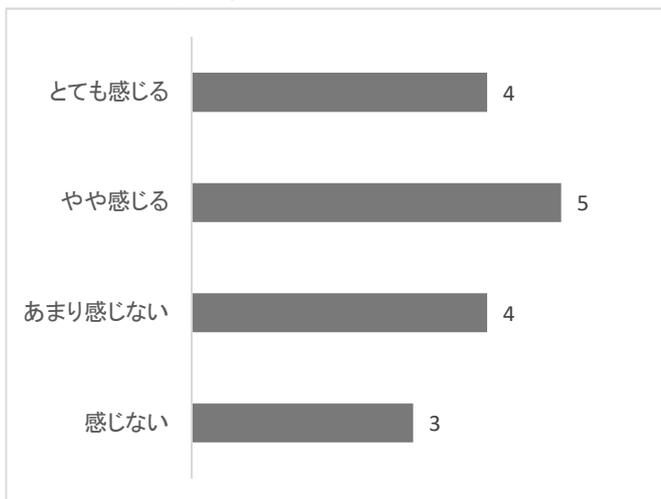
1 3) 活動において、問題や課題に思うことはあるか。



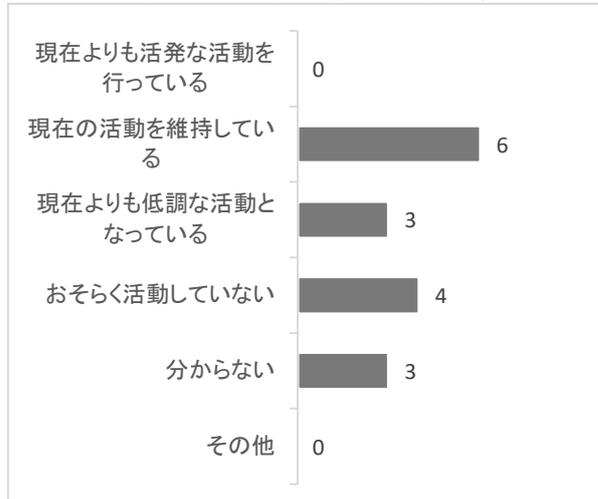
14) 具体的な問題や課題

- 募集をしても参加する子供たちが少なく団員が減ってきている。
- チームの存続が難しい。各学年に1~2人しかいないため、試合での勝利が難しい。
- 小学生1~6年だと差が大きいためコーチも3つのカテゴリーに分けて指導したいが人手が足りない。
- 練習場所、時間の確保 ○冷暖房 ○団員の確保
- メニューによって指導者が不足している。
- 指導者の後継者不足、活動する子供の数
- 現在、複合でスポ少登録しているが、スポ少登録しないと参加できない大会等に参加しているわけではないため、スポ少登録の見直しについて検討中。登録しない場合、施設利用時の減免がなくなることはデメリット。サッカーについては団員が増えているため単位団としての登録を検討。
- 子供の減少で野球をする子供がいない。学童野球の数も数年前から減っていて現在2チーム、6年生の数では10~20人しかいない。中学4校とで選手の取り合いになっている。野球をする子供が減っているにもかかわらず、中学生のチーム数は変わっていない。硬式野球ができて、ナイター設備があるのはふれあい公園のグラウンドのBコートのみ。子供の数、中学生チームの数、設備など改革が必要

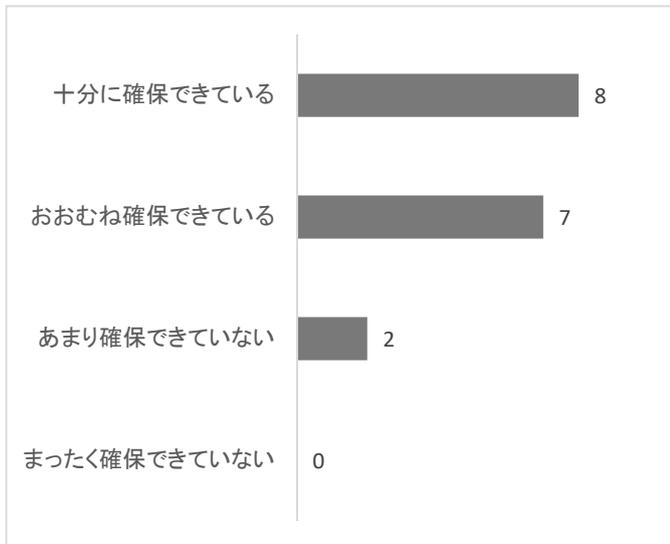
1 5) 競技の審判員の数は少ないと感じるか。



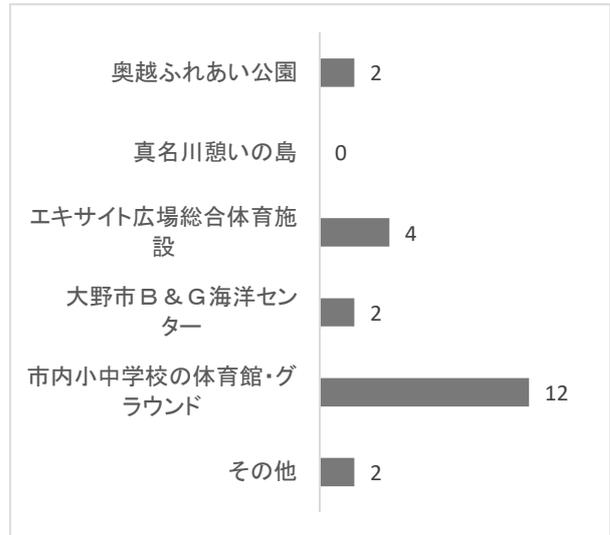
1 6) 団体の5年後はどのようになっていると思われるか。



17) 団体の活動場所は確保できているか。



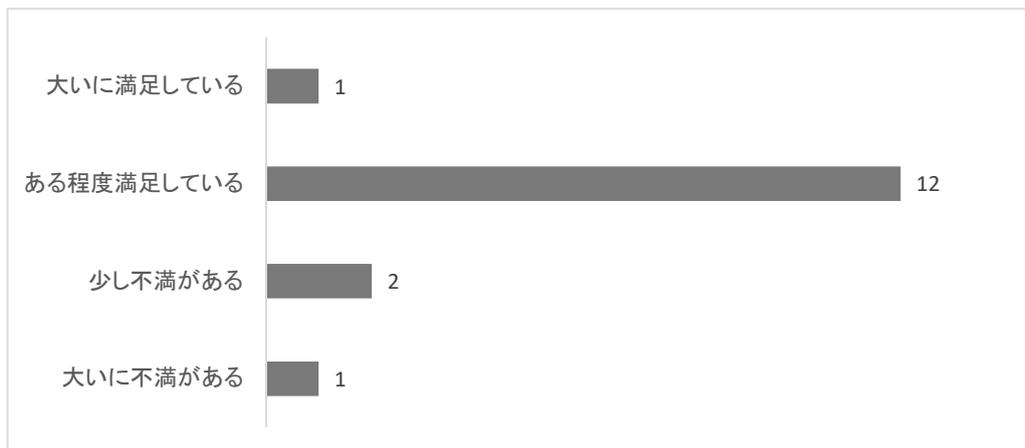
18) 普段の活動（練習）場所（複数回答可）



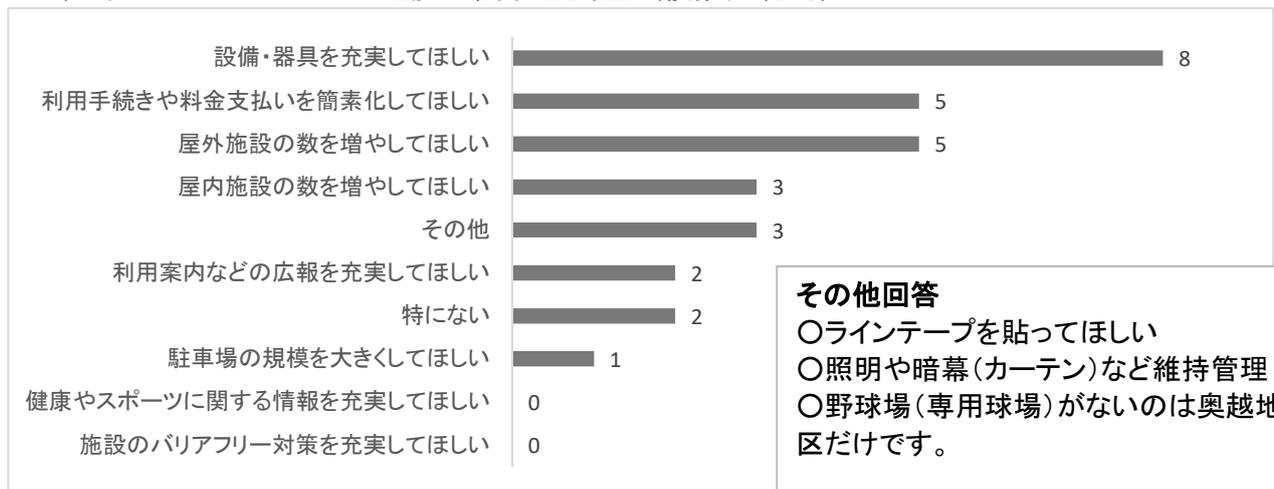
その他回答

- まちなか交流センター
- 企業様に施設の提供を受けている

19) 市内の公共スポーツ施設の利用の満足度



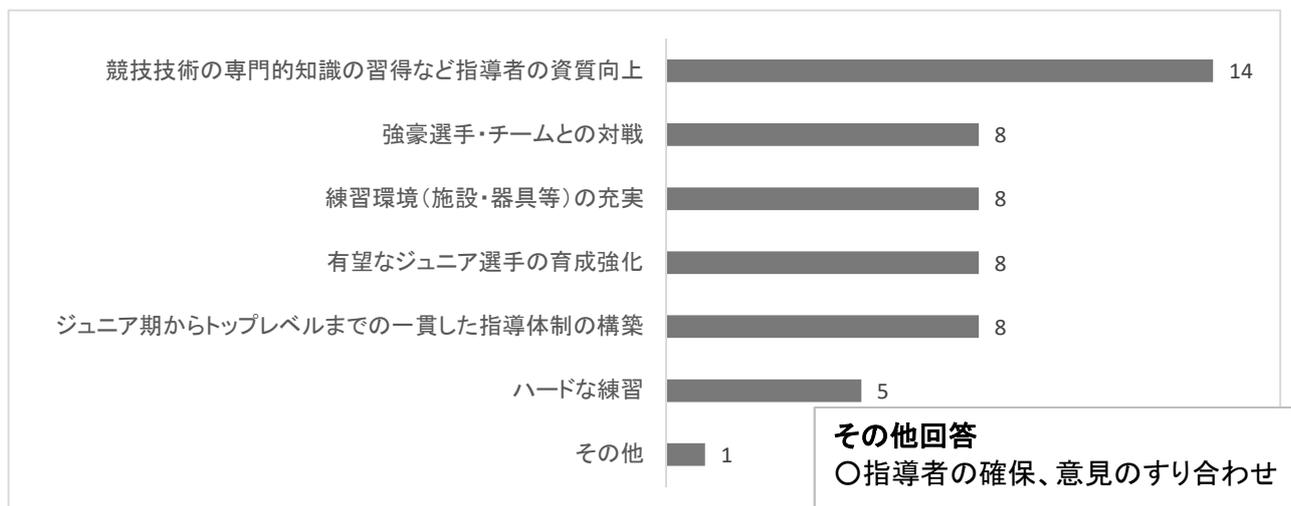
20) 市内の公共スポーツ施設に関する要望（複数回答可）



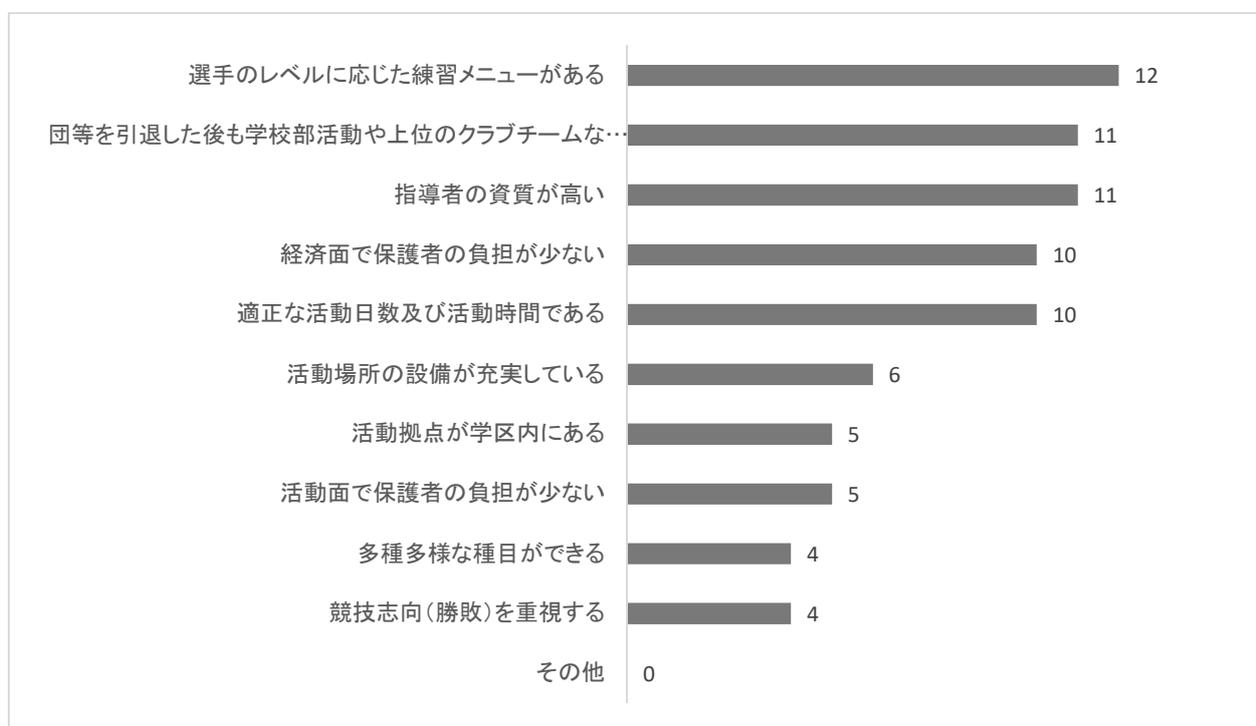
その他回答

- ラインテープを貼ってほしい
- 照明や暗幕(カーテン)など維持管理
- 野球場(専用球場)がないのは奥越地区だけです。

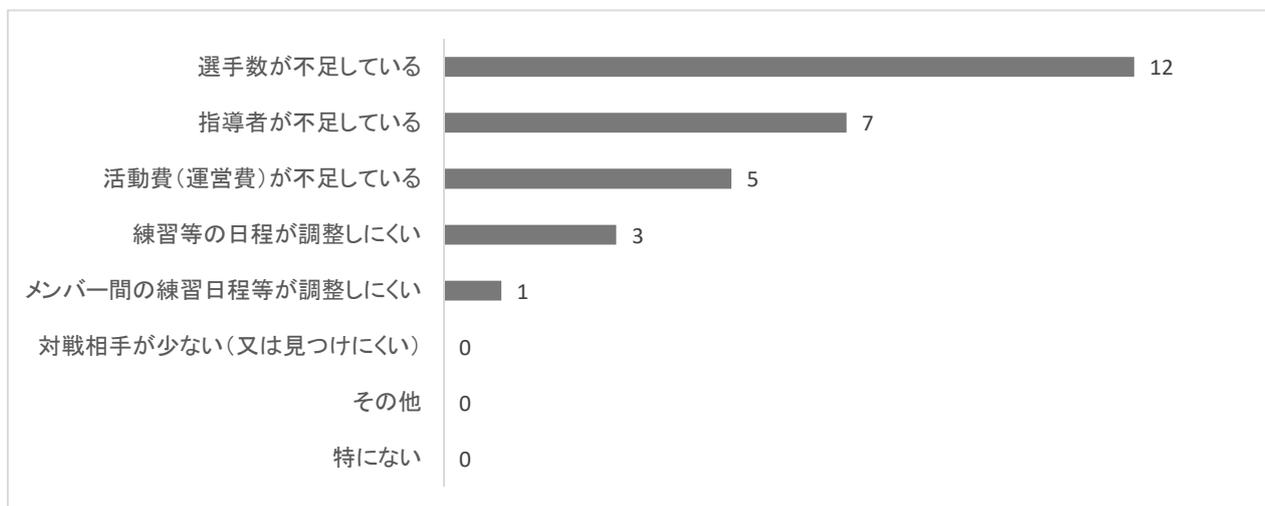
2 1) 選手の競技力向上に必要なこと (複数回答可)



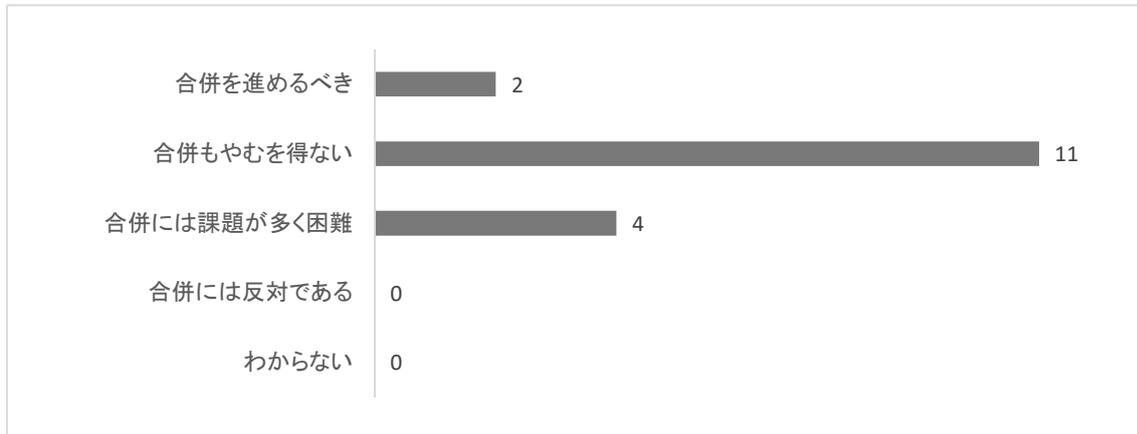
2 2) スポーツ少年団や中学生クラブチームの理想の環境 (複数回答可)



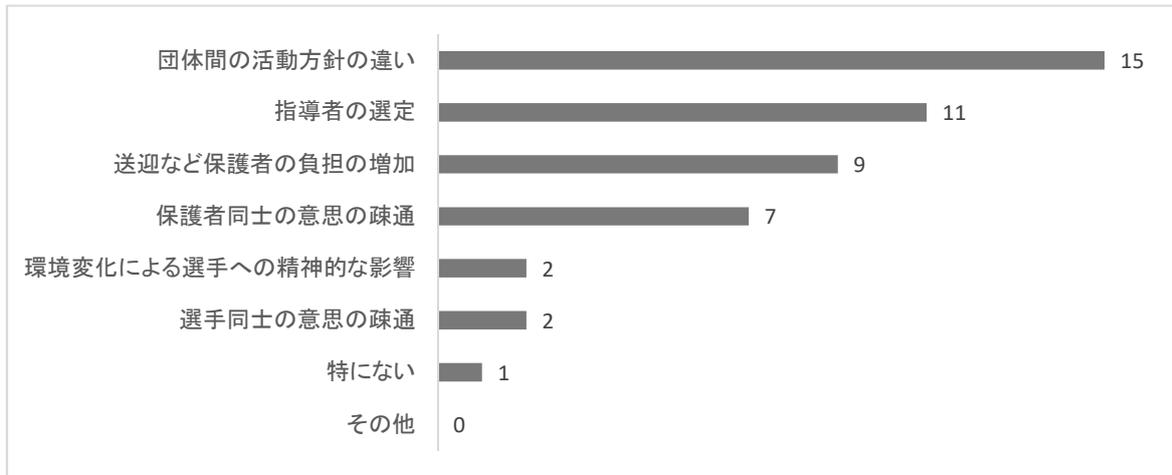
2 3) 団体の活発な活動の支障になっていること (複数回答可)



2 4) 少子化が進む中で選手数を確保するため、他の団体と合併することについて



2 5) 団体の合併に課題となること（複数回答可）



2 6) 市に要望（期待）すること

- グラウンド・ナイター設備等ハード面の充実を期待する。他市町と比べても屋外施設は充実しているとは言えない。
- 中学校のクラブが減少しており選択ができない。学校再編について、できるだけ早く結論を出してほしい。
- 活動内容やスポーツ少年団のことを市からもアピールして下さい。
- 補助金が頂ける講演や行事がもっとたくさんあるとよい。活動費が厳しく、もっと市からもサポートがほしい。
- 施設使用の申請を簡素化してほしい。半年単位での申請、WEB申請等。
- 全体育館にラインテープを引いてほしい。
- 団員数の減少により、スポ少登録も難しくなっている状況。子供・保護者とも話したが他団体へ移籍は考えておらず、最後までこの団体で活動したいとのこと。選手の卒団時期は次年度（選手全員）なので、団員数は少ないが次年度もなんとかスポ少登録をさせてほしい。最後のうちのチームの卒団生となる彼らを最後までしっかり見てあげて笑顔で卒団させてあげたい。スポ少登録ができないとなると次年度の活動自体もあやしくなるので、どうかお願いしたい。
- 各団へ経済的支援があると保護者の経済的負担が減り、より参加しやすくなるのでぜひお願いしたい。
- スポーツ少年団の指導を10年以上していた。中学生クラブチームを作ってもう9年目になる。長く大野の野球に携わっているが、学童野球での練習の質が落ちている。勝利主義はいいが、基本をおろそかにしていて、礼儀や行儀や決まり事など本来プレー前に当然出来なければいけない事がやっていないと思う。
- 学校の再編もいいが、どのチームでも選んで行ける環境をつくってほしい。住んでいる場所で行くチームが決まってしまうのもとても無理がある。
- 施設・設備面では奥越地区に専用球場がなく福井県内でも大変珍しいことになっている。そのため大会を誘致したり出来ず活動がしにくい。1つでいいので球場を作してほしい。現在、ふれあい公園グラウンドのナイター設備を使用しているが高さが低く送球の邪魔になっている。またサイドシフトも低いのでファールボールがグラウンドの外にでてしまう。早急にナイター設備、サイドネットの高さを上げてほしい。子供たちが目一杯野球のできる環境をつくってほしい。

アンケート調査結果について

中学校・高等学校

*アンケート実施期間

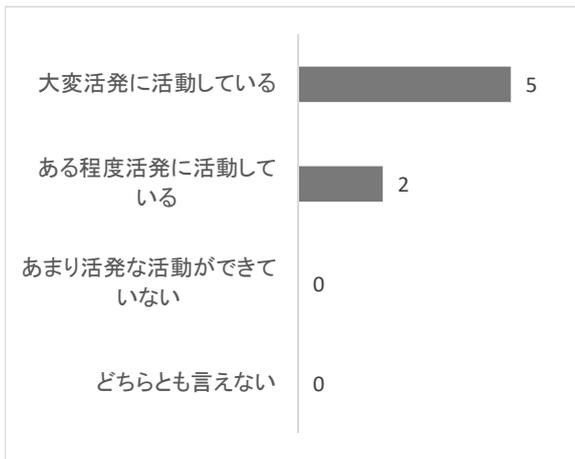
令和2年11月～12月

*アンケート回答校数

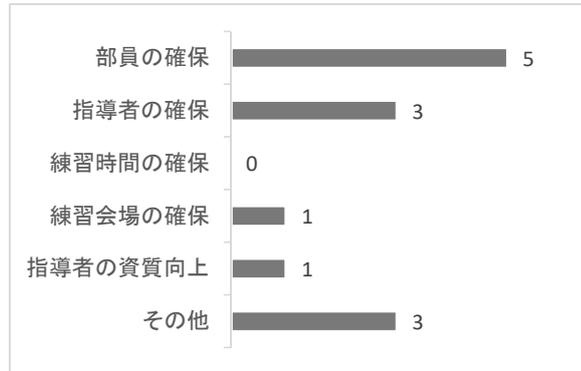
7校

回収率 100%

1) 運動部活動は活発に行われているか。



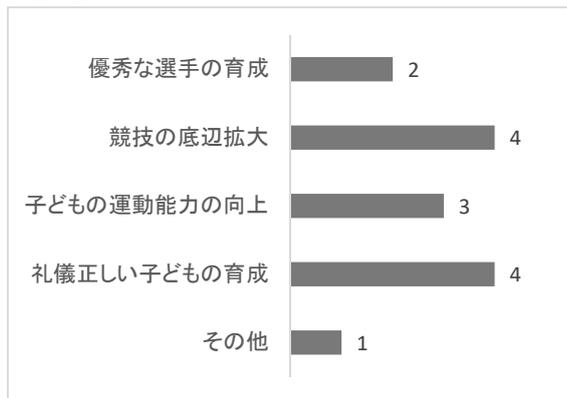
2) 運動部活動の課題 (複数回答可)



その他回答

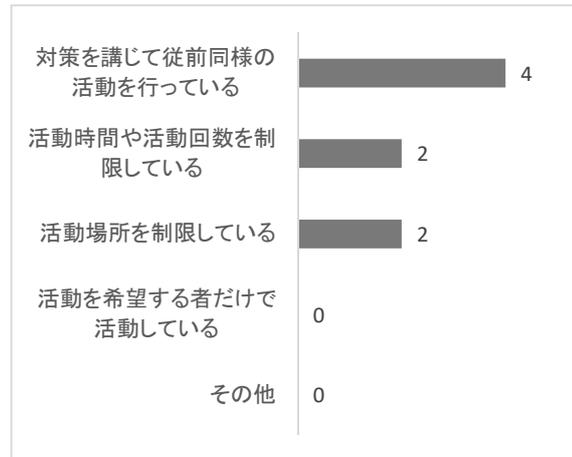
- 競技団体と中体連のねらいのずれ
- 保護者や地域の方との部活動の捉え方のずれ
- 部活数の少なさによる選択肢不足

3) 市内のスポーツ少年団や中学生クラブチームに期待すること (複数回答可)

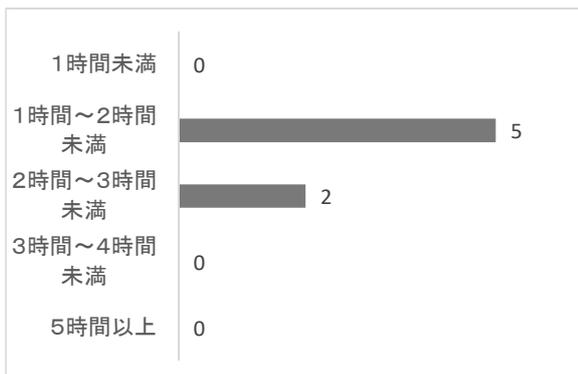


その他回答 ○小・中学校を通じた指導

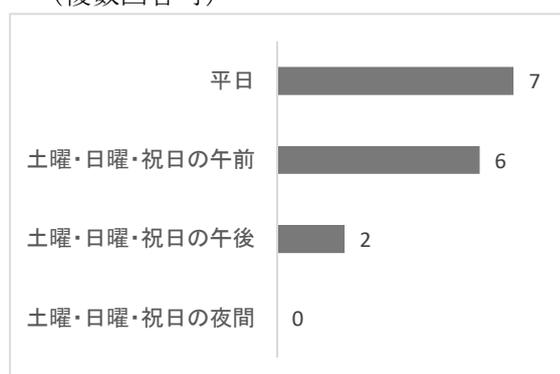
4) 新型コロナウイルス感染症は運動部活動にどのように影響しているか。



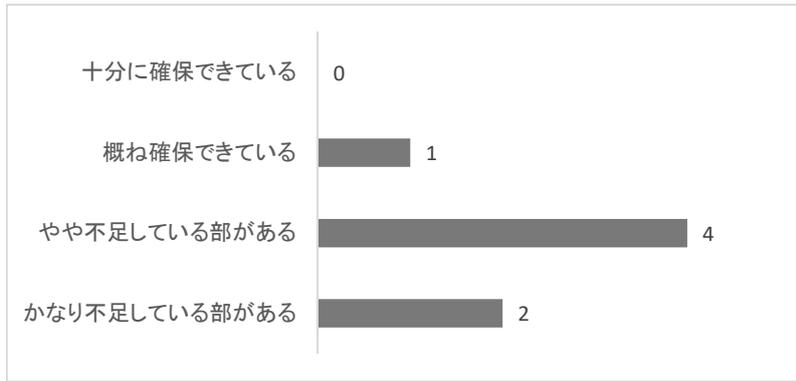
5) 運動部の1回の活動(練習)時間



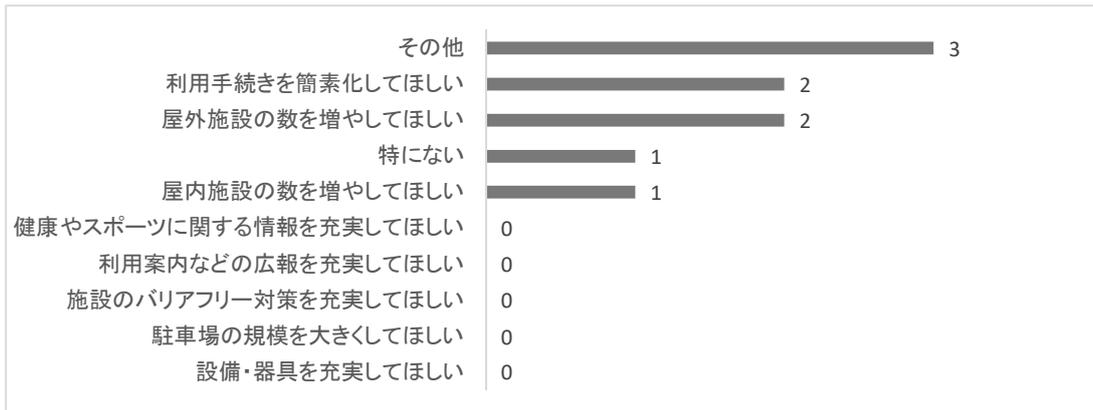
6) 運動部の主な活動(練習)日 (複数回答可)



7) 運動部は試合や練習を行うための部員数は確保できているか。



8) 市内の公共スポーツ施設に関する要望（複数回答可）



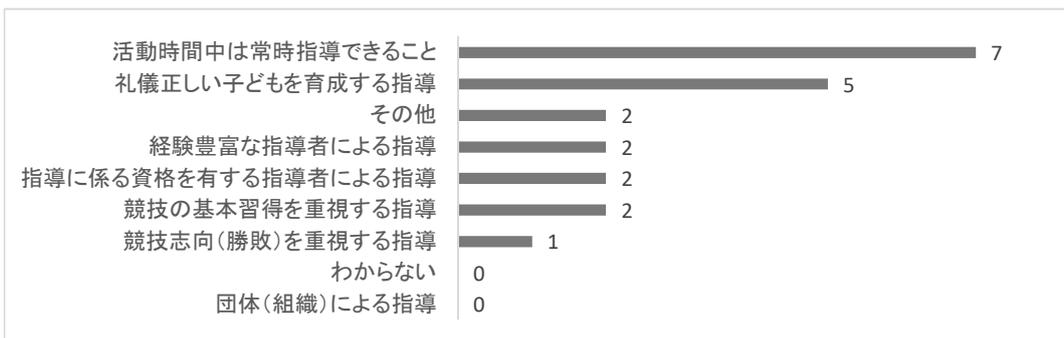
その他回答

- 室内施設のエアコン(未設置の施設に)整備
- 有名トレーナーを招いての講習会の開催
- 屋外競技の室内練習場(雨・雪天時・冬季)があるとありがたい。中縦道ガード下の有効活用等

9) 市内の民間スポーツ団体との連携を望むこと

- 中体連の大会における審判業務に協力いただいております。競技団体主催の大会にはガイドラインに基づく各校の部活動方針に従って参加していることを理解いただき精選をお願いしたい。
- 中学生対象のものをつくってもらい中学生の活動できる場、選べる種目を増やしてほしい。
- 普及活動・若手指導者の育成
- 望まないわけではないが、地理的条件により困難な面がある。
- 小中学生と高校との連携強化、競技毎に選手を育成していく体制の整備(幼小:底辺拡大 中高:競技力向上)

10) 運動部活動の指導を地域の方に任せる場合、どのような指導を望むか（複数回答可）



- その他回答** ○中学校教育に対する理解・部活動方針の遵守 ○学校との情報共有・連携

アンケート調査結果について

社会福祉施設(障がい者施設)

*アンケート実施期間

令和2年11月～12月

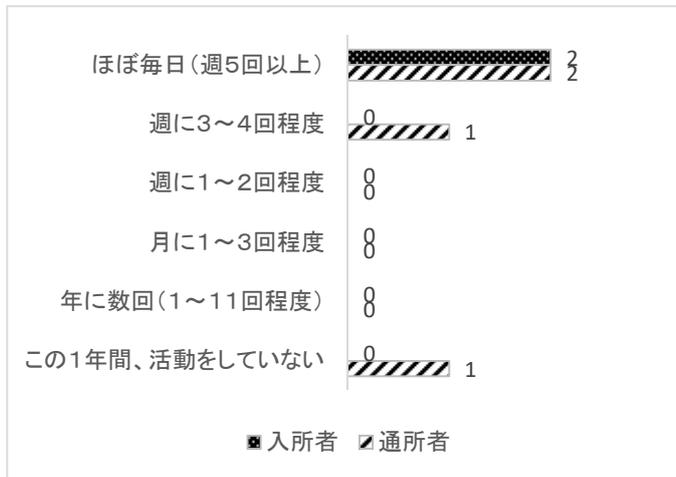
*アンケート回答施設数

4施設/5施設

回収率 80.00%

1) 施設利用者の運動やスポーツ活動にどの程度取り組んでいるか。

2) 入所者等が行っている運動やスポーツ

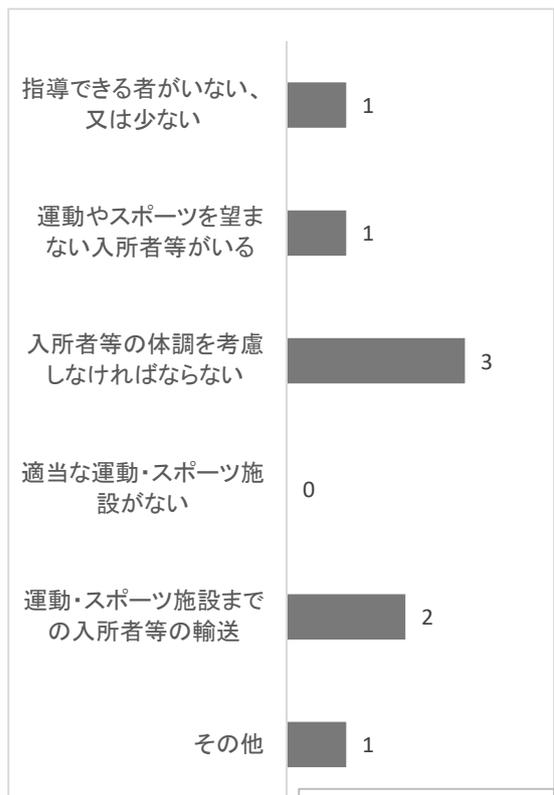
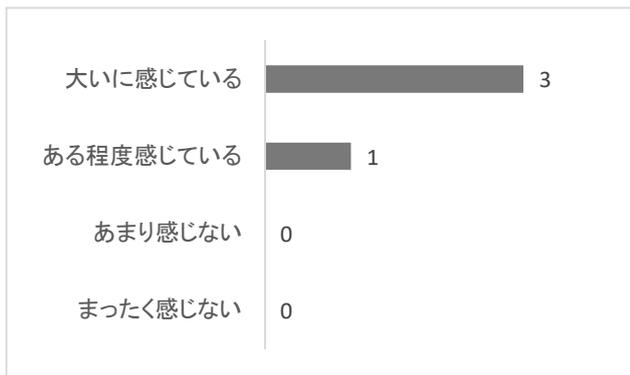


【入所者】
 ○歩行運動・ラジオ体操・リハビリ体操・軽運動(ストレッチ)・ラジオ体操

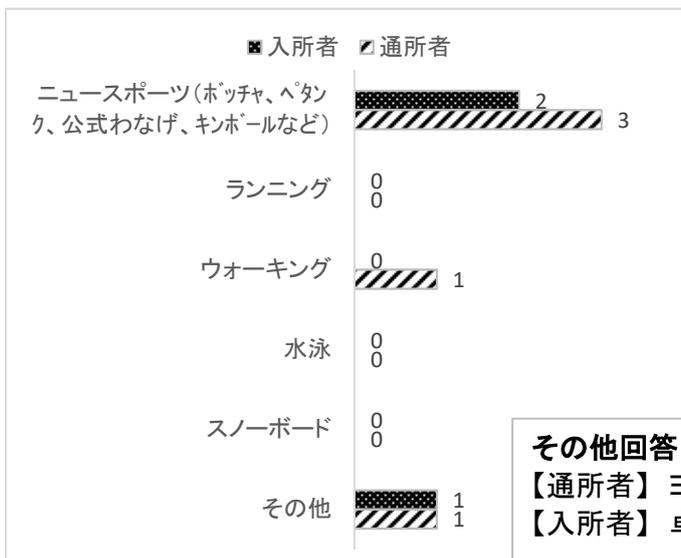
【通所者】
 ○歩行運動・ラジオ体操・リハビリ体操・ラジオ体操・ウォーキング・スポーツレクリエーション

3) 事業所利用者の運動について、どの程度必要性を感じているか。

4) 運動やスポーツを行うにあたって苦慮されていること(複数回答可)



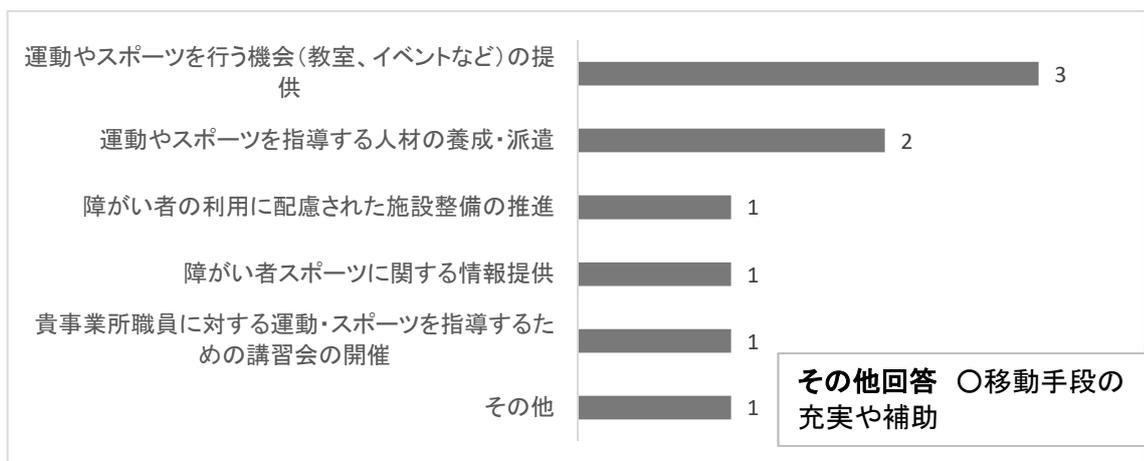
5) 事業所利用者に体験させたい運動やスポーツはあるか。



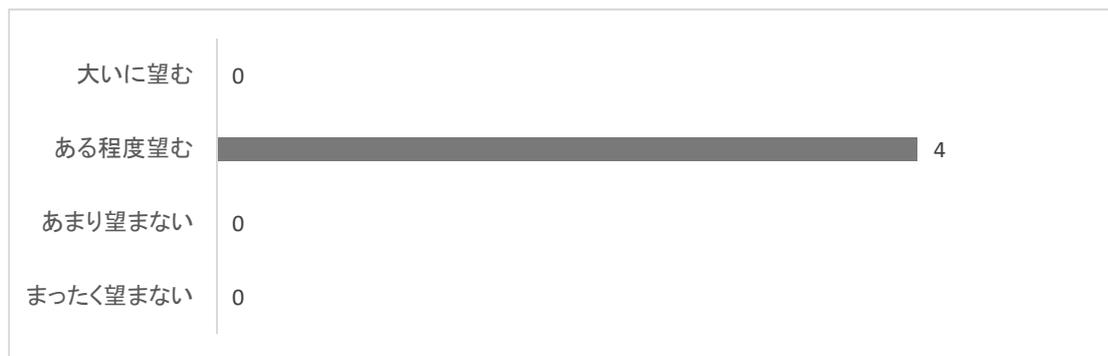
その他回答
【通所者】 ヨガ・ストレッチ
【入所者】 卓球・バドミントン

その他回答
 ○業務スケジュールとの調整・人員配置が難しい

6) 事業所利用者の運動やスポーツを推進するため、市に望むこと（複数回答可）



7) 事業所利用者と健常者とのスポーツ交流を望むか。



8) 障がい者の運動やスポーツを推進することに関して意見や提案等

- 障がい者が毎日楽しく運動やスポーツが出来る環境づくりが大事であるとする。
- 特別な用具やウェアが不要で気軽に安く簡単に出来るスポーツだと事業所でもできるかもしれない。(例えば廊下でできるスポーツ)
- 健康管理の観点からスポーツに参加できる機会の充実は生活の質の向上につながると考えている。社会参加の機会としても意義があることなので、障がい者スポーツの推進に期待している。
- 精神疾患を抱えている方で気分転換が上手にできない方が多いなど日頃の関わりで感じる。事業所に来て頂いて教えてもらえるような人や機会があるとスポーツが身近になっていくと思う。

計画策定の経緯

令和2年9月24日	令和2年度第1回大野市スポーツ推進計画策定委員会
令和2年12月	市民アンケート調査の実施
令和3年3月15日	令和2年度第2回大野市スポーツ推進計画策定委員会
令和3年7月21日	令和3年度第1回大野市スポーツ推進計画策定委員会
令和3年9月29日	令和3年度第2回大野市スポーツ推進計画策定委員会 (一部健康おおの21策定委員会と合同会議)
令和3年11月2日	令和3年度第3回大野市スポーツ推進計画策定委員会
令和3年11月22日	市議会議員全員協議会説明
令和3年12月1日～12月15日	パブリックコメントの実施
令和4年2月2日	令和3年度第4回大野市スポーツ推進計画策定委員会
令和4年2月9日	庁議

大野市スポーツ推進計画策定委員会

No.	所 属	氏 名	役職
1	福井大学教育学部	やまだ たかよし 山田 孝禎	准教授
2	大野市中学校体育連盟	よしだ まさひろ 吉田 正浩	事務局長
3	大野市スポーツ協会	かえりやま まさのぶ 帰山 正信	副会長
4	大野市スポーツ推進委員会	さわだ かずこ 澤田 和子	委 員
5	大野市身体障害者連合会	はやし よりかず 林 順和	会 長
6	大野福祉施設連絡協議会	あさひ まさゆき 朝日 正幸	委 員
7	公募	みしま ゆか 三嶋 友香	
8	公募	こばやし たかし 小林 喬	

大野市スポーツ推進計画

発行 令和4年2月
編集 大野市健福祉部スポーツ推進課

〒912-0044 大野市桜塚町601番地
(大野市エキサイト広場総合体育施設)

電話 0779-66-1111 (代表)
0779-65-5592 (直通)
FAX 0779-66-6308



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。